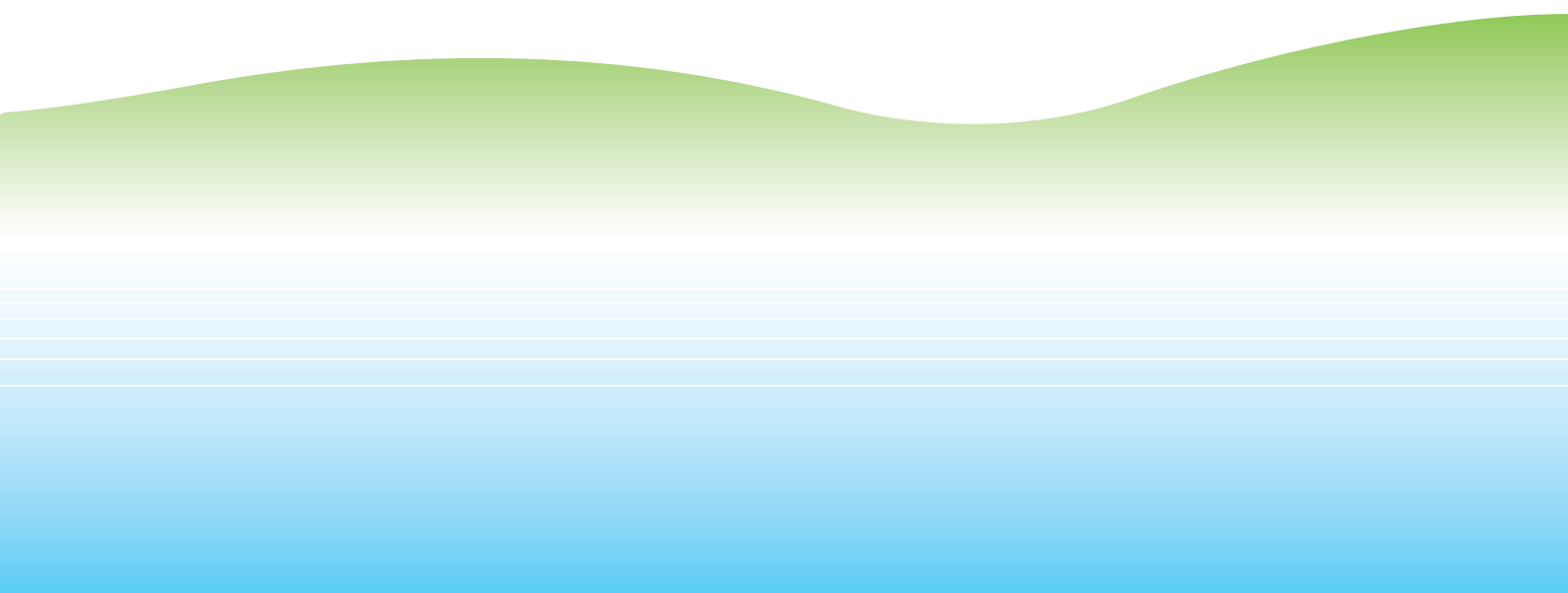


年報 京都大学フィールド 科学教育研究センター

Annual Report

Field Science Education and Research Center,
Kyoto University

No.20 2022



年 報

京都大学フィールド科学教育研究センター

第20号

2022

目次

1. フィールド研の概要

(1) 組織.....	1
(2) 施設等.....	2
(3) 教育研究部.....	3
(4) 管理技術部.....	5
(5) 事務部.....	5
(6) 2022年度の活動（総括）.....	6
(7) 2022年度の主な取り組み（日記）.....	7

2. フィールド研の活動

(1) フィールド研2022年度の主な取り組み	
1) 森里海シンポジウム「みんなで創る里山・里海の未来」（第8回）.....	13
2) 森林の保全・教育・研究活動の促進のための包括連携協定締結.....	14
3) 上賀茂試験地の里山整備と公開森林実習III「森林・里山の生態系サービスを学ぶ」.....	15
4) 舞鶴水産実験所50周年記念シンポジウムと企画展.....	16
5) 瀬戸臨海実験所100周年記念式典・講演会・特別展示.....	17
6) 市民参加による全国の川の水質調査「山の健康診断」.....	18
7) 新しい里山・里海 共創プロジェクトを始動.....	19
(2) 実習報告	
1) 統合科学科目群 森里海連環学実習I：芦生研究林ー由良川ー丹後海のつながりを探る.....	20
2) 統合科学科目群 森里海連環学実習III：暖地性積雪地域における冬の自然環境.....	20
3) 少人数教育科目群 ILASセミナー 「里山の物質循環ー燃料・肥料・食料から考えるー」.....	22
4) 少人数教育科目群 ILASセミナー 「魚類心理学入門」.....	22
5) 少人数教育科目群 ILASセミナー 「京都の海の沿岸動物学入門」.....	23
6) 少人数教育科目群 ILASセミナー 「海洋共生生態学入門」.....	24
(3) 全学共通科目.....	25
(4) 大学院教育・学部教育.....	26
(5) 教育関係共同利用拠点事業	
1) 公開実習科目一覧.....	30
2) 舞鶴水産実験所における教育関係共同利用拠点事業（舞鶴）.....	31
3) 黒潮海域における海洋生物の自然史科学に関するフィールド教育共同利用拠点（瀬戸）.....	32
4) 人と自然のつながりを学ぶ森林フィールド教育共同利用拠点（芦生・北海道・上賀茂）.....	33
(6) 研究活動・外部資金の獲得状況.....	34
(7) 社会連携活動	
1) フィールド研主催事業.....	39
2) フィールド研共催・後援事業.....	39
3) 各施設等主催共催事業.....	39
(8) 広報活動	
1) フィールド研の刊行物.....	40
2) 施設等の刊行物.....	41

3. 各施設等の活動	
(1) 各施設等の活動概要	
1) 芦生研究林.....	43
2) 北海道研究林.....	44
3) 和歌山研究林.....	45
4) 上賀茂試験地.....	46
5) 徳山試験地.....	47
6) 北白川試験地.....	48
7) 紀伊大島実験所.....	48
8) 舞鶴水産実験所.....	49
9) 瀬戸臨海実験所.....	50
10) 森里海連環学プロジェクト支援室.....	50
11) 企画情報室.....	51
(2) 各施設を利用した学生実習等.....	52
(3) 各施設を利用した社会連携教育および野外学習等.....	55
4. 教職員の活動	
(1) 研究成果.....	57
(2) 他大学・各種学校の講義・実習.....	57
(3) 学会等における活動.....	58
(4) 社会貢献活動.....	59
(5) 国際活動.....	65
(6) 研修参加・資格取得等.....	66
5. 資料	
(1) 職員配置表.....	68
(2) 常設委員会名称および委員一覧.....	69
(3) 全学委員会等.....	70
(4) 運営委員会.....	71
(5) 協議員会.....	71
(6) 教育関係共同利用拠点運営委員会.....	72
(7) 新聞・雑誌等に掲載された記事.....	73
(8) テレビ・ラジオ等で放送された番組.....	75
(9) 各施設利用者数.....	76
(10) 瀬戸臨海実験所附属水族館月別入館者数.....	76
(11) 人事異動.....	77
(12) 規程の改正等.....	78

1. 概要

(1) 組織

フィールド科学教育研究センター（以下、フィールド研）は、京都大学が長年に亘って森林域、里域、海域の研究現場としてきた9の施設によって構成される。各施設は、太平洋側から日本海側に至る近畿圏を中心に、北海道から山口県までの広域に位置する。「森里海連環学」を教育研究の中心においている。

フィールド研は、学内共同教育研究施設として各研究科の学生の教育、教員による研究の支援を行うとともに、全学共通教育への科目提供、農学研究科、理学研究科へ協力講座として参画して大学院教育および学部教育を行い、大学院地球環境学舎へ協力分野として参画している。また、学内外の学生や研究者の教育研究を支援しており、5施設（3拠点）が文部科学省から教育関係共同利用拠点に認定されている。吉田キャンパス北部構内に森林系図書室、瀬戸臨海実験所に瀬戸臨海実験所図書室を有する。なお、2018年度に設置した森里海連環学教育研究ユニットは、2021年度末で活動終了となった。

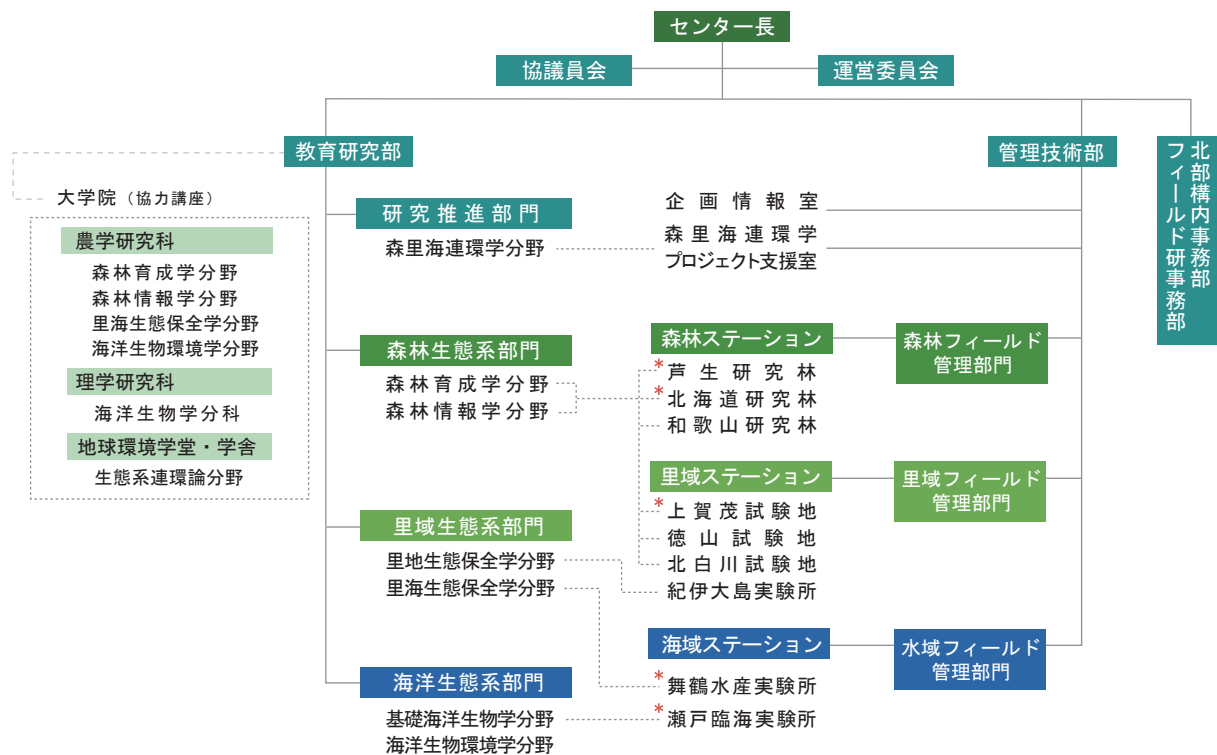
教員は教育研究部に属し、森—里—海の連環を軸とした教育・研究を進めている。技術職員は管理技術部に属し、フィールドの管理・運営および基礎情報の収集、情報管理、技術開発、教育研究支援を行っている。事務職員は、フィールド研事務部および共通事務部である北部構内事務部に属している。フィールド研本部は本学吉田キャンパス北部構内に置かれている。

センター長

朝倉 彰

副センター長

館野 隆之輔



* 教育関係共同利用拠点（文部科学省）

(2) 施設等

森林ステーション

- 芦生研究林 京都府南丹市美山町芦生 林長 石原 正恵
1921年設置（芦生演習林）／面積4,185.6ha／常駐教職員11人
- 北海道研究林 林長 小林 和也
標茶区 北海道川上郡標茶町多和553
1949年設置（農学部附属北海道演習林標茶区）／面積1,446.8ha／常駐教職員10人
白糠区 北海道白糠郡白糠町西二条北8-1-10
1950年設置（農学部附属北海道演習林白糠区）／面積880.4ha
- 和歌山研究林 和歌山県有田郡有田川町上湯川76 林長 徳地 直子
1926年設置（農学部附属和歌山演習林）／面積842.0ha／常駐教職員3人

里域ステーション

- 上賀茂試験地 京都市北区上賀茂本山2 試験地長 舘野 隆之輔
1926年設置（農学部附属演習林上賀茂試験地）、1949年移転／面積46.8ha／常駐教職員7人
- 徳山試験地 山口県周南市徳山鉢窪10769 試験地長 徳地 直子
1931年設置（農学部附属徳山砂防演習地）、1942年移転（農学部附属演習林徳山試験地）、1966年再移転
／面積41.9ha
- 北白川試験地 京都市左京区北白川追分町 試験地長 徳地 直子
1924年設置（農学部林学科苗畑）1925年所管替（農学部附属演習林本部試験地）／面積1.3ha／常駐教職員2人
- 紀伊大島実験所 和歌山県東牟婁郡串本町須江 所長 徳地 直子（-2022.9.）
／甲斐 嘉晃（2022.10.-）
1937年設置（農学部附属大島暖帯植物試験地）、1967年改称（亜熱帯植物実験所）／面積11.8ha／常駐教職員0人

海域ステーション

- 舞鶴水産実験所 京都府舞鶴市長浜 所長 益田 玲爾
1947年設置（農学部水産学科）1972年設置（農学部附属水産実験所）／面積2.0ha／常駐教職員8人
- 瀬戸臨海実験所 和歌山県西牟婁郡白浜町459 所長 下村 通誉
1922年設置（理学部附属臨海研究所）、1930年水族館一般公開開始、1938年改称（瀬戸臨海実験所）、
1968年島島実験地を取得／面積6.8ha（島島実験地2.7haを含む）／常駐教職員13人

（京都本部地区（吉田キャンパス北部構内）／常勤教職員16人）

会議室・センター長室・森林系図書室・研究室・実験室・事務室など : 農学部総合館
j. Pod（京大フレーム工法）実証実験棟 *
連携研究推進棟 *・北部総合教育研究棟
隔地教員研究室 : 旧演習林事務室棟 *
森林/里域フィールド管理部門・森里海連環学プロジェクト支援室 : 北白川試験地事務室棟 *

* 北白川試験地内

(3) 教育研究部

教育研究部は、研究推進部門、森林生態系部門、里域生態系部門、海洋生態系部門の4部門、7分野から構成される。

研究推進部門

本部門では、森里海連環学に関わる研究プロジェクトや教育活動を実施している。この部門には、森里海連環学プロジェクト支援室が設置されており、フィールド調査や化学分析を支援している。

森里海連環学分野

日本の沿岸域生態系は、多様な海洋生物を育んできたが、近年は深刻な問題を抱えるようになった。人間の過剰な経済活動が、水質汚染や藻場・干潟の消失を引き起こし、ダム建設、埋立や河川横断構造物建設といった経済開発による水・砂の流系の分断が生態系間のつながりを破壊している。当分野では、森里海連環学を通して、森から海までのつながりと人間の関わり方を統合的に管理していくことによって、問題の解決を図ろうとしている。

[教員] 赤石 大輔 (特定講師) (2022.10. - 2023.3.)

森林生態系部門

本部門は、3ヶ所の研究林と3ヶ所の試験地の管理と運営を担当し、森林生態系に関するフィールド教育・研究活動を展開している。生態系サービスや多面的機能の定量的評価や社会的評価を目標として、森林生態学、森林育成学、森林管理学、生物地球化学などさまざまな分野にわたる手法と概念を用いて総合的に解析している。森里海連環学への取り組みとして、森林生態系と水域生態系間の生物と物質のつながりも研究している。

森林育成学分野

森林育成学分野では、森林生態系サービスをバランス良く享受できる森林資源の育成と管理、利用方法の構築を目的とし、窒素等の物質循環を通じた森林生態系機能と更新機構を中心とした森林動態の解明に関する研究を行っている。さらに、シカによる植生被害の影響および対策や、生態系情報に基づく持続可能な森林資源の育成・利用方法に関する技術的研究にも取り組んでいる。当分野は、協力講座として農学研究科に森林育成学分野を提供している。

[教員] 徳地 直子 (教授) ・長谷川 尚史 (准教授) ・伊勢 武史 (准教授) ・石原 正恵 (准教授) ・
佐藤 弥 (連携准教授) ・May Thet Su Kyaw Tint (特定助教) (2022.12. -2023.3.)

森林情報学分野

森林情報学分野では、森林から流域に流出する物質と森林環境の関係や、伐採等の人間活動が植生・土壌・流域の物質循環系におよぼす影響など、森と流域の連環について研究している。さらに、国産材の流通・消費の変化を解析することで、適切な森林資源の管理手法を検討している。これらの研究をもとに、地球環境変化や社会環境の変化もとの森林流域生態系の変化を把握するとともに、適切な森林利用と管理をするために人びとの森林環境に対する意識調査に取り組んでいる。当分野は、協力講座として農学研究科に森林情報学分野を提供している。

[教員] 館野 隆之輔 (教授) ・吉岡 崇仁 (特任教授) ・小林 和也 (准教授) ・
坂野上 なお (助教) ・中西 麻美 (助教) ・松岡 俊将 (助教) (2022.4.-) ・
杉山 賢子 (助教) (2022.5.-) ・赤石 大輔 (特定助教) (-2022.9.) ・横部智浩 (特任助教)

里域生態系部門

山間部から沿岸部に至る広く、変化に富む地域は、人間の関与が様々な強度で継続しており、自然と人間の相互作用、もしくは人間と自然との共生によって生み出される特有の生態系を形成する。この生態系には、農業、林業、水産業という人間の生活を維持するために必要な基本的な生業による二次的自然が含まれるほか、居住域としての農山漁村や都市も含まれる。これらの人間が与えるインパクトを把握することは、現在の地球環境問題の本質の把握にも通じるものであり、本部門ではそのために不可欠な人間-自然相互作用環の解明を多くの視点から実践し、その共生システム構築のための教育研究を行う。

里地生態保全学分野

里地生態保全学分野では、人里と一部に里山や里海、里空を含む、いわゆる里地に分布するかく乱依存性植生ならびにかく乱依存性植物の起源、伝播、歴史および生態的特性を、文明や地域文化的多様性とその変容と関連付けながら明らかにし、それらの管理保全体系ならびに持続的共存に関して考察をしている。

[教員]

里海生態保全学分野

里海生態保全学分野では、魚介類の生態、行動、系統分類などについて、多様な視点から研究を進めている。また、陸域の環境と人間活動が沿岸域の生物生産機構に与える影響を調べている。森から海までの生態系のつながりの分断によって、海の生態系が劣化しているという仮説を検証し、そのメカニズムの解明をめざす。当分野は舞鶴水産実験所および教育研究ユニット生物多様性・生態学的メカニズムグループ（吉田キャンパス）を教育研究の拠点とし、協力講座として農学研究科に里海生態保全学分野、地球環境学舎に水域生物環境論分野を提供している。

[教員] 益田 玲爾（教授）・甲斐 嘉晃（准教授）・鈴木 啓太（助教）・邊見 由美（助教）・高橋 宏司（助教）・中川 光（特任助教）（2022. 4. -2022. 5.）・伊藤 岳（特任助教）（2023. 3. -）

海洋生態系部門

本部門では、海洋生物を研究材料として用い、分類学、進化生物学、発生生物学、生理生態学、生物地理学といった様々な基礎生物学的な研究教育活動を、分子レベルから生態系レベルにわたって広範囲に展開している。更にその研究フィールドを熱帯域・北方域へと地球規模に広げながら、環境生物学や保全生物学といった応用的な領域へと、その教育研究活動の内容を拡大している。

基礎海洋生物学分野

基礎海洋生物学分野では、海洋生物の多様性と進化プロセスを解明するための自然史研究を行っている。系統分類学は、形態および分子レベルにおける系統と分類学の研究、および、生物地理、地史をも含め、系統地理学、進化的研究を進めている。機能形態学では、比較形態学的研究や、発生学、分子生物学的手法による形態形成のメカニズムを解明する研究を行うとともに、海洋生物の多様性を保全するために、多様な生物が環境の変動に対してどのように反応するのかを明らかにするべく、研究を行っている。当分野は瀬戸臨海実験所を教育研究の拠点とし、協力講座として理学研究科に海洋生物学分科を提供している。

[教員] 朝倉 彰（教授）・下村 通誉（准教授）・中野 智之（講師）・後藤 龍太郎（助教）・山守瑠奈（助教）

海洋生物環境学分野

海洋生物環境学分野では、海洋をはじめ、湖沼や河川を含む水圏における、持続的な生物生産をもたらす水圏生態系の仕組みや、その変動機構ならびに水圏生態系に生息する魚類や海産ほ乳動物などの行動生態を研究している。そのため的手法として、安定同位体分析、生態系モデルによるシミュレーションならびにパイオテレメトリーやマイクロデータロガーによるバイオリギングを用いた研究を行っている。当分野は、時限的にフィールド研にも所属する農学研究科からの流動分野である。

[教員] 三田村 啓理（教授）・山下 洋（特任教授）・市川 光太郎（准教授）・小林 志保（助教）・久米 学（特定助教）

(4) 管理技術部

企画情報室と、森林、里域、水域の3フィールド管理部門、9施設の管理技術班からなる。フィールドの管理・運営および基礎情報の収集、情報管理、技術開発、教育研究支援を行う。

技術部長 朝倉 彰

統括技術長 境 慎二郎

企画情報室 室長 朝倉 彰(-2022. 11.) / 三田村 啓理 (2022. 12. -)

森里海連環学プロジェクト支援室 室長 徳地 直子

森林フィールド管理部門 技術長 境 慎二郎

○芦生研究林管理技術班

○北海道研究林管理技術班

○和歌山研究林管理技術班

里域フィールド管理部門 技術長 藤井 弘明

○上賀茂試験地管理技術班

○徳山試験地管理技術班

○北白川試験地管理技術班

○紀伊大島実験所管理技術班

水域フィールド管理部門 技術長 加藤 哲哉

○舞鶴水産実験所管理技術班

○瀬戸臨海実験所管理技術班

(5) 事務部

フィールド研の事務は、フィールド科学教育研究センター事務部が担っている。また、共同事務部である北部構内事務部の各担当部署がフィールド研の業務を所掌している。

フィールド科学教育研究センター事務部 事務長 尾田 直之 (2022. 4-)

事務室長 椿野 康弘

北部構内事務部 (フィールド研担当部署のみ表示)

事務部長 八木 清隆

総務課 人事掛、給与掛

総務課長 榎本 賢也 (-2023. 3)

農学研究科等総務掛

管理課 管理掛、財務掛、研究推進掛

管理課長 谷内 秀樹 (2022. 4-)

経理課 フィールド研経理総括掛

経理課長 奥山 諭 (2022. 4-)

芦生研究林事務掛

北海道研究林事務掛

瀬戸臨海実験所事務掛

運営費・寄附金掛、旅費等経理事務センター事務掛、

産官学連携掛、科学研究費等補助金掛

施設安全課 施設掛、設備掛、安全管理掛

施設安全課長 川邊 博之 (2022. 4-)

教務・図書課 農学研究科等学術情報掛*、共通図書掛

教務・図書課長 尾田 直之 (2022. 4-)

(* 森林系図書室を所掌)

国際室 国際企画支援掛

国際室長 江田 修身 (2022. 4-)

学術研究支援室 北部地区担当チーム

(6) 2022年度の活動（総括）

センター長／基礎海洋生物学分野 教授 朝倉 彰

2022年度は新型コロナウイルスに対する医療面での対応策が講じられてきたことにより、大学における教育、研究も段階的に正常に復帰してきた。教育面においては、農学研究科、理学研究科および地球環境学舎の協力講座、協力分野として、研究科の教育ならびに学部教育に貢献している。全学教育に関しては、統合科学科目群「森里海連環学分野」の講義科目、実習科目、ILASセミナーの開講状況も通常に近づいてきた。

教育関係共同利用に関する拠点(舞鶴水産実験所、瀬戸臨海実験所、芦生研究林・北海道研究林・上賀茂試験地)においては、コロナ禍にあって開講が困難なものが多かったが、段階的に正常に復帰し、公開実習を実施した。また他大学の实習科目も受け入れたほか、他大学学生・院生による論文作成のための利用も受け入れた。これらの拠点がそれぞれの専門分野における全国の大学が活用するハブ機能を有する場として活用されているのは誠に喜ばしく、ますますの発展を期待したい。

本年度は舞鶴水産実験所の創立50周年にあたり、記念シンポジウム「京都の海の魅力と不思議」、記念企画展「舞鶴水産実験所の過去・現在・未来」が開催された。また記念書籍「里海フィールド科学：京都の海に学ぶ人と自然の絆」が出版された。さらに本年は瀬戸臨海実験所の創立100周年にあたり、記念書籍『海産無脊椎動物多様性学：100年の歴史とフロンティア』を出版、記念式典・講演会が開催された。また白浜水族館にて、企画展「写真で振り返る瀬戸臨海実験所の100年」が開催された。今後、さらに両実験所のますますの発展に期待したい。

本年度から当部局と公益財団法人イオン環境財団による「新しい里山・里海 共創プロジェクト」がスタートした。本事業では、里山・里海の現状を知る、モデルとなる里山・里海をつくる、新しい里山里海を創る人たちとつながるを3本の柱として、森里海連環学に基づく新しい里山・里海の共創に向けた教育・研究・社会連携活動を進め、里山・里海に関わる地域の方々が、研究者等と協働しプロジェクトから得られる科学的な知見を活用して、自立的・持続的な活動を共に創り出せるシチズンサイエンスの場となることを目指している。

また年度末には、第8回の森里海シンポジウムとして「みんなで創る里山・里海の未来」および高大連携事業として森里海連環学関係の研究ポスター発表会が開催された。

このようにして本年度は、ようやくにしてほぼ通常の活動に戻れたが、さらに来年度以降、国際事業の展開なども見据えて多角的な活動していきたいと考える。

(7) 2022年度の主な取り組み（日記）

- (1) 2022年4月1日
森林生態系部門に松岡俊将助教および横部智浩特任助教、里域生態系部門に中川 光特任助教、海洋生態系部門に山下 洋特任教授が着任
- (2) 2022年4月～
2022年度新入生向けILASセミナーを開講
 - ・「フィールド実習“森は海の恋人”」 (舞根森里海研究所)
朝倉彰、下村通誉、中野智之、後藤龍太郎、山守瑠奈
 - ・「森での感動を科学する」 (芦生研究林) 伊勢武史
 - ・「京都の文化を支える森林—地域の智恵と生態学的知見」 (芦生研究林、上賀茂試験地 他)
徳地直子、石原正恵、坂野上なお
 - ・「貝類の不思議」 (瀬戸臨海実験所) 中野智之
 - ・「森を育て活かす—林業体験をとおして考える」 (和歌山研究林) 長谷川尚史
 - ・「甲殻類学入門」 (瀬戸臨海実験所) 下村通誉
 - ・「森と暮らしを繋ぐ持続可能なデザイン」 徳地直子、赤石大輔 他
 - ・「里山の物質循環—燃料・肥料・食料から考える—」 (上賀茂試験地) 館野隆之輔
 - ・「魚類心理学入門」 (舞鶴水産実験所) 高橋宏司、益田玲爾
 - ・「京都の海の沿岸動物学入門」 (舞鶴水産実験所) 鈴木啓太、甲斐嘉晃、邊見由美
 - ・「海洋共生生態学入門」 (瀬戸臨海実験所) 後藤龍太郎、邊見由美、山守瑠奈
 - ・「北海道の昆虫相」 (北海道研究林) 小林和也
- (3) 2022年4月～7月
全学共通科目「森里海連環学I：森・里・海と人のつながり」「森里海連環学II：森林学」開講
- (4) 2022年4月6日
徳山試験地において、避難訓練を実施(4人)
- (5) 2022年4月15日
令和4年度第1回舞鶴水産実験所共同利用運営委員会を開催
- (6) 2022年4月15日
令和4年度第1回瀬戸臨海実験所共同利用運営委員会を開催
- (7) 2022年4月15日
水産・臨海・臨湖実験所フィールド実習ワークショップ「近畿大学の実習と卒業研究」をオンラインで開催
(参加者16人)
- (8) 2022年4月16日～12月11日
和歌山研究林において、有害鳥獣捕獲のための入林制限を実施(捕獲実施日数は計12日)
- (9) 2022年4月16日、5月14日、7月2日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験」を開催(4月16人・5月3人・7月15人)
- (10) 2022年4月19日～2023年1月17日
和歌山研究林において、和歌山県立有田中央高等学校清水分校との共催でウッズサイエンスを開講(週1回・3年生1人)
- (11) 2022年4月27日～2023年3月27日
瀬戸臨海実験所において、瀬戸海洋生物学セミナーを実施(第64～75回)
- (12) 2022年4月30日
里域生態系部門の中川 光特任助教が退職

- (13) 2022年5月1日
森林生態系部門に杉山賢子助教が着任
- (14) 2022年5月9～10日
芦生研究林および舞鶴水産実験所のフィールド実習の映像を、京都大学オープンコースウェアで公開
- (15) 2022年5月11日
フィールド科学教育研究センター研修会「ハラスメント・研究公正・労働安全衛生」をオンラインで開催
- (16) 2022年5月19日
和歌山研究林において、有田川町立安諦小学校との共催で、森林学習を実施(5年生1人、教諭1人)
- (17) 2022年5月23日
和歌山研究林において、有田川町立八幡小学校との共催で、森林体験学習を実施(5年生8人、教諭2人)
- (18) 2022年5月27～28日
芦生研究林において、芦生もりびと協会と共催で、美山小学校「芦生グリーンワールド」を開催(美山小4年生22人)
- (19) 2022年6月1日～
フィールド研が株式会社モンベルとの協働研究として「山の健康診断」プロジェクトを実施
- (20) 2022年6月16日
令和4年度第1回芦生研究林・北海道研究林・上賀茂試験地共同利用運営委員会を開催
- (21) 2022年6月18日
北海道研究林標茶区において、初夏の花観察会「北海道フラワーソン2022」を開催(参加者16人)
- (22) 2022年6月18日
京都大学125周年記念事業の一環として、ロームシアター京都において「京都大学創立125周年記念アカデミックマルシェ」が開催され、芦生研究林が「大学の森バーチャルツアー森林VR体験」ブースを出展
- (23) 2022年6月18～20日
京都大学125周年記念事業の一環として、白浜水族館にて、125周年記念 缶バッジ(全5種類)を配布
- (24) 2022年6月28日～7月2日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「博物館実習(館園実務)」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学3人)
- (25) 2022年6月29日
吉田事業所産業医が、芦生研究林を巡視
- (26) 2022年7月16日
徳山試験地において、京都大学・周南市連携講座を開催(22人)
- (27) 2022年7月19日
フィールド研および公益財団法人イオン環境財団による「新しい里山・里海 共創プロジェクト」連携発表ならびに寄付贈呈式を開催
- (28) 2022年7月22日
吉田事業所産業医が、北海道研究林標茶区を巡視
- (29) 2022年7月28日～2023年1月10日
白浜水族館において、特別企画展「写真で振り返る瀬戸臨海実験所の100年」を開催
- (30) 2022年8月3日
北海道研究林標茶区において、避難訓練を実施(10人)
- (31) 2022年8月5日
京都大学東京オフィスにおいて、第122回京都大学丸の内セミナーをハイブリッドで開催。小林和也准教授が講演「利己性の進化が維持する生物多様性」を実施(対面参加19人、オンライン参加46人)
- (32) 2022年8月8～12日
芦生研究林および舞鶴水産実験所、フィールド研会議室他において、全学共通科目「森里海連環学実習I(芦生

- 研究林ー由良川ー丹後海コース)」を実施(4人)※一部オンラインで実施
- (33) 2022年8月8～12日
芦生研究林および舞鶴水産実験所、フィールド研会議室他において、公開実習「森里海連環学実習I(芦生研究林ー由良川ー丹後海コース)」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学1人)※一部オンラインで実施
- (34) 2022年8月8～12日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「自由課題研究」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学3人、理学部「臨海実習第1、4部」併催)
- (35) 2022年8月11日
フィールド研と京都丹波高原国定公園ビジターセンター運営協議会は、京都丹波高原国定公園の生態系や生物多様性の保全、持続可能な利用の促進等を図るため、包括連携協定を締結
- (36) 2022年8月19～28日
京都府立植物園において、森をみつめるふたりの絵画・写真展「ASHIU FORESTー芦生の森を未来につなぐためにー」を開催
- (37) 2022年8月21日
京都府立植物園において、公開講演会「芦生の天然林と着生植物ー芦生の森を未来につなぐためにー」および芦生の森 VR体験会を開催
- (38) 2022年8月22～24日
副理事(企画・調整担当)が、北海道研究林標茶区を視察
- (39) 2022年8月26日
「山の健康診断」プロジェクトの中間報告会をオンラインで開催(参加者146人)
- (40) 2022年8月26～31日
舞鶴水産実験所他において、公開実習「魚類学実習」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学3人、農学部科目「海洋生物科学技術論と実習I」併催)
- (41) 2022年8月27日
芦生研究林が、京都丹波高原国定公園ビジターセンターと共催で、京都丹波高原国定公園ゼミ「第1講“見えない生物多様性”」および芦生の森 VR体験を実施(参加者82人)
- (42) 2022年8月31日～9月5日
舞鶴水産実験所他において、公開実習「無脊椎動物学実習」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学1人、農学部科目「海洋生物科学技術論と実習II」併催)
- (43) 2022年9月4～7日
北海道研究林標茶区および北海道大学厚岸臨海実験所において、全学共通科目「森里海連環学実習II京大・北大合同実習(夏の北海道実習)」を実施(教育関係共同利用拠点事業、京大7人・北大7人)
- (44) 2022年9月5～9日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「Functional Morphology and Evolutionary Biology of Marine Invertebrates」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学4人、理学部「臨海実習第2部」併催)
- (45) 2022年9月7～9日
公開森林実習Iをオンラインで実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学8人)
- (46) 2022年9月28日
芦生研究林およびKDDI株式会社が、舞鶴工業高等専門学校へ感謝状を贈呈および、2020年度から芦生研究林保全のために実施しているVR連携成果発表会を舞鶴工業高等専門学校において開催
- (47) 2022年9月30日
徳山試験地および周南市西緑地において、周南市連携事業「鼓南中学校環境学習」を開催(中学生8人、引率8人)
- (48) 2022年9月30日
森林生態系部門の赤石大輔特定助教が退職

- (49) 2022年10月1日
研究推進部門に赤石大輔特定講師が着任。紀伊大島実験所長に、甲斐嘉晃准教授が就任
- (50) 2022年10月1日
徳山試験地および周南市徳山保健センターにおいて、周南市と共催で、周南市・京都大学フィールド科学教育研究センター連携公開講座を開催(京大ウィークス参加イベント、31人)
- (51) 2022年10月14日
和歌山研究林が、マルカ林業株式会社社有林において、和歌山県紀の国森づくり基金活用事業(緑育推進事業)を実施(楠見西小5年生24人、教諭2人)
- (52) 2022年10月15日
和歌山研究林において、ミニ公開講座を開催(京大ウィークス参加イベント、9人)
- (53) 2022年10月15日～12月10日
上賀茂試験地において、公開森林実習III「森林・里山の生態系サービスを学ぶ」を実施(教育関係共同利用拠点事業、京大1人・他大学8人)
- (54) 2022年10月22日
芦生研究林において、一般公開を開催(京大ウィークス参加イベント、26人)
- (55) 2022年10月22日
北海道研究林白糠区において、自然観察会「秋の森の生態系」を開催(京大ウィークス参加イベント、9人)
- (56) 2022年10月22日
瀬戸臨海実験所において、公開ラボ・施設見学「白浜の海の自然と発見」を実施(京大ウィークス参加イベント、9人)
- (57) 2022年10月23日
京大森里海ラボ by ONLINE 2022「里山・里海の魅力と課題」をオンラインで開催(高校12校、81人)
- (58) 2022年10月23日
上賀茂試験地において、ひらめき☆ときめきサイエンス「身近な自然から持続可能性について学ぼう」を開催(中高生10人、保護者等6人)
- (59) 2022年10月29日～2023年3月29日
北海道研究林白糠区において、北海道のエゾシカ被害防止緊急捕獲事業の一環で銃器を用いた捕獲駆除のための入林制限を実施
- (60) 2022年10月29～30日
舞鶴水産実験所および舞鶴市商工観光センターにおいて、舞鶴水産実験所50周年記念シンポジウム「京都の海の魅力と不思議」および、企画展「舞鶴水産実験所の過去・現在・未来」を開催(京大ウィークス参加イベント、シンポジウム110人・企画展115人)
- (61) 2022年10月31日
舞鶴水産実験所の教員らが『里海フィールド科学：京都の海に学ぶ人と自然の絆』を出版
- (62) 2022年11月5日
上賀茂試験地において、秋の自然観察会を実施(京大ウィークス参加イベント、19人)
- (63) 2022年11月8日
舞鶴水産実験所および瀬戸臨海実験所が、京都地区研究室とともに、海洋合同セミナーをオンラインで実施
- (64) 2022年11月10日
和歌山研究林が、マルカ林業株式会社社有林において、和歌山県紀の国森づくり基金活用事業(緑育推進事業)を実施(広瀬小5年生24人、教諭2人)
- (65) 2022年11月11日
和歌山研究林が、マルカ林業株式会社社有林において、和歌山県紀の国森づくり基金活用事業(緑育推進事業)を実施(野崎小5年生28人、教諭3人)

- (66) 2022年11月20日
瀬戸臨海実験所創立100周年記念出版編集委員会が『海産無脊椎動物多様性学：100年の歴史とフロンティア』を出版
- (67) 2022年11月22～26日
舞鶴水産実験所他において、全学共通科目「博物館実習(館園実務)」を実施(2人)※一部オンラインで実施
- (68) 2022年11月27日
瀬戸臨海実験所が、ホテルシーモアにおいて、「瀬戸臨海実験所100周年記念式典・講演会」をハイブリッドで開催(対面参加95人、オンライン参加120人)
- (69) 2022年12月1日
森林生態系部門に、May Thet Su Kyaw Tint 特定助教が着任。企画情報室長に三田村啓理教授、副室長に長谷川尚史准教授が就任
- (70) 2022年12月1日
フィールド研と京都大学男女共同参画推進センター、カリモク家具株式会社は、次世代への地球環境を保全する教育、及び森林資源のサステナビリティを通じた社会貢献の両分野で連携協力する包括連携協定を締結
- (71) 2022年12月5日
和歌山研究林において、有田川町立八幡小学校との共催で、森林体験学習を実施(5年生9人、教諭2人)
- (72) 1月16～20日
瀬戸臨海実験所において、全学共通科目「博物館実習(館園実務)」を実施(2人)
- (73) 1月17日
上賀茂試験地において、避難訓練を実施(6人)
- (74) 2023年1月20日
新しい里山里海の勉強会(オンライン・第1回)を開催(参加者150人)
- (75) 1月21日
北海道研究林標茶区において、「しべちャアドベンチャースクール」ステージ6を実施(小学生13人)
- (76) 1月30日～2月17日
大雪の影響で和歌山研究林事務所への道が不通となったため、事務所機能を清水分室に仮移転
- (77) 2023年2月1日～5月14日
白浜水族館において企画展「海洋生物を究める！：JAMBIO 沿岸生物合同調査の紹介」を開催
- (78) 2月7日
協議委員会を開催
- (79) 2023年2月18日
瀬戸臨海実験所白浜水族館において、イオン環境財団と共催で、新しい里山・里海 共創プロジェクトのイベント「白浜の豊かな海と生き物について学ぼう」を実施(参加者41人)
- (80) 2023年2月21日
瀬戸臨海実験所において、防災訓練を実施(22人)
- (81) 2023年2月24日
舞鶴水産実験所および瀬戸臨海実験所が、農学研究科とともに、合同セミナーを開催
- (82) 2023年2月25日～3月4日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「藻類と海浜植物の系統と進化」を実施(教育関係共同利用拠点事業、京大2人・他大学6人)
- (83) 2023年2月28日
芦生研究林が、京都丹波高原国定公園ビジターセンターおよびオンラインにて、「美山×研究つながる集会」第3回を開催(参加者33人)
- (84) 2023年3月1日
里域生態系部門に伊藤岳特任助教が着任

- (85) 2023年3月4日
新潟県民会館において、第18回京都大学附置研究所・センターシンポジウム 京都大学新潟講演会 京都からの挑戦ー地球社会の調和ある共存に向けてー「創造への多様性ー京大の多彩な最先端」を開催
- (86) 2023年3月6日
北白川試験地において、避難訓練を実施(3人)
- (87) 2023年3月6～10日
舞鶴水産実験所他において、公開実習「仔稚魚学実習」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学2人、農学部科目「海洋生物科学技術論と実習IV」併催)※一部オンラインで実施
- (88) 2023年3月8～9日
北海道研究林標茶区において、令和4年度 中国・四国・近畿地区大学附属演習林等技術職員研修を実施(参加者14人)
- (89) 2023年3月8～12日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「海産無脊椎動物分子系統学実習」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学7人、理学部「臨海実習第3部」併催)
- (90) 2023年3月9日
芦生研究林およびKDDI株式会社は、京都大学 旧演習林事務室ラウンジにて、生物多様性の保全に向けた包括連携協定を締結
- (91) 2023年3月16日
和歌山研究林において、避難訓練を実施(4人)
- (92) 2023年3月19日
京都大学北部総合教育研究棟において、高校生森里海研究ポスター発表会を開催
- (93) 2023年3月19日
京都大学北部総合教育研究棟にて、森里海シンポジウム「みんなで創る里山・里海の未来」(第8回)をハイブリッドで開催(対面参加89人、オンライン参加66人)。新しい里山里海の勉強会(第2回)を併催
- (94) 2023年3月8～12日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「沿岸域生態系多様性実習」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学3人、全学共通科目「森里海連環学実習IV」併催)
- (95) 2023年3月8～12日
瀬戸臨海実験所において、森里海連環学実習IV「沿岸域生態系に与える陸・川・人の影響」を実施(3人)
- (96) 2023年3月28日
山の健康診断プロジェクトの報告会を開催(参加者184人)
- (97) 2023年3月29日
芦生研究林において、避難訓練を実施(12人)
- (98) 2023年3月31日
研究推進部門の赤石大輔特定講師、森林生態系部門のMay Thet Su Kyaw Tint 特定助教が退職

2. フィールド研の活動

(1) フィールド研2022年度の主な取り組み

1) 森里海シンポジウム「みんなで創る里山・里海の未来」(第8回)

森林育成学分野 教授 徳地 直子

2023年3月19日に地球環境学堂および野生動物研究センターと共催で、第8回森里海シンポジウム「みんなで創る里山・里海の未来」を開催しました。京都大学北部総合教育研究棟益川ホールとオンラインのハイブリッドで実施し、計155人が参加しました。

本シンポジウムは、2022年度からはじまった公益財団法人イオン環境財団の支援による、失われつつある里山・里海をどう考えるか、これからの里山・里海はどこを目指すのかをみんなで考える「新しい里山・里海 共創プロジェクト」の一環で実施されたものです。

午前はプレ企画として、連携する全国の高校10校から、里山・里海をテーマに、田んぼや河川の生きもの調査やニホンウナギの保全、ヒシの繁茂と湖の水質との関係性といった日頃の研究成果に関する発表がありました。ポスターの前で高校生たちが熱心に解説している様子が見られ、対面開催ならではの盛り上がりを感じました。朝倉 彰センター長が各発表の講評を行い、優秀な高校を表彰しました。

午後のシンポジウムでは、「みんなで創ろう！わたしたちの里山里海」をテーマに、湯本貴和 名誉教授が基調講演を行いました。「真」の生物多様性問題や、生態系サービスと里山・里海に関する解説があり、参加者の注目を集めました。続いてフィールド研の3施設(上賀茂試験地、舞鶴水産実験所、瀬戸臨海実験所)から、若手教員が最新の研究トピックスを紹介しました。それぞれの講演についてグラフィックレコーディングを実施し、講演の内容をイラストで共有しました。

最後の質疑応答では、高校生や一般の参加者から、「ウイルスが生態系、生物多様性に及ぼす影響」や「里山・里海」の概念は海外で共有されているか?といった質問があり、それぞれパネリストから回答がありました。また、「真」の生物多様性を守るために高校生ができることは?という質問に対しては、まずは知ることから始めてほしいと湯本名誉教授が回答しました。

今回4年ぶりにポスターセッションとシンポジウムを対面で開催することができました。実施したアンケートの結果からも、本シンポジウムが好評であったことが伺えましたので、引き続き、森里海の連環を考慮した「新しい里山・里海 共創プロジェクト」や「高大連携」にかかる事業を推進していきたいと思っております。

(初出 FSERC NEWS 60号 p.1 2023年6月)



高校生によるポスター発表



質疑応答の様子

2) 森林の保全・教育・研究活動の促進のための包括連携協定締結

芦生研究林長／森林育成学分野 准教授 石原正恵

京都大学フィールド科学教育研究センターは、森里海連環学を提唱しています。森里海連環というのは、森と里と川と海といった生態系がつながっているということ、また里というのは人間社会も含めて指しており、人と自然とがつながっていることを指しています。つながりを修復し、新しいつながりを創ることで、豊かな自然とともに持続的な社会を目指す。その取組を社会の様々な皆様と一緒に目指していく、それが森里海連環学です。こうした、様々な人との協働というのは、第6期科学技術・イノベーション基本計画においても、国立大学の目指す方向として謳われています。企業・自治体・NPO など多様な主体と連携し、新しい価値やイノベーションを共創していくことが目指されています。芦生研究林も森の保全と里の持続性をテーマに、地域の様々な主体と連携・協働を実践的に進めています。

それらの取り組みの一環として、2022年8月に当センターと京都丹波高原国定公園ビジターセンター運営協議会（以下、ビジターセンター運営協議会）とが包括連携協定を締結しました。この国定公園は2016年に設定され、ビジターセンター運営協議会は国定公園の優れた風景地の保護とその利用の増進を図り、地域の発展に寄与することを目的としています。一方、芦生研究林は、国定公園の第一種・第二種特別地域の大部分を占めており、ハイキング・ガイドツアーを通じ多くの市民に利用されてきました。さらに、当センターは芦生研究林の原生的な自然の保全を進めてきました。このように、自然を守り生かすという点において、当センターとビジターセンター運営協議会のミッションには多くの共通点があり、国定公園の設定以来、「京都丹波高原国定公園における研究・調査情報データベース」や「美山×研究つながる集会」など連携を図ってきました。さらに、国定公園の生態系や生物多様性の保全、持続可能な利用の促進、人材育成、および地域の発展に寄与することを目的として、包括連携協定を締結しました。

また、2023年3月に芦生研究林とKDDI株式会社（以下、KDDI）とが包括連携協定を締結しました。2019年度に府民参加の森作りをすすめる京都モデルフォレスト協会からKDDIをご紹介いただいたことを契機として、翌年度からコロナ禍での教育・広報のためVR教材の制作、社員ボランティア、LPWAを用いたIoT鳥獣対策通知システム、入山時にテキスト通信ができるコミュニケーションツール、芦生研究林基金へのご寄付といった連携が展開されてきました。さらに、芦生研究林の生態系や生物多様性の保全、教育研究・普及啓発活動、DXや通信技術などを用いた活動の発展高度化に取り組むため、包括連携協定を締結しました。

こうした多様な主体との連携・協働には、(1) つながりの和が広がっていく、(2) 一人では解決できない課題を、異なる専門を持ったものが一緒に取り組むことで解決できる、(3) 互いの考えや目標を理解し、学びあい、新しい価値が創造されていく、という効果があります。今後も多様な主体とともに、豊かな自然と持続的な社会の創出に貢献していきたいと考えています。



KDDI との協定式



第3回美山×研究つながる集会「大学と地域をつなぐッ！」
(2023年2月28日、京都丹波高原国定公園ビジターセンターにてハイブリッド開催)

3) 上賀茂試験地の里山整備と公開森林実習III「森林・里山の生態系サービスを学ぶ」

森里海連環学分野 特定講師 赤石 大輔

公開森林実習 III「森林・里山の生態系サービスを学ぶ」では、里山がエネルギーや食糧の供給場所として日本人の生活を支えてきた重要な生態系の一つであること、またその生態系サービスに関する学術的知見を体験的に学び、教員および技術職員との対話を通して、実習計画を自ら立案できるノウハウを修得するとともに、計画の実施を自らの責任で行う能力を醸成することを目標にしている。さらに今後 10 年 20 年と続く里山整備計画として、次年度以降につながることを目指している。本実習は 2020 年度から、京都大学フィールド科学教育研究センター、里域ステーション上賀茂試験地にて実施している。2021 年度から大学コンソーシアム京都の提供科目「特別森林実習 III」となっている。

受講生は計 9 人で、大学コンソーシアム京都への提供科目の受講学生が 7 人（京都教育大学（2 人）、京都芸術大学、京都工芸繊維大学、京都産業大学、京都女子大学、佛教大学）と一般聴講生 2 人（京都大学大学院、滋賀県立大学）であった。スタッフは、吉岡崇仁・館野隆之輔・赤石大輔と上賀茂試験地技術職員で、週末土曜日に 5 回開催した。

第 1 回（10 月 15 日）：ガイダンス、上賀茂試験地の紹介、里山整備エリアの見学。

第 2 回（10 月 22 日）：環境意識に関する講義、炭窯の火入れ。

第 3 回（11 月 19 日）：草木染め体験、シイタケの収穫、里山整備。

第 4 回（11 月 26 日）：炭窯から炭出し、里山整備エリアでのコンポスト作成。

第 5 回（12 月 10 日）：全体振り返り、次年度への引き継ぎ資料の作成。

2022 年度後半は、新型コロナウイルス感染症の感染者数も落ち着いており、公開森林実習 III は当初の予定通り実施することができた。2 年間実施してきた内容を踏襲しつつ、新たな試みとして、第 3 回の草木染め体験では、外部講師を招き講義と体験を指導いただいた。講師からは、草木染めが昔の里山の知恵としてノスタルジックな体験をするだけにとどまらず、現代の消費者のニーズに合う新しい商品として競争力を持つこと、広告に頼らない販売戦略があること、草木染めの製品をオーガニック素材で作るなどエシカルファッションについてお話いただき、学生たちも感銘を受けていた（図 1）。また、里山整備エリアでは新たに落ち葉を使ったコンポストづくりを試行した。コンポストづくりは技術職員の支援により林内に複数設置することができた（図 2）。

最終回に、例年は学生が選んだ果樹の植樹を行うことになっていたが、当日、学生から里山整備エリアのコンセプトについて提言があり、長期的な計画が必要であることや、本来この地域になかった果樹を植えるのは問題ではないか、といった意見が出た。他の学生たちもその意見に概ね賛同し、急遽果樹の植樹を取りやめることになった。このような実習内容の急な変更は想定外であったものの、実習で伝えたい里山の価値や現在の社会において保全する意義につながる議論であったことから、歓迎できるもので、学生の主体性を尊重した本実習の特徴といえる。

3 年目になり、大学コンソーシアム経由では定員に達するなど人気の実習となった。OB も継続した参加を希望し、今年度も複数の OB が自主的に実習に参加し、保全作業や他の学生たちとの議論に参加していたことは、本実習が上賀茂試験地の環境や里山の面白さを伝える優れた実習であることを示していると考えられる。



図 1 外部講師を招いての草木染め体験の様子



図 2 里山整備エリアの落ち葉を集めたコンポスト

4) 舞鶴水産実験所50周年記念シンポジウムと企画展

里海生態保全学分野 助教 鈴木 啓太

舞鶴水産実験所50周年を記念し、2022年10月29日に舞鶴市商工観光センターにおいてシンポジウム「京都の海の魅力と不思議」を、10月30日に本実験所において企画展「舞鶴水産実験所の過去・現在・未来」を開催しました。また、これに合わせ、本実験所関係者が編著を分担した記念本『里海フィールド科学—京都の海に学ぶ人と自然の絆』を京都大学学術出版会から出版しました。

本実験所は、1947年に設置された農学部水産学科にルーツがありますが、同学科の京都市内移転にともない、1972年に発足した農学部附属水産実験所を起点とすると、今年が50周年にあたります。様々な立場の方々に本実験所の活動を理解していただき、また、本実験所の今後の在り方をともに考えていただく機会にすべく、京大ウィークス（京都大学の遠隔施設を一般公開する企画）に組み込むとともに、特にシンポジウムは水産海洋学会との共催により第11回日本海研究集會に位置づけて開催しました。

シンポジウムでは、演者6人（本実験所教員3人、他大学教員、地元高校教諭、地元漁業者各1人）が、京都の海の特徴、最近の研究成果、標本収集の意義、高大連携教育の実践、6次産業化の取り組みなど、「京都の海の魅力と不思議」にまつわる話題を提供しました。また、休憩時間には地元高校生と本実験所学生が日頃の活動成果をポスター発表しました。最後に、パネリスト3人が本実験所に対する期待を表明し、盛会のうちに閉会しました。

企画展では、本実験所の沿革を紹介するパネル展示、観測機器の改良史を説明する実物展示、標本庫・教育研究船・飼育施設を案内するガイドツアー、海の生き物と触れ合うタッチプールなど、「舞鶴水産実験所の過去・現在・未来」を実感できる企画を提供しました。コロナ禍が小康状態にあり、天候にも恵まれおかげで、幅広い年代から延べ224人の参加者があり、大変充実した記念イベントになりました。

（初出 FSERC NEWS 59号 p.1 2023年2月）



シンポジウム閉会後の集合写真



企画展 パネル展示と実物展示

5) 瀬戸臨海実験所100周年記念式典・講演会・特別展示

瀬戸臨海実験所長／基礎海洋生物学分野 准教授 下村 通誉

瀬戸臨海実験所は、1922年（大正11年）に京都帝國大学瀬戸臨海研究所として、当時の瀬戸鉛山村の番所崎の桔梗平と呼ばれた地に創設されて以来、2022年（令和4年）に創立100周年を迎えました。この節目を迎えるにあたり、創立100周年記念事業として11月27日に白浜町のホテルシーモアにて、瀬戸臨海実験所創立100周年記念の祝賀会をオンラインと対面で実施しました。

祝賀会は、3部構成で行いました。第1部は開会とお祝いの言葉をいただく式典を執り行いました。下村からの開会挨拶のあと、朝倉彰センター長と湊長博総長より式辞をいただきました。続いて、塩田剛志文部科学省専門教育課長（ビデオメッセージ）、白山義久海洋研究開発機構科学アドバイザー／京都大学名誉教授、井潤誠白浜町長、遊佐陽一奈良女子大学副学長よりご祝辞をいただきました。第2部は実験所の運営と活動に永年多大なご協力をいただいていた瀬戸部と漁業協同組合（堅田漁業協同組合、新庄漁業協同組合、和歌山南漁業協同組合）へ感謝状と記念品の贈呈式を行いました。休憩ののち、第3部として記念講演会を行いました。記念講演会は山守瑠奈助教の司会で進行し、朝倉彰センター長「瀬戸臨海実験所100年の歴史」、下村通誉所長「瀬戸臨海実験所と海産無脊椎動物の研究（系統分類）」、後藤龍太郎助教「瀬戸臨海実験所と海産無脊椎動物の研究（生態）」、中野智之講師（職階は当時）「島島一世間調査と環境変動」、河村真理子研究員「瀬戸臨海実験所の教育拠点としての活動」、加藤哲哉技術専門員「白浜水族館の歴史」の6題の講演を行い、実験所のこれまでの100年のあゆみを振り返り、これからの100年に向けての抱負を述べました。最後に、館野隆之輔副センター長より閉会の挨拶をいただき、コロナ禍ではありましたが会場の参加者95人と、盛会のうちに式典を無事に終了することができました。対面参加者には記念グッズ（記念冊子、トートバッグ、絵葉書、クリアファイル）を配布し好評でした。また、白浜水族館では特別企画展として2022年7月28日から2023年1月10日まで「写真で振り返る瀬戸臨海実験所の100年」を開催しました。実験所の歴史や歴代所長、顕著な業績を残した研究者らを写真と共に紹介し、これまで実験所で使ってきた潜水ヘルメットや採泥器などの研究道具を展示しました。

この度の瀬戸臨海実験所100周年記念祝賀会は多くの方々のご協力とご寄付によって開催することができました。この場を借りて心からお礼申し上げます。



集合写真



特別企画展

6) 市民参加による全国の川の水質調査「山の健康診断」

森林育成学分野 教授 徳地 直子

森林をはじめとした山地、河川は今どんな様子なのでしょうか。自然の豊かさで注目されている場所や、何かの調査対象となった場所では情報があるのですが、そうではない場所については情報がないところが多いのが現状です。私たちは自然に依存して暮らしているわけですから、生態系の状態をモニタリングして、壊してしまわないように大切に使うしなければなりません。そうは言っても、広大な森や山をどう扱うか、そして全国の森や山すべてを調査するにはかなりの労力と経費が必要です。

市民と研究者が協働して研究試料を収集するような形を市民科学（シチズンサイエンス）と呼びます。「山の健康診断」は、川の水質を指標に森や山の様子を推察しようと、上流に人為起源の汚染源がない場所を各県 20-30 地点選び、河川水の採水と分析を行うものです。河川水は山に降った雨や雪が森林を通過して形成されており、河川水質調査は山や森にとって、人でいう尿検査のような位置づけになります。今回の調査は 2003 年に行われた 1278 地点（木平ら 2006）の 20 年後の再調査としました。そこで、2020 年に包括連携協定を結んだアウトドアブランドの株式会社モンベルにご協力いただき、全国のモンベル会員の皆さまに採水への参加を呼び掛けていただきました。その結果、2022 年 6 月 1 日～11 月 30 日の半年間で 629 人の方々と 1431 地点で採水を行うことができました。採水にご協力いただき本当にありがとうございました。

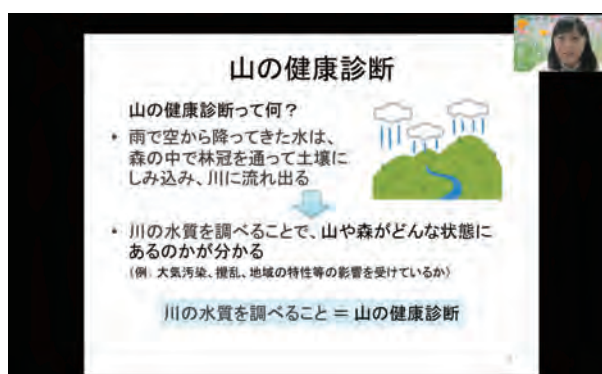
分析はまだ途中ですが、河川水の pH や硝酸態窒素濃度などに 20 年前と大きな違いはなかったようです。ただ、都市周辺で湖水や沿岸の富栄養化の原因となる窒素濃度が低下していたのに対して、若干の上昇がみられた地域もあり、残りの分析を進めると同時に、これらの原因について検討していく予定です。

（引用）木平英一ら（2006）わが国の渓流水質の広域調査．日本水文科学会誌 第 36 巻、第 3 号、145-149
DOI: 10.4145/jahs.36.145

（初出 FSERC NEWS 60 号 p.2 2023 年 6 月）



秋田県藤琴川と紅葉



報告会における牧野研究員の発表（2023-03-28）

7) 新しい里山・里海 共創プロジェクトを始動

森林情報学分野教授 舘野 隆之輔

京都大学フィールド科学教育研究センター（センター長：朝倉 彰、以下 フィールド研）と公益財団法人イオン環境財団（理事長：岡田元也、以下イオン環境財団）との連携事業「新しい里山・里海 共創プロジェクト」が2022年4月から4年間の予定で、始動しました。本プロジェクトの推進のため、イオン環境財団と連携協定を締結し、森里海連環学に基づく新しい里山・里海の共創に向けた教育・研究・社会連携活動を共に進めており、具体的には以下のような3つの柱にそった活動を進めています。

(1) 里山・里海の現状を知る

各地域の里山・里海の自然・文化的特徴を理解し、持続可能な里山・里海の現状を知るための方法を開発します。多様性調査、環境DNA、化学分析等による自然科学をベースにした調査だけでなく、アンケートや聞き取り調査などの社会科学をベースにした調査を通じて、里山・里海の地域ごとの特徴を評価します。各地域の里山・里海で活動する方々と協力し、可能なかぎり市民参加による調査や地域ワークショップを実施し、将来は自律的に管理していける体制づくりにつなげていきます。

(2) モデルとなる里山・里海をつくる

フィールド研の施設を活用して、各地域の里山・里海の知恵を収集し、最新の研究成果等も取り入れた新しい里山・里海づくりを市民の皆さんと一緒に実践しつつ、教育・研究・社会連携活動に活用していきます。また、小さいお子さんからお年寄り、障がいのある方など誰もが参加できる里山・里海づくりのあり方を模索していきます。さらに再生エネルギーの活用やDX技術の活用など先進的な里山・里海づくりを目指して活動を進めていきます。

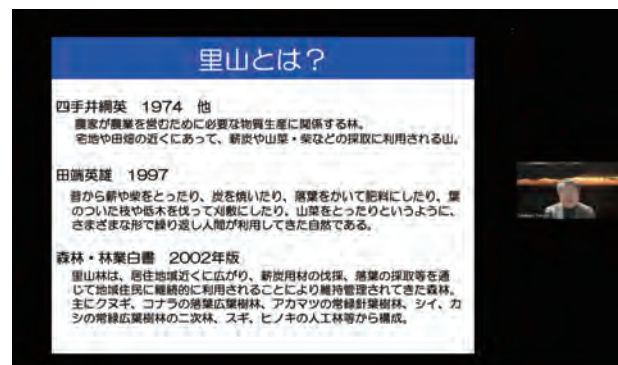
(3) 新しい里山里海を創る人たちとつながる

近畿を中心に里山・里海の活動団体に声をかけ、勉強会や交流会を開催し、様々な活動を繋ぐコンソーシアムをつくれます。また里山・里海に関心を持つ幅広い世代の人が、各地域の活動に参加できる仕組みをつくれます。さらにフィールド研のネットワークを活用して専門家の派遣や地域の課題に対して科学的な視点で取り組みを持続するための様々な支援を行います。

プロジェクトが本格的に開始してから約1年ですが、2022年度は、1月の瀬戸臨海実験所・白浜水族館でのイベントに加え、2023年度に瀬戸臨海実験所で実施する島島のビーチクリーン、舞鶴水産実験所で実施予定の柴漬けイベント、上賀茂試験地で実施予定の里山おふんらぼなどの企画立案や準備を進めました。さらにプロジェクトでは、里山里海勉強会を年4回程度開催していく予定で、2022年度は2回、1月にオンライン開催、3月に益川ホールとオンラインのハイブリッドで開催しました。



白浜水族館の見学ツアー (2023-02-18)



第1回新しい里山里海の勉強会 (2023-01-20)

(2) 実習報告

1) 統合科学科目群 森里海連環学実習I：芦生研究林ー由良川ー丹後海のつながりを探る

舞鶴水産実験所長／里海生態保全学分野教授 益田 玲爾

2022年8月8～12日に森里海連環学実習Iを開催し、6人（本学5人、他大学1人）の学生が参加しました。この実習は由良川をフィールドとして、河川水中の生物観察や水質の分析を通じて、森から海までの流域を複合したひとつの生態系として捉える視点を育成することを目的としています。

1日目は芦生研究林内にて森林や大規模調査区の解説などを行った後、林内の河川で魚類や水生昆虫、プランクトンを採集するとともに、水質分析用の水試料を採取し、現場での水質観測を行いました。その後、研究林外へ移動し2地点で同様の調査を行い、生物相の変化などを観察しました。2日目は中流域から汽水域へ川を下る形で進み、4地点で初日と同様の採集や試料採取・観測調査を行いました。また、夜には各地点で採取した水試料の水質を分析しました。3日目は採集した水生昆虫と魚類の観察と同定を行い、採取地点ごとの種類と個体数を集計しました。4日目と5日目はオンラインで開催し、実習中に得られたデータおよび本実習の過去の年度のデータをもとに、河川の環境や生物相の時空間的な変化について、参加者各自がプレゼンテーションにまとめて、発表と議論を行いました。

森林や人々の生活域が河川の水質と生態系へどのような影響を与えるかを考え、森と海のつながりに考えをめぐらす機会になってくれたことと思います。



由良川源流域周辺にある芦生幽仙谷の森林の観察



由良川河口付近の神崎でのプランクトン採集

2) 統合科学科目群 森里海連環学実習III：暖地性積雪地域における冬の自然環境

芦生研究林長／森林育成学分野 准教授 石原 正恵

2022年度の森里海連環学実習IIIが2月20日から2月22日の日程で、芦生研究林において行われました。参加した学生は京都大学農学部、経済学部、法学部、総合人間学部、工学部の1～4回生13人でした。芦生研究林内や美山町内の施設の見学、地域の方のお話を伺うことで、積雪地域の森林の様子や人の生活を学びました。

実習初日は道の駅の見学や多雪地域での生活の様子を見学しました。

午前は道の駅ウッディー京北、道の駅美山ふれあい広場、京都丹波高原国定公園ビジターセンター（以下、ビジターセンター）の見学を行いました。各施設では外装・内装の見学や、特産品の見学を行いました。

午後は午前の簡単なまとめをビジターセンターで行ったあと、美山かやぶきの里の見学を行いました。見学後芦生に移動し、多雪地域で家屋などへの雪害軽減のために行われる「雪囲い」の解説を、地元の方に行ってくださいました。あらがわれない、自然とともに生きていくという考え方に触れ、忙しく人工環境を維持しようとする都会の考え方との大きな違いを感じた学生もいました。

芦生研究林に到着後はスノーシューの足慣らしを行いました。その後、夕食を自炊しました（きのこ、地元美山町産の鹿肉とお米を使ったカレー）。とても美味しかったと学生さんに好評でした。

夕食後、芦生研究林内の過去約100年間の積雪データを解析する演習が行われ、地域の方からうかがった雪が減ってきているというお話と、データの対比を行いました。

実習2日目は積雪断面調査と冬季の森林散策を行いました。

実習1日目から2日目間の一晩で20～30cmほどの積雪があったため、午前は積雪断面調査前に簡単な除雪作業と、資料館見学を行いました。除雪・見学後に宿泊所前で3班にわかれて積雪断面調査を行いました。

午後はスノーシューを履き、林道を歩きながら樹木の冬芽の観察など、3時間ほどフィールドワークを行いました。雪質の違い、樹木がどのように厳しい冬に順応・適応進化してきたかを学びました。この日は夕食後に「トチノキの伝統的利用と地域資源としての活用」というテーマで講義が行われました。

実習3日目は栃へし作業と、ビジターセンターでグループディスカッションを行いました。

午前は宿泊所で栃へし（栃の実の皮を剥く作業）を行いました。芦生研究林は地域住民・団体と、栃の実プロジェクトを進めています。このプロジェクトではトチノキの保全、栃の実の地域づくりへの活用、教育を一体的に協働して進めようとしています。その一環で、栃へしを学生さんにも体験してもらい、伝統知やこうした超学際研究プロジェクトを学んでもらうため、実施しました。地域団体の方から、作業の手順や専用の道具の使い方、そして栃を利用する文化を守りたいという思いを話していただきました。またこの日の昼食に栃餅をいただきました。栃餅ができあがるまでに栃へしを含めとても手間がかかっており、あく抜きのための灰の入手など人が森とともに暮らしてきた生活があってこそ成り立ってきたことに気づき、栃餅の価値を初めて知り、もっと都市住民にも知ってもらいたいという意見や、かつては各家庭で行われていた栃へしが、現在は共同作業として行われており、そこに住民間の交流が生まれ、機械化することの是非について考えを深めた学生もいました。

午後はビジターセンターに移動し、ビジターセンター運営協議会の事務局長の吉永さんに「京都丹波高原国定公園ビジターセンターの特色」というテーマで、センターの活動や特色に関する講義をしていただきました。そのあと、自然と人をつなぎ、地域経済にも貢献することを目的にビジターセンターで扱う商品の開発をテーマにグループディスカッションを行いました。グループディスカッション後は京都への帰路につき、レポート課題として提案をまとめることになっています。

今回の実習を通して、たくさんの地域の方によるご支援・ご協力を賜り、より芦生らしい実習を行うことができました。研究林教職員だけではなく地域の方とも交流を行うことで、冬山でのフィールドワークのみならず、積雪地に対応した地域生活や文化といった幅広い知見を学生達は得ることができました。また地域の方々の生の声を聞き、様々な価値観や生き方に触れ、他では得がたい学びとなったと思います。今回は食材や弁当の調達もできるだけ地域で行うように工夫しました。今後も地産地消や地域経済を考慮した実習に取り組んでいきたいと考えています。

（初出 <https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/ashiu/2023/03/15/3296/>）



冬山でのフィールドワーク



栃へし体験

3) 少人数教育科目群 ILASセミナー 「里山の物質循環—燃料・肥料・食料から考える—」

上賀茂試験地長・森林情報学分野 教授 舘野 隆之輔

2022年度から新たに開講した ILAS セミナー「里山の物質循環—燃料・肥料・食料から考える—」を、2023年5月28日、8月9日、8月10日の3日間の日程で上賀茂試験地において実施しました。この科目は、全学の主に1回生を対象とした授業であり、今回は9人の学生が受講しました。

初日は、上賀茂試験地の概要説明と「里山の物質循環」に関する講義を行いました。さらに温室や資料館、見本園など試験地見学を行いました。午後には、物質循環に関連した基本的なフィールド調査である毎木調査や樹木識別、土壌調査について野外で学びました。さらに、里山での資源利用について、特に「燃料」に着目して、下刈り体験や薪割り体験、炭窯見学など里山での作業や見学を通して体験的に学びました。

2-3日目は、窒素肥料と食料の関係を物質循環の観点から概説する講義や森林の現存量推定の方法に関する講義を行いました。引き続き、上賀茂試験地で過去に行われた毎木調査のデータや国内の里山で行われた様々な研究データを用いて、上賀茂試験地の約50haの土地でどのくらいの世帯の燃料を賄うことができるかを試算したり、落葉落枝を堆肥とした場合、どのくらいの肥料を得ることができるのかを試算したりして、発表とレポートの作成を行いました。

また3日目の昼食は、自分たちで割った薪を使い、ロケットストーブで簡単な昼ご飯を作り、ガスや電気に頼らない暮らしの一部を体験しました。



下刈り体験と里山管理の考察



土壌断面と土層の観察

4) 少人数教育科目群 ILASセミナー 「魚類心理学入門」

里海生態保全学分野 助教 高橋 宏司

2022年7月1日（金）-3日（日）ILASセミナー「魚類心理学入門」の実習が実施されました。ILASセミナーは京都大学の新入生が受講できる少人数セミナーであり、様々な研究室が様々なテーマのもと開講しています。舞鶴水産実験所は長らくILASセミナーを開講していませんでしたが、今年度は「京都の海の沿岸動物学入門」（担当：鈴木、甲斐、邊見）と「魚類心理学入門」（担当：益田、高橋）の2つを開講しました。

「魚類心理学入門」は5回の講義（農学部）と2泊3日の実習（舞鶴水産実験所）および成果発表会（農学部）により実施されました。実習には学生7人が参加し、小型の底引網や地引網により魚類を採集したり、シュノーケリングにより魚類を観察したりしました。また、各人がアイデアを活かして魚類の行動実験を行いました。

（初出 <https://www.maizuru.marine.kais.kyoto-u.ac.jp/katsudou/kyouiku.html>）



シュノーケリングの準備



シュノーケリングによる魚類の観察

5) 少人数教育科目群 ILASセミナー 「京都の海の沿岸動物学入門」

里海生態保全学分野 助教 鈴木 啓太

舞鶴水産実験所は長らく ILAS セミナーを開講していませんでしたが、今年度は「京都の海の沿岸動物学入門」（担当：鈴木、甲斐、邊見）と「魚類心理学入門」（担当：益田、高橋）の2つを開講しました。

「京都の海の沿岸動物学入門」は、3回の講義（農学部）と2泊3日の実習（舞鶴水産実験所）および成果発表会（オンライン）という構成でした。講義では、担当教員3人が「日本海的环境とプランクトン」、「日本海のベントス」、「日本海の魚と水産業」について基礎的な知識から最新の話まで幅広く解説しました。2022年7月16日（土）－18日（月・祝）に実施した実習には新入生5人（法学部2人、農・工・教育学部各1人）が参加し、教育研究船「緑洋丸」による環境観測とプランクトン・ベントス採集、刺網による魚類採集、魚市場の見学、採集物の観察・同定・計数などを行い、興味の赴くままに京都の海の魅力と不思議に触れました。また、成果発表会では、京都の海的环境と生物について新入生がそれぞれの視点から考察することができました。コロナ禍ではありましたが、大きな影響を受けることなく、全日程を予定通り実施することができて、大変幸運でした。

（初出 <https://www.maizuru.marine.kais.kyoto-u.ac.jp/katsudou/kyouiku.html>）



刺網の漁獲物の選別



漁獲物の同定と計数

6) 少人数教育科目群 ILASセミナー 「海洋共生生態学入門」

里海生態保全学分野 助教 後藤 龍太郎

海洋生物の共生関係の多様性に注目した ILAS セミナーを 2022 年度新たに開講しました (担当: 後藤、邊見、山守)。本実習は、2022 年 9 月 11 日から 13 日にかけて、参加者の学部 1 回生 3 人とともに和歌山県白浜町にある瀬戸臨海実験所にて実施しました。初日は、臨海から歩いてすぐの磯に出て、ウニの巣穴とそこに棲む共生生物などを対象に採集・観察を行いました (図 1)。夜は海の生物の共生関係とそれに関連する研究について各教員が講義を行いました。二日目は、午前中に白浜水族館の展示で見られる共生関係 (ホンソメワケベラと他の魚との掃除共生やクマノミとイソギンチャクの防衛共生など) を観察した後 (図 2)、昼からは近所の干潟に移動し (図 3)、スコップやヤビーポンプという道具を使用して巣穴形成性甲殻類とその共生者の採集を行いました。持ち帰ったヨコヤアナジャコとその巣穴に共生するセジロムラサキエビを水槽内で観察し (図 4)、興味深くもあまり目にすることのないその不思議な生態をじっくり見ることができました。最終日には、実習で見たことや観察したことを発表してもらい、レポートも提出してもらいました。磯、干潟、水族館、講義と盛りだくさんの内容となりましたが、皆頑張って積極的に参加してくれました。天気にも恵まれフィールドで充実した採集・観察ができ、海の共生の多様性や面白さを実感してもらえたのではないかと思います。



図 1 磯でのウニ巣穴観察



図 2 水族館での共生の観察



図 3 干潟での甲殻類の巣穴探し



図 4 セジロムラサキエビの共生

(3) 全学共通科目

(講義・実習：統合科学科目群)

講義名	担当教員	形態	対象	開講期	単位
森里海連環学Ⅰ：森・里・海と人のつながり	徳地、館野、益田、三田村、下村、赤石	講義	全回生	前期	2
森里海連環学Ⅱ：森林学	徳地、長谷川、館野、伊勢、石原、小林(和)、中西、坂野上、松岡、杉山、吉岡、赤石ほか	講義	全回生	前期	2
森里海連環学実習Ⅰ：芦生研究林ー由良川ー丹後海のつながりを探る	徳地、益田、坂野上、中西、甲斐、鈴木、石原、中川、邊見ほか	実習	全回生	前期集中	2
森里海連環学実習Ⅱ：北海道東部の森と里と海をつなぐ	館野、小林(和)、中西、杉山ほか	実習	全回生	前期集中	2
森里海連環学実習Ⅲ：暖地性積雪地帯における冬の自然環境	石原、坂野上、赤石	実習	全回生	後期集中	1
森里海連環学実習Ⅳ：沿岸域生態系に与える陸・川・人の影響	朝倉、下村、中野、後藤、山守ほか	実習	全回生	後期集中	2

※森里海連環学実習Ⅱはオンライン開催

(講義・実習：キャリア形成科目群)

講義名	担当教員	形態	対象	開講期	単位
博物館実習（館園実務）	甲斐、下村、邊見ほか	実習	3回生～	後期集中	1

(ILASセミナー：少人数教育科目群)

講義名	担当教員	形態	対象	開講期	単位
フィールド実習“森は海の恋人”	朝倉、下村、中野、後藤、山守	ゼミ	1回生	前期集中	2
森での感動を科学する	伊勢	ゼミ	1回生	前期集中	2
京都の文化を支える森林ー地域の智慧と生態学的知見	徳地、石原、坂野上	ゼミ	1回生	前期集中	2
貝類の不思議	中野	ゼミ	1回生	前期集中	2
森を育て活かすー林業体験をとおして考える	長谷川	ゼミ	1回生	前期集中	2
甲殻類学入門	下村	ゼミ	1回生	前期集中	2
森と暮らしを繋ぐ持続可能なデザイン	徳地、赤石	ゼミ	1回生	前期	2
里山の物質循環ー燃料・肥料・食料から考えるー	館野	ゼミ	1回生	前期集中	2
魚類心理学入門	高橋、益田	ゼミ	1回生	前期	2
京都の海の沿岸動物学入門	鈴木、甲斐、邊見	ゼミ	1回生	前期	2
海洋共生生態学入門	後藤、邊見、山守	ゼミ	1回生	前期集中	2
北海道の昆虫相	小林(和)	ゼミ	1回生	前期集中	2

(4) 大学院教育・学部教育

フィールド研は、協力講座として、京都大学大学院農学研究科へ3分野、理学研究科へ1分野が参画して、大学院教育および学部教育を行っている。また、大学院地球環境学舎へ協力分野として参画している。

協力講座としての教員配置と学生数（2022年12月現在）

	専攻	分野	教員	ポスドク など	博士後期 課程	修士課程	学部生 (4回生)
農学研究科	森林科学専攻 森林資源学講座	森林育成学分野	徳地 直子（教授） 長谷川 尚史（准教授） 伊勢 武史（准教授） 石原 正恵（准教授） May Thet Su Kyaw Tint （特定助教）	1	3	5	-
		森林情報学分野	舘野 隆之輔（教授） 小林 和也（准教授） 坂野上 なお（助教） 中西 麻美（助教） 松岡 俊将（助教） 杉山 賢子（助教）	-	-	4	-
	応用生物科学専攻	海洋生物環境学分野 （流動分野）	三田村 啓理（教授） 市川 光太郎（准教授） 小林 志保（助教） 久米 学（特定助教）	-	4	11	4
		里海生態保全学分野 <舞鶴水産実験所>	益田 玲爾（教授） 甲斐 嘉晃（准教授） 鈴木 啓太（助教） 邊見 由美（助教） 高橋 宏司（助教）	-	1	8(1)	-
理学研究科	生物科学専攻	海洋生物学分科 <瀬戸臨海実験所>	朝倉 彰（教授） 下村 通誉（准教授） 中野 智之（助教） 後藤 龍太郎（助教） 山守 瑠奈（助教）	3	5	1	1
地球環境学舎	資源循環学廊 （協力分野）	生態系連環論分野	徳地 直子（教授） 舘野 隆之輔（教授） 鈴木 啓太（助教）	1	-	-	-

() 内は、休学中の学生数

大学院での提供科目

大学院農学研究科 森林科学専攻

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
森林情報学特論 I	舘野、松岡	BA13	修士1回生以上	後期集中	2
森林育成学特論 I	徳地、長谷川	BA15	修士1回生以上	後期	2
森林情報学専攻演習1	舘野、小林(和)、坂野上、中西、松岡	BB44	修士1回生以上	通年	4
森林情報学専攻演習2	舘野、小林(和)、坂野上、中西、松岡	BB45	修士2回生以上	通年	4
森林育成学専攻演習1	徳地、長谷川、伊勢、石原、赤石	BB46	修士1回生以上	通年	4
森林育成学専攻演習2	徳地、長谷川、伊勢、石原、赤石	BB47	修士2回生以上	通年	4
森林情報学専攻実験1	舘野、小林(和)、坂野上、中西、松岡	BC44	修士1回生以上	通年	5
森林情報学専攻実験2	舘野、小林(和)、坂野上、中西、松岡	BC45	修士2回生以上	通年	5

森林育成学専攻実験1	徳地、長谷川、伊勢、石原、赤石	BC46	修士1回生以上	通年	5
森林育成学専攻実験2	徳地、長谷川、伊勢、石原、赤石	BC47	修士2回生以上	通年	5

大学院農学研究科 応用生物学専攻

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
海洋生態学特論	益田、甲斐、鈴木、高橋、邊見	DA22	修士1回生以上	前期集中	2
応用生物学特別講義 IV	益田ほか	DA40	修士1回生以上	前期集中	1
海洋生物環境学特論I	三田村、市川、小林(志)、久米ほか	DA50	修士1回生以上	後期	2
海洋生物環境学特論II	三田村、市川、小林(志)、久米ほか	DA51	修士1回生以上	前期集中	2
海洋生物環境学演習1	三田村、市川、小林(志)、久米ほか	DB38	修士1回生以上	通年	3
海洋生物環境学演習2	三田村、市川、小林(志)、久米ほか	DB39	修士2回生以上	通年	3
里海生態保全学演習1	益田、甲斐、鈴木、高橋、邊見	DB50	修士1回生以上	通年	3
里海生態保全学演習2	益田、甲斐、鈴木、高橋、邊見	DB51	修士2回生以上	通年	3
海洋生物環境学専攻実験1	三田村、市川、小林(志)、久米ほか	DC38	修士1回生以上	通年	6
海洋生物環境学専攻実験2	三田村、市川、小林(志)、久米ほか	DC39	修士2回生以上	通年	6
里海生態保全学専攻実験1	益田、甲斐、鈴木、高橋、邊見	DC50	修士1回生以上	通年	6
里海生態保全学専攻実験2	益田、甲斐、鈴木、高橋、邊見	DC51	修士2回生以上	通年	6

大学院理学研究科 生物学専攻（動物学系）

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
機能形態・系統特論A	朝倉、下村、中野、後藤、山守	8131	修士1・2回生	前期	2
機能形態・系統特論B	朝倉、下村、中野、後藤、山守	8132	修士1・2回生	後期	2
海洋生物学ゼミナールA	朝倉、下村、中野、後藤、山守	8133	修士1回生	前期	2
海洋生物学ゼミナールB	朝倉、下村、中野、後藤、山守	8134	修士1回生	後期	2
海洋生物学ゼミナールC	朝倉、下村、中野、後藤、山守	8135	修士2回生	前期	2
海洋生物学ゼミナールD	朝倉、下村、中野、後藤、山守	8136	修士2回生	後期	2
海洋生物学特論	朝倉、下村、中野、後藤、山守	8040	修士1・2回生	前期	2
海洋生物学ゼミナール	朝倉、下村、中野、後藤、山守		博士後期課程		

大学院地球環境学舎 環境マネジメント専攻

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
森里海統合管理学	徳地、舘野、石原、益田、朝倉、三田村、鈴木、赤石ほか	3304	修士1・2回生	前期	2
(生態系連環論) 国際環境マネジメント基礎演習	徳地、舘野	3363	修士2回生	前期・後期	1
(生態系連環論) 環境マネジメント基礎演習	徳地、舘野	3380	修士2回生	前期・後期	1
(生態系連環論) 修士論文	徳地、舘野		修士2回生		
(生態系連環論)地球環境学特別実験及び演習 Ia Ib IIa IIb IIIa IIIb	徳地、舘野	5004-9	博士後期課程	前期・後期	各1
(生態系連環論)環境マネジメント演習 Ia Ib IIa IIb	徳地、舘野	7015-8	博士後期課程	前期・後期	各1

大学院情報学研究科

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
プラットフォーム学セミナー	三田村ほか	8702	修士1・2回生	前期	2
認知科学基礎論	佐藤ほか	3151	修士1・2回生	前期	2

計算論的認知神経科学	佐藤ほか	3163	修士1・2回生	前期	2
------------	------	------	---------	----	---

学部での提供科目

農学部 森林科学科

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
森林科学概論B	徳地、伊勢、館野ほか	E104	1回生	前期集中	2
生物圏情報学I	三田村ほか	E181	3回生	前期	2
生物圏情報学II	三田村ほか	E182	3回生	前期	2
森林育成学	徳地、長谷川、石原	E191	3回生	後期	2
森林環境学	館野、坂野上、松岡	E192	3回生	後期	2
森林土木学	長谷川	E193	3回生以上	前期集中	1
生態系シミュレーション	伊勢、石原、小林(和)	E194	4回生	前期集中	2
森林基礎科学実習II	坂野上ほか	E222	2回生	後期	2
森林フィールド系実習及び実習法	長谷川、坂野上ほか	E231	3回生	前期	3
研究林実習I	石原ほか	E251	2回生	前期集中	1
研究林実習II	伊勢ほか	E252	3回生	前期集中	1
研究林実習III	館野、小林(和)、中西ほか	E253	3回生	前期集中	2
研究林実習IV	館野、小林(和)、中西ほか	E254	3回生	後期集中	2
課題研究(森林科学科)	森林科学科教員	E302	4回生		10

農学部 資源生物科学科

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
資源生物科学概論B	三田村ほか	A106	1回生	前期	2
海洋生物科学技術論と実習I	三田村、市川、小林(志)、益田、甲斐、鈴木、邊見、高橋ほか	A205	2回生	前期集中	2
海洋生物科学技術論と実習II	益田、甲斐、鈴木、邊見ほか	A206	2回生	前期集中	2
海洋生物環境学I	三田村、市川、小林(志)、久米	A223	3回生	前期	2
海洋生物生態学	益田、邊見、高橋ほか	A224	3回生	前期	2
生物圏情報学I	三田村ほか	A235	3回生	前期	2
資源生物科学専門外書講義I(海洋生物G)	三田村、市川ほか	A236	3回生	前期	2
資源生物科学専門外書講義I	三田村、市川ほか	A237	3回生	後期	2
海洋生物科学技術論と実習IV	益田、甲斐、鈴木、邊見、高橋	A258	2回生	後期集中	2
海洋生物科学	三田村、市川、小林(志)ほか	A259	2回生	後期	2
海洋資源生物学基礎	三田村、益田、市川ほか	A272	2回生	前期	2
魚類学	甲斐	A275	3回生	後期	2
海洋生物環境学II	三田村、市川、小林(志)、久米	A307	3回生	後期	2
生物圏情報学II	三田村ほか	A314	3回生	前期	2
海洋生物資源学演習	三田村、市川、小林(志)、久米	A512	4回生	通年	2
課題研究	資源生物科学科教員	A518	4回生		10

理学部 生物科学科

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
海洋生物学	朝倉、下村、中野、後藤、山守	2705	2回生以上	前期	2
無脊椎動物学	朝倉、下村、中野、後藤、山守	2708	2回生以上	後期	2
臨海実習第1部	朝倉、下村、中野、後藤、山守	2733	2回生以上	前期集中	2
生物学セミナーB	朝倉、下村、中野、後藤、山守	3761	3回生以上	後期	2
臨海実習第2部	朝倉、下村、中野、後藤、山守	3767	3回生以上	前期集中	2
臨海実習第4部	朝倉、下村、中野、後藤、山守	3769	3回生以上	前期集中	2

◆学位授与

(農学：森林情報学分野)

修士 藤井 英雅 生分解性プラスチックの森林林床と室内培養条件における分解とそれに関わる微生物群集

修士 大上 迪士 冷温帯の源流域における河川水中の微生物群集の時空間変動

(農学：森林育成学分野)

博士 May Thet Su Kyaw Tint
The Study of Molecular Composition of Dissolved Organic Matter in Two Different Ecosystems: Inle Lake and Bago Mountains in Myanmar (2つの異なる生態系における溶存有機物質の分子組成に関する研究：ミャンマー、インレー湖およびバゴ山地)

博士 萩原 幹花 Plant-plant communication via volatile organic compounds in beech

修士 Nay Lin Maung Distribution of Mountainous Stream Water Chemistry in Miyazaki Prefecture

修士 兼元 大誠 森林内GNSS利用におけるマルチパスの発生状況および、フィルタリングによる測位精度の変化

修士 Azwar Azmillah Sujaswara
Evaluating the Potential of UAV Structure-from-Motion for Generating Forest Digital Twin to Derive Forest Inventory Data (森林資源データの取得のためのデジタルツイン構築におけるUAV-SfMの適用可能性評価)

(農学：里海生態保全学分野)

修士 岡本 咲人 マナマコの被食時における環境DNA放出

修士 近村 勇之助 マアジにおける種内および種間の社会行動を駆動する要因

修士 福沢 風人 日本産コオリカジ属魚類の分類学的再検討

(農学：海洋生物環境学分野)

博士 Saliza Binti Awang Bono
Acoustic behaviour of small cetaceans in northwest Peninsular Malaysia in relation to behavioural, environmental and anthropogenic factors (マレーシア半島北西部における小型鯨類の発声と行動、環境及び人為的要因の関係)

修士 南部 正裕 気候変動による大雨の増加が閉鎖性海域の塩分場及び養殖二枚貝の生理状態に与える影響の定量化

修士 本田 拓 小河川に生息するニホンウナギの微生息環境利用に体サイズが与える影響とその季節的变化に関する研究

修士 壇辻ゆりか 超音波テレメトリーを用いた福島県松川浦における希少種ホシガレイ人工種苗の放流時期間の行動把握

修士 西川 寛太郎 パイオテレメトリーを用いたイセエビの増殖場利用に関する研究

修士 前田 裕也 アオウミガメ幼体の脱出行動と音との関係に関する研究

修士 前川 尚徳 短期的な時間スケールでのアオウミガメの移動に関する研究：産卵上陸前の行動に注目して

学士 長村 啓太 銀化したニホンウナギの降河行動を誘発する環境因子に関する研究

学士 荒井 優志 魚類および鳥類による被食に着目したホシガレイ種苗の放流適地の検討

学士 得田 悠裕 石垣島伊原間浜におけるアオウミガメの産卵地選択と植生環境との関係

学士 池田 岳弘 瀬戸内海伊予灘北部海域におけるスナメリ (*Neophocaena asiaorientalis*) の分布特性に関する研究

(理学：基礎海洋生物学分野)

博士 Paran, Faith Jessica Moron
Molecular phylogeny of *Patelloida saccharina* complex

学士 堀之内 恵志 ヒメスナホリムシ(甲殻亜門：等脚目)の繁殖様式と遊泳に関する生態の考察

(5) 教育関係共同利用拠点事業

1) 公開実習科目一覧

フィールド研9施設のうち、2011年4月に舞鶴水産実験所および瀬戸臨海実験所が、2015年7月に芦生研究林・北海道研究林・上賀茂試験地が、文部科学省から教育関係共同利用拠点到認定され、拠点事業として、公開実習を実施するほか、他大学による実習、および他大学生、大学院生による論文作成のための利用を受け入れている。2022年度に実施した公開実習は以下の16科目である。

黒潮海域における海洋生物の自然史科学に関するフィールド教育共同利用拠点（瀬戸臨海実験所）

科目名	担当教員	実習期間	日数	学生数	学生の所属等
博物館実習（館園実務）	朝倉、下村	2022-06-28/07-02	5	3	北里大学(3)
自由課題研究	朝倉、下村、中野、後藤、山守	2022-08-08/12	5	3	近畿大学、九州大学、大阪公立大学
Functional Morphology and Evolutionary Biology of Marine Invertebrates	朝倉、下村、中野、後藤、山守	2022-09-05/09	5	4	滋賀県立大学、岡山大学、新潟大学、高知大学
海産無脊椎動物分子系統学実習	朝倉、下村、中野、後藤、山守	2023-02-25/03-04	8	8	筑波大学、東北大学、京都大学(2)、上智大学、新潟大学(2)、東京海洋大学
藻類と海浜植物の系統と進化	朝倉、下村、中野、後藤、山守	2023-03-08/12	5	7	東京大学、東北大学、上智大学、山形大学、愛媛大学、九州大学、東京海洋大学
沿岸域生態系多様性実習	朝倉、下村、中野、後藤、山守	2023-03-21/26	6	3	東京都立大学、三重大学、東北大学

日本海における水産学・水圏環境学フィールド教育拠点（舞鶴水産実験所）

科目名	担当教員	実習期間	日数	学生数	学生の所属等
森里海連環学実習I	益田、甲斐、鈴木、邊見ほか	2022-08-08/12	5	1	東京海洋大学
魚類学実習	益田、甲斐、鈴木、邊見ほか	2022-08-26/31	6	3	水産大学校(2)、北海道大学
無脊椎動物学実習	益田、甲斐、鈴木、邊見ほか	2022-08-31/09-05	6	1	水産大学校
博物館実習（館園実務）	甲斐、鈴木、邊見	2022-11-22/26	5	0	(京大生のみ)
仔稚魚学実習	益田、甲斐、鈴木、邊見、高橋	2023-03-06/10	5	2	近畿大学、京都府立大学

人と自然のつながりを学ぶ森林フィールド教育共同利用拠点（芦生研究林・北海道研究林・上賀茂試験地）

科目名	担当教員	実習期間	日数	学生数	学生の所属等
森里海連環学実習I （舞鶴水産実験所と共同開催）	徳地、石原、坂野上、中西	2022-08-08/12 (2022-08-08)	5	1	東京海洋大学
森里海連環学実習II （北海道大学と共同開催）	館野、小林(和)、中西ほか	2022-09-04/07	4	7	北海道大学(7) (オンラインで実施)
公開森林実習I 近畿地方の奥山・里山の森林とその特徴	徳地、伊勢、石原、坂野上	2022-09-07/09	3	10	信州大学(4)、静岡大学、新潟大学、静岡大学、東京農工大学、北海道大学 (オンラインで実施)
公開森林実習II 夏の北海道東部の人と自然の関わり	小林(和)、杉山	2022-08-07/11	5	7	筑波大学(2)、京都府立大学、信州大学、日本大学、北海道大学、東京農業大学
公開森林実習III 森林・里山の生態系サービスを学ぶ	館野、赤石	2022-10-15/12-10	5	10	京都工芸繊維大学(2)、滋賀県立大学、佛教大学、京都芸術大学、京都産業大学、京都女子大学、京都大学大学院

2) 舞鶴水産実験所における教育関係共同利用拠点事業

舞鶴水産実験所長 益田 玲爾

■他大学生を対象とした公開実習

全国共同利用教育拠点としての活動は、本年度が3期2年目となる。新型コロナウイルス感染予防のため、実習の定員は本学と他大学の学生の合計で原則7人までとし、実習日程のうち半分程度はオンラインで指導した。他大学からの実習利用等でこれを超える参加人数の希望のある場合は、舞鶴市内の宿泊施設を利用して頂いた。

全国の大学生を対象に以下の5科目の公開実習を開講した。「森里海連環学実習I」は、芦生研究林内の由良川上流域から舞鶴市神崎の河口までの調査定点にて魚類と水生昆虫、プランクトン等を採集し、同時に水質や環境データを取得して、河川を經由した陸域と海域のつながりについて理解を深める実習である。本学の学生に加え、他大学生1人が参加した。「魚類学実習」では、由良川河口付近での魚類と餌生物の採集や魚類の解剖、仔稚魚の食性分析等を指導した。他大学生3人を特別聴講学生として受け入れた。「無脊椎動物学実習」では、緑洋丸に乗船しての底生生物の採集・分類とDNA分析、および環境観測を通して、沿岸生物の多様性と環境の関係を学んでもらった。他大学生1人を特別聴講学生として受け入れた。「博物館実習（館園実務）」では、魚類標本の作製とそのデータベース化について経験させた。「仔稚魚学実習」では、教育研究船・緑洋丸に乗船しての生物採集と分類、またズスキ仔魚を材料とした耳石日周輪の解析や餌生物の分析等を経験してもらった。他大学生2人が参加した。なお、予定していた「魚類生態学実習」は、台風接近のため中止とした。これら実習における他大学からの受講者は延べ39人であった。

■他大学による実習の受け入れ

近畿大学農学部3回生を対象とした環境管理学専門実験・実習Iを6月に実施し、延べ16人が参加して、海洋観測、魚類学、底生動物学等の実習を経験した。関西学院大学生命環境学部1・2回生を対象とした実習を8月に実施し、延べ100人の学生が参加して、魚類学習心理学、発生学、魚類・無脊椎動物分類学、沿岸海洋生態学等を学んだ。岐阜大学教育学部1・2回生を対象とした実習を9月に実施し、述べ56人が参加して、藻類学、発生学、魚類学、無脊椎動物学、沿岸海洋生態学等を学んだ。

■他大学生、大学院生による論文作成のための利用

共同利用研究として、北海道大学・東京大学・東京海洋大学・福井県立大学・京都教育大学・大阪公立大学・近畿大学・兵庫県立大学・高知大学の9大学から合計11件、延べ76人の利用を受け入れた。

■運営実施体制

専任教員・研究員に加えて技術補佐員1人が共同利用を担当し、各自の専門性を活かしたサポートを行った。宿泊施設担当の労務補佐員を雇用し、宿泊棟を管理している。

共同利用運営委員会を4月に開催し、拠点としての質の向上を目指した。フィールド実習教育に関するワークショップを開催し、近畿大学のジン・タナンゴナン講師から「近畿大学の实習と卒業研究」と題して講演頂いた。

実験所の公式ツイッター (https://twitter.com/mai_fish_res_st) では、実習に関する情報に加えて、当実験所で行われている調査研究や、市場に上がる魚などの情報を、基本的に毎日発信している。



関西学院大学の学生を受け入れての緑洋丸からの海洋観測実習（2022年8月）



磯観察のため緑洋丸から宮津市島陰の海に飛び込む岐阜大の実習生ら（2022年9月）

3) 黒潮海域における海洋生物の自然史科学に関するフィールド教育共同利用拠点

瀬戸臨海実験所長 下村 通誉

■公開実習

瀬戸臨海実験所では、国立大学法人臨海臨湖実験所長会議に所属する施設が開講する公開臨海実習を文部科学省の財政的支援を受けながら 1989 年度から実施しており、2011 年度に文部科学省から教育関係共同利用拠点（教育拠点）に認定されてからは、当該事業として開講している。2012 年度からは概算要求による運営費交付金を獲得し、従来年間 2 科目の開講していたものを 5 科目に拡充し 2015 年度まで行った。2016 年度に教育拠点第二期の申請が認められ 5 ヶ年事業として実施した。2017 年度からはさらに 1 科目を増やし合計 6 科目とした。2021 年度に教育拠点第三期の申請が認められ 5 ヶ年事業の予定で実施中であり、2022 年度は公開実習 6 科目を実施した。

1. 博物館実習（館園実務）：2022年6月28日～7月2日。1大学3人延べ15人参加。
2. 自由課題研究：2022年8月8～12日。3大学3人延べ15人参加。理学部臨海実習第1部と日程・内容を重ねた。
3. Functional Morphology and Evolutionary Biology of Marine Invertebrates：2022年9月5～9日。4大学4人延べ20人参加。理学部臨海実習第2部と日程・内容を重ねた。
4. 海産無脊椎動物分子系統学実習：2023年2月25～3月4日。6大学8人延べ64人参加。
5. 藻類と海浜植物の系統と進化：2023年3月8～12日。7大学7人延べ35人参加。理学部臨海実習第3部と日程・内容を重ねた。
6. 沿岸域生態系多様性実習：2023年3月21～26日。3大学3人延べ18人参加。全学共通科目「森里海連環学実習 IV：沿岸域生態系に与える陸・川・人の影響」と日程・内容を重ねた。

■他大学による実習の受け入れ

瀬戸臨海実験所では、施設・設備を活用して行った他大学による臨海実習を共同利用実習として受け入れており、本年度は対面実習の他、集団宿泊による新型コロナウイルス感染拡大を回避するために実験所教員が他大学に出向いて実施するアウトリーチ形式で行った。受け入れ数は、対面実習は5大学（2国立校、2公立校、1私立校）、5科目、27日間、延べ379人、アウトリーチ形式の実習は1大学（1国立校）、1科目、3日間、延べ45人であった。

■他大学学部生、大学院生による研究利用

瀬戸臨海実験所では、他大学の学部生および大学院生による研究目的での利用を共同利用研究として受け入れている。本年度の受け入れ数は、4国立校、8課題、延べ68人であった。

■運営実施体制

4月15日に共同利用運営委員会（学内委員4人・学外委員6人）をZoomでオンライン開催し、2021年度実績報告、2022年度事業計画の検討、2022年度実施計画書の検討を行った。

各拠点事業（公開臨海実習・共同利用実習・共同利用研究）については、実験所教員5人（教授1人・准教授1人・講師1人・助教2人）、技術職員5人、事務職員5人が分担して運営にあたったほか、拠点に対する運営費交付金を使って雇用した研究員1人が、拠点事業の運営補助にあたった。

■その他

拠点に対する運営費交付金を使って、拠点事業で用いる物品を充実させ、教育研究環境の向上を図った。また拠点事業による船舶の使用については、使用料を徴収しないようにした。

2022年4月15日に水産・臨海・臨湖実験所フィールド実習ワークショップをオンラインで行った。近畿大学の Jean Tanangonan 講師をお招きし「近畿大学の实習と卒業研究」を舞鶴水産実験所と共催で行った。

4) 人と自然のつながりを学ぶ森林フィールド教育共同利用拠点（芦生・北海道・上賀茂）

森林情報学分野 准教授 小林和也

■公開森林実習等の実施

本事業は全国の大学生への共同利用実習科目提供を拡充するとともに、他大学による実習科目や学部生・院生の卒業・修士論文のための教育研究利用を広く公募し、施設の共同利用の推進を目的としている。2022年度は、芦生研究林・上賀茂試験地・北海道研究林で単位互換を伴う公開森林実習I・II・IIIを企画したが、新型コロナウイルスの影響を受け、一部の実習がオンラインとなるなど、利用者数は伸び悩んだ。一方、コロナ禍で整備を進めたオンライン教材は、オンライン実習に活用するだけでなく、再開できた対面実習でも活用され、利用者から好評であった。

■拠点施設が主体となる共同利用実習の提供

公開森林実習Iは新型コロナウイルスの影響でオンライン実習となり、信州大学:4(うち外国籍1)人、静岡大学:1人、新潟大学:1(うち外国籍1人)、東京農業大学:1人、北海道大学:1人、延べ32人が受講した。芦生研究林や上賀茂試験地を例に森林と人の関わりの変遷について講義し、学生が各地で撮影した樹木やきのこの写真を同定する双方向オンライン実習を開催した。また、北海道研究林からオンラインで北海道の森林について講義を行い、関西の森林と比較した。

公開森林実習IIは宿泊定員の制限はあるものの、3年ぶりに対面で実習を実施した。特別聴講生として筑波大学2人、京都府立大学1人、信州大学1人、一般聴講生として日本大学1人、北海道大学1人、東京農業大学1人が参加し、延べ42人が受講した。北海道の自然環境と人間活動の関係を学んだ。

公開森林実習IIIは大学コンソーシアム京都の提供科目として開講し、上賀茂試験地で行い、滋賀県立大学1人、佛教大学1人、京都芸術大学1人、京都産業大学1人、京都女子大学1人、京都工芸繊維大学3人、京都教育大学2人、京都大学1人、京都大学大学院1人が参加し、延べ44人が参加した。このうち、2人は過去の受講学生で、実習のリピーターであった。森林整備やバイオマス利用の体験を中心に里山の生態系サービスを学ぶ実習を行った。

■他の教育拠点との協働による共同利用実習の提供

森里海連環学実習Iを芦生研究林と舞鶴水産実験所が共同で実施し、本学学生4人、東京海洋大学1人が参加し、延べ5人が受講した。新型コロナウイルス感染症拡大のためフィールドでの滞在時間を短縮したが、VRを活用して森林の解説を行い補完した。

森里海連環学実習IIは北海道研究林と北海道大学厚岸臨海実験所が共同で実施し、宿泊定員の制限はあるものの、3年ぶりに対面で実施した。本学学生7人、北海道大学7人が参加し、延べ56人が受講した。講義資料を用いたオンデマンド講義に加え、安全教育、ガイダンス、森から海までの生態系と人間活動の影響に関する各種講義を行い、グループディスカッションを通して班ごとに実習で学んだ内容の発表を行った。

■他大学の实習科目等、卒業研究・修士研究に関する教育へのフィールドの提供と支援

京都教育大学1件、京都光華女子大学1件、京都精華大学3件、京都府立大学2件、人間環境大学2件、大阪産業大学1件、福井県立大学1件、立正大学1件、放送大学3件、酪農学園大学1件、龍谷大学1件、和歌山大学1件の実習・ゼミ等、合計18件を受け入れ、拠点施設の教職員が講義や実習を担当・支援した。また、芦生研究林で日本水環境学会のワークショップ、北海道研究林で生物地球化学研究会の現地セッションを受け入れ、それぞれ教職員が対応した。

■ネットワークを活用した実習フォローアップと教育プログラムの新規開発・提案・改善

公開森林実習Iでは芦生研究林と上賀茂試験地のそれぞれで得られたデータを使った分析を行うとともに、北海道研究林とオンラインで接続し、北海道の森林の現状について講義を行って、関西と北海道のそれぞれで森林と人間活動の関係を比較した。学生が撮影してきた各地の森林の樹木やきのこの写真を写真から同定する双方向オンライン実習を開催した。オンラインでの実習をスムーズに行うためWebサービス（SpatialChat）を用いて参加者で議論を行った。

■資料、試料と蓄積データの提供

拠点施設での長期モニタリング調査を継続して実施するとともに、共同利用者に対して、必要となる資試料を提供した。また、全国大学演習林協議会やJaLTER（日本長期生態学研究ネットワーク）のプロジェクトとして毎木調査のデータベース化を推進し、データの整理を進め、データペーパーとしての原稿を準備している。

(6) 研究活動・外部資金の獲得状況

研究プログラム委員会委員長／徳地 直子

2022年度 受託研究

(金額の単位はすべて千円)

委託者	事業名	研究担当者	職種	研究課題名	2022年度 交付額
国立研究開発法人科学技術振興機構	-	徳地 直子	教授	攪乱生態系における水質変動メカニズムの解明	650
国立研究開発法人水産研究・教育機構	水産資源調査・評価推進委託事業	三田村 啓理	教授	くろまぐろユニットのうちクロマグロ幼魚の成長量の個体差及び季節差の発現機序に関する研究	1,960
国立大学法人福島大学	農林水産省農林水産分野の先端技術展開事業	三田村 啓理	教授	ICTインフラを用いた効率的な種苗放流による資源の安定化	15,665
国立研究開発法人科学技術振興機構	未来社会創造事業	吉川 左紀子	特任教授	表情からの感情センシングによるウェルビーイング向上のための生理計測	4,745
株式会社バイオマスエネルギー	-	長谷川 尚史	准教授	兵庫県に適した植栽樹種の調査・研究	1,000
千葉県立中央博物館	環境研究総合推進費	中野 智之	講師	深海大型生物相の環境DNAによるモニタリング法の開発	2,860
受託研究	計6件				26,880

2022年度 受託事業

委託者	委託事業名	研究代表者	職種	2022年度 交付額
京都府	令和4年度京都丹波高原国定公園生態系維持回復事業生態系モニタリング調査等業務	石原 正恵	准教授	2,168
一般財団法人日本国際協力センター	令和4年度人材育成奨学計画(JDS)特別プログラムに係る委託契約	徳地 直子	教授	147
受託事業	計2件			2,316

2022年度 学術指導

委託者	学術指導名	研究担当者	職種	2022年度 交付額
いであ株式会社	海洋哺乳類の水中鳴音判別に関する指導	市川 光太郎	准教授	864
学術指導	計1件			864

2022年度 共同研究

委託者	委託研究名	研究担当者	職種	研究担当者	2022年度 交付額
パナソニックホールディングス株式会社	持続可能社会に向けた「自然・こころ・社会」からの超学際研究	朝倉 彰	教授	-	2,600
パナソニックホールディングス株式会社	森里海連環学のテーマ探索	朝倉 彰	教授	-	1,300
鳥取大学乾燥地研究センター	乾燥地における主要緑化樹種の根圏における微生物多様性と樹木の生理特性	舘野 隆之輔 (代表)	教授	-	1400
株式会社アクアサウンド	スマート・バイオテレメトリー技術の開発	三田村 啓理	教授	-	572

国立極地研究所	双方向通信・GPSロガーを用いたアデリーペンギンの群れ行動解析	三田村 啓理 (代表)	教授		100
国立研究開発法人理化学研究所	自然環境における感情センシング研究	吉川 左紀子	特任教授	-	880
放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点	魚類の放射能汚染のリスク評価に向けた原発周辺海域の魚類の移動生態の解明 ～バイオリギング技術の適用～ (採択番号:F-22-33)	野田琢嗣	研究員		160
共同研究	計7件				7,012

2022年度 寄附金

寄付者 (団体)	プロジェクト名	担当教員	職種	2022年度 交付額
公益財団法人 イオン環境財団	新しい里山・里海共創プロジェクト研究	朝倉 彰	教授	30,000
公益財団法人 河川財団	陸域由来の微生物が水系の物質循環に与える影響	舘野 隆之輔	教授	1,000
一般財団法人 自然環境研究センター	森林生態系の長期動態に関する研究助成金	舘野 隆之輔	教授	1,800
パナソニックホールディングス株式会社	森林土壌が持つ有機物分解機能に関する研究助成	舘野 隆之輔	教授	1,000
吉川 左紀子	森林生態系の長期動態に関する研究助成金	舘野 隆之輔・ 徳地 直子	教授	1,000
一般財団法人 自然環境研究センター	森林生態系の長期動態に関する研究助成金	徳地 直子	教授	1,860
公益財団法人 河川財団	タケの侵入が河川水水質形成に及ぼす影響	徳地 直子	教授	1,000
認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン	環境DNAを用いた魚類調査プロジェクト	益田 玲爾	教授	137
オーシャン貿易株式会社	沿岸藻場の維持管理方策研究のため	益田 玲爾	教授	2,000
公益財団法人 日本生命財団	塩性湿地の創出を基軸とした災害に強い森里海まちづくり	益田 玲爾	教授	400
公益財団法人 河川財団	都市河川におけるニホンウナギの生息場の評価: 河川環境の再生を目指して	三田村 啓理	教授	1,000
株式会社アクアサウンド	海洋生物環境学に対する研究助成	三田村 啓理	教授	840
サントリーホールディングス株式会社	都市近郊の里山林における「環境林施業と持続可能なバイオマス利用」に関する研究の助成	長谷川尚史	准教授	1,000
一般財団法人 自然環境研究センター	森林生態系の長期動態に関する研究助成金	石原 正恵	准教授	1,610
関連企業、実験所関係者 他 (計62件)	瀬戸臨海実験所の運営全般にかかる助成金	下村 通誉	准教授	1,883
宮津湾とり貝育成組合	宮津湾の環境調査助成	鈴木 啓太	助教	120
舞鶴とり貝組合	舞鶴湾の環境調査助成	鈴木 啓太	助教	600
公益財団法人 水産無脊椎動物研究所	日本列弧におけるウニの巣穴の住み込み共生生物の多様性の解明	山守 瑠奈	助教	700
公益財団法人 河川財団	堰を登れるウナギと登れないウナギは何が違うのか	久米 学	特定助教	1,000
公益信託 富士フィルム・グリーンファンド	耳石微量元素分析を用いたニホンウナギのハビタット間移動と堰との関係の解明	久米 学	特定助教	1,550
公益財団法人 阪本奨学会	VR動画作成に関する技術検討	藤井 弘明	技術 専門員	300
寄附金	計21件			50,800

2022年度 京都大学芦生研究林基金

期間	件数	2022年度 入金額
第1四半期	22	1,345
第2四半期	19	1,167
第3四半期	19	836
第4四半期	13	457
京都大学芦生研究林基金 計73件		3,805

2022年度 科学研究費補助金 (代表者)

(交付機関はすべて独立行政法人日本学術振興会)

研究種目	研究者	職種	研究期間 (年度)	課題番号	研究課題名	交付額合 計 ※予定含 む	2022年度 交付額
基盤研究 (A)	山下 洋	特任 教授	2020-2022	20H00432	スズキ資源の安定性を支える柔軟な河川利用生態 の解明	45,240	9,360
基盤研究 (B)	舘野 隆之輔	教授	2021-2024	21H02235	斜面地形に沿った立地条件の違いに土壤微生物群 集の機能や多様性が果たす役割の解明	17,160	4,420
基盤研究 (B)	徳地 直子	教授	2022-2025	22H02385	市民協力による広域多点採水と高精度分析技術を用 いた河川リン酸濃度決定機構の解明	17,290	4,810
基盤研究 (B)	益田 玲爾	教授	2019-2022	19H03031	水産資源生物の繁殖・被食・加入過程への環境 DNAによるアプローチ	17,160	3,510
基盤研究 (B)	伊勢 武史	准教授	2018-2022	18H03357	植物らしさとは何か：ディープラーニングによる 革新的な植生自動識別手法の開発と応用	17,030	1,300
基盤研究 (B)	小林 和也	准教授	2021-2024	21H02205	シロアリにおける性決定遺伝子とその多様化プロ セスの解明	17,290	3,770
基盤研究 (B)	中野 智之	講師	2022-2024	22H02682	小笠原諸島西之島の生物相の起源	13,130	5,850
基盤研究 (C)	長谷川 尚史	准教授	2019-2022	19K06125	固定翼型UAVを用いた精密森林情報の低コスト更 新手法の開発	4,290	-
基盤研究 (C)	下村 通誉	准教授	2020-2022	20K06795	寄生性等脚類の寄生場所の選択と形態適応に関す る研究	4,420	1,300
基盤研究 (C)	中西 麻美	助教	2017-2022	17K07840	酷暑がヒノキの花粉生産と幹成長に及ぼす影響	4,810	-
基盤研究 (C)	小林 志保	助教	2022-2024	22K12460	間欠的に貧酸素化する浅海域に生息する底生貝類 の斃死リスクに温暖化が及ぼす影響評価	4,160	2,080
基盤研究 (C)	小林 志保	助教	2019-2022	19K12415	集中豪雨に伴う淡水流入が沿岸海域の貧酸素化に 及ぼす物理的影響の評価手法の開発	4,290	-
基盤研究 (C)	鈴木 啓太	助教	2020-2023	20K06206	気候変動にともなう水循環の変化が日本海側沿岸 域の低次生物生産に与える影響	4,290	520
学術変革領 域研究(A)	石原 正恵	准教授	2022-2023	22H05722	樹木における匂い受容を介した環境ストレスと病 虫害への応答トリプルトークの解明	4,940	2,470
学術変革領 域研究(A)	伊勢 武史	准教授	2022-2023	22H05724	AIとUAVを活用したリモートセンシングの強化	9,360	4,680
国際共同研 究加速基金 (国際共同研 究強化(B))	舘野 隆之輔	教授	2020-2024	20KK0134	半乾燥生態系での植物-根圏微生物相互作用系を 活用した緑化技術の開発	18,850	4,940
研究成果公 開促進費(デ ータベース)	石原 正恵	准教授	2021-2022	21HP7003	森羅(森林プロット統合アーカイブ)	5,900	2,900
研究成果公 開促進費 (ひらめき☆ ときめきサイ エンス〜よう こそ大学の研 究室へ〜 KAKENHI)	舘野 隆之輔	教授	2022	22HT0104	身近な自然から持続可能性について学ぼう	-	500
若手研究	後藤 龍太郎	助教	2020-2022	20K15860	矮雄の起源とその進化条件の解明：浅海性二枚貝 類をモデルとして	4,290	1,300
挑戦的研究 (萌芽)	伊勢 武史	准教授	2018-2022	18K19876	人はどのように、自然に感動するのか：フィール ドで計測する文化的生態系サービス	6,500	-

挑戦的研究 (萌芽)	高橋 宏司	助教	2022-2024	22K19207	魚類の心理特性に注目した新たな増養殖技術基盤 の開発	6,370	3,120
挑戦的研究 (萌芽)	大庭 ゆりか	研究員	2019-2022	19K22929	人工衛星データと深層学習を用いた福島原発事故 に係る環境評価	6,370	-
科学研究費補助金 計22件						56,830	

2022年度 科学研究費補助金 (分担者)

(交付機関はすべて独立行政法人日本学術振興会)

研究種目	研究者	職種	代表者名 (所属)	研究期間 (年度)	課題番号	研究課題名	2022年度 交付額
基盤研究(A)	舘野 隆之輔	教授	木庭 啓介 (京都大学)	2022-2025	22H00383	動的マルチオミクス解析による土壤有機物 分解機構の解明	345
基盤研究(B)	舘野 隆之輔	教授	鶴川 信 (鹿児島大学)	2020-2023	20H03034	多種樹木の窒素獲得戦略の解明とそれに基 づく窒素循環プロセスモデルの構築	520
基盤研究(B)	舘野 隆之輔	教授	中村 誠宏 (北海道大学)	2021-2023	21H02226	森林土壤微生物群集の機能と環境応答の広 域スケール評価と空間スケール依存性の解 明	1,300
基盤研究(B)	舘野 隆之輔	教授	福澤 加里部 (北海道大学)	2022-2024	22H02376	樹木・林床植生系の菌根タイプの多様性を 考慮した森林の土壤窒素動態メカニズムの 解明	845
基盤研究(B)	舘野 隆之輔	教授	智和 正明 (九州大学)	2022-2025	22H02386	窒素沈着量の減少によって森林の生態系機 能は回復するか	520
基盤研究(B)	徳地 直子	教授	酒井 佳美 (国立研究開発法 人森林研究・整 備機構 森林総合 研究所)	2019-2023	19H03012	樹木根の分解と炭素貯留機能の持続性ー土 壌深度の影響解明と広域評価ー	423
基盤研究(S)	益田 玲爾	教授	近藤 倫生 (東北大学)	2019-2023	19H05641	沿岸生態系における構造転換：高度観測と 非線形力学系理論に基づく実証アプローチ	7,540
基盤研究(B)	三田村 啓理	教授	和田 敏裕 (福島大学)	2020-2023	20H03056	福島の漁業再興にむけた魚類の調査・放流・ 飼育試験による放射能汚染機序の統合的解 明	325
基盤研究(B)	長谷川 尚史	准教授	鈴木 保志 (高知大学)	2021-2024	21H03672	持続可能な次世代分散定住社会のために今 必要な森林地域の道路網整備の隘路はどこ か？	412
基盤研究(B)	石原 正恵	准教授	山崎 理正 (京都大学)	2021-2023	21H02234	カシノナガキクイムシの寄主選択における エラー回避機構の解明と防除への応用	403
基盤研究(S)	小林 和也	准教授	松浦 健二 (京都大学)	2018-2022	18H05268	極限寿命生物の活動的長寿を支える抗老化 システム	1,035
基盤研究(A)	下村 通誉	准教授	小島 茂明 (東京大学)	2019-2023	19H00999	北西太平洋の海溝域に生息する深海底生動 物の多様性と進化機構の網羅的解明	130
基盤研究(B)	下村 通誉	准教授	藤田 喜久 (沖縄県立芸術大 学)	2020-2024	20H03313	琉球列島の洞窟水圏環境における生物多様 性の解明	130
基盤研究(C)	石原 正恵	准教授	門脇 浩明 (京都大学)	2021-2025	21H02233	シカ食害が招く森林衰退：植物土壌フィード バックに着目して	-
国際共同研究 加速基金 (国際共同研究強 化(B))	松岡 俊将	助教	深澤 遊 (東北大学)	2020-2023	20KK0139	環北極北方林における枯死木分解に関わる 菌類群集と倒木更新の生物地理	1,040
学術変革領域 研究(A)	小林 志保	助教	杉本 亮 (福井県立大学)	2022-2026	22H05202	陸海境界領域を含む沿岸域における陸起源 物質の動態解明と縁辺海への輸送量の定量	4,615
基盤研究(B)	鈴木 啓太	助教	杉本 亮 (福井県立大学)	2021-2024	21H02271	沿岸浅海域における地下水湧出と低次生産 過程の統合的研究	2,470
基盤研究(A)	鈴木 啓太	助教	山下 洋 (京都大学)	2020-2022	20H00432	スズキ資源の安定性を支える柔軟な河川利 用生態の解明	-
基盤研究(B)	邊見 由美	助教	安房田 智司 (大阪公立大学)	2022-2024	22H02703	海産動物の共生・寄生関係の実態と進化・ 維持機構を「認知進化生態学」で紐解く	520
基盤研究(B)	野田 琢嗣	研究員	和田 敏裕 (福島大学)	2020-2023	20H03056	福島の漁業再興にむけた魚類の調査・放 流・飼育試験による放射能汚染機序の統合 的解明	325
科学研究費補助金 計20件						22,897	

2022年度 科学研究費補助金(特別研究員奨励費)

(交付機関はすべて独立行政法人日本学術振興会)

研究者	職種	指導教員名	研究期間 (年度)	課題番号	研究課題名	交付額合計 ※予定含む	2022年度 交付額
萩原 幹花	特別研究員 (DC2)	石原 正恵	2021-2022	21J15074	森林における植物間コミュニケーションの統合的な機構解明と生態系への波及効果の検証	1,500	700
杉山 高大	特別研究員 (DC2)	朝倉 彰	2022-2023	22J12554	体表寄生者における宿主の体色と一致した保護色の獲得メカニズムの解明	1,700	900
科学研究費補助金(特別研究員奨励費) 計2件							1,600

2022年度 研究助成金(学生取得分)

助成名	課題名	学生氏名	所属・学年	担当指導教員	2022年度 交付額
笹川科学研究助成	気候変動に伴う集中豪雨の増加が日本海側の閉鎖性海域における塩分場に及ぼす影響の解明	南部 正裕	修士課程2年次生	三田村 啓理	750
笹川科学研究助成	赤外線ビデオカメラを用いた長期撮影によるニホンウナギの遡上に対する河川横断構造物の影響評価	吉川 雄大	修士課程1年次生	三田村 啓理	750
公益財団法人藤原ナチュラリストリー振興財団学術研究助成	船舶騒音が小型鯨類とその摂餌対象種の行動に与える影響評価	小川 真由	博士後期課程2年次生	三田村 啓理	440
笹川科学研究助成	海棲哺乳類のテロメア長および変化量とその要因に関する研究	中陳 遥香	修士課程1年次生	三田村 啓理	660
WRC共同研究	海棲哺乳類におけるテロメア長の変動とその要因に関する研究	中陳 遥香	修士課程1年次生	三田村 啓理	100
研究助成金(学生取得分) 計5件					2,700

2022年度 次世代研究者挑戦的研究プログラム支援事業(京都大学大学院教育支援機構プログラム)

氏名	学年	指導教員名	研究期間 (年度)	研究課題名	2022年度 交付額
小泉 佳祐	博士後期課程 3回生	中野 智之	2021.10- 2023.03	海産無脊椎動物における環境 DNA と浮遊幼生の関係	400
福地 順	博士後期課程 3回生	下村通誉	2021.12- 2023.03	準絶滅危惧種ヒガタスナホリムシの分布・遺伝的集団構造・食性の解明	400
杉山 高大	博士後期課程 2回生	朝倉 彰	2021.04- 2023.03	体表寄生者における宿主の体色と一致した保護色の獲得メカニズムの解明	1,300
小川 真由	博士後期課程 2回生	三田村 啓理	2021.10- 2024.3	船舶から発せられる超音波騒音が小型鯨類の来遊と短期的行動に与える影響についての研究	400
橋添 なな実	博士後期課程 1回生	三田村 啓理	2022.4- 2025.3	クロマグロ当歳魚の回遊経路解明のための高精度位置推定技術の確立	400
次世代研究者挑戦的研究プログラム支援事業 計5件					2,900

(7) 社会連携活動

1) フィールド研主催事業

- ① 「山の健康診断」プロジェクトの中間報告会
日時：2022年8月26日
会場：オンライン開催
- ② 京大森里海ラボ by ONLINE 2022「里山・里海の魅力と課題」
日時：2022年10月23日
会場：オンライン開催
主催：フィールド科学教育研究センター、公益財団法人イオン環境財団
共催：野生動物研究センター
協力：地球環境学堂
- ③ 第1回 新しい里山里海の勉強会
日時：2023年1月20日
会場：オンライン開催
- ④ 第8回 森里海シンポジウム 京都大学・イオン環境財団「みんなで創る里山・里海の未来」
日時：2023年3月19日
会場：オンライン開催
主催：フィールド科学教育研究センター、公益財団法人イオン環境財団
(第2回 新しい里山里海の勉強会 として開催)
- ⑤ 山の健康診断プロジェクトの報告会
日時：2023年3月28日
会場：オンライン開催

2) フィールド研共催・後援事業

- ① 第18回京都大学附置研究所・センターシンポジウム「京都からの挑戦ー地球社会の調和ある共存に向けてー「創造への多様性ー京大の多彩な最先端」」
日時：2023年3月4日
会場：新潟県民会館およびオンライン
主催：京都大学、京都大学研究連携基盤

3) 各施設等主催共催事業

- ① 芦生研究林
「京都大学創立125周年記念アカデミックマルシェ」に「大学の森バーチャルツアー森林VR体験」ブースを出展 6月18日
京都丹波高原国定公園ビジターセンター運営協議会との包括連携協定締結 8月11日
京都府立植物園において、森をみつめるふたりの絵画・写真展「ASHIU FORESTー芦生の森を未来につなぐためにー」を開催 8月19～28日
京都府立植物園において、公開講演会「芦生の天然林と着生植物ー芦生の森を未来につなぐためにー」および芦生の森 VR体験会を開催 8月21日
京都丹波高原国定公園ビジターセンターと共催で、京都丹波高原国定公園ゼミ「第1講“見えない生物多様性”」および芦生の森 VR体験 8月27日
舞鶴工業高等専門学校への感謝状贈呈式およびVR連携成果発表会 9月28日
芦生研究林一般公開<京大ウィークス参加イベント> 10月22日
第3回「美山×研究つながる集会 大学と地域をつなぐッ！」 2023年2月28日
KDDI株式会社と生物多様性の保全に向けた包括連携協定締結式 2023年3月9日

- ② 北海道研究林
 初夏の花観察会「北海道フラワーソン2022」(標茶区) 6月18日
 自然観察会「秋の森の生態系」(白糠区) <京大ウィークス参加イベント> 10月22日
- ③ 和歌山研究林
 有田川町立安誦小学校との共催で、森林学習 5月19日
 有田川町立八幡小学校との共催で、森林体験学習 5月23日, 12月5日
 和歌山県紀の国森づくり基金活用事業(緑育推進事業) 10月14日, 11月10,11日
 (株式会社マルカ林業との共催)
 ミニ公開講座 <京大ウィークス参加イベント> 10月15日
- ④ 上賀茂試験地
 ひらめき☆ときめきサイエンス「身近な自然から持続可能性について学ぼう」 10月23日
 秋の自然観察会 <京大ウィークス参加イベント> 11月5日
- ⑤ 徳山試験地
 京都大学・周南市連携講座 7月16日
 鼓南中学校環境学習 9月30日
 周南市・フィールド研連携公開講座 <京大ウィークス参加イベント> 10月1日
- ⑥ 舞鶴水産実験所
 舞鶴水産実験所50周年記念シンポジウム「京都の海の魅力と不思議」 10月29日
 企画展「舞鶴水産実験所の過去・現在・未来」 10月30日
- ⑦ 瀬戸臨海実験所
 瀬戸臨海実験所附属白浜水族館 特別企画展「写真で振り返る瀬戸臨海実験所の100年」
 2022年7月28日～2023年1月10日
 公開ラボ・施設見学「白浜の海の自然と発見」 <京大ウィークス参加イベント> 10月22日
 「瀬戸臨海実験所100周年記念式典・講演会」 11月27日
 第64～75回瀬戸海洋生物学セミナー 4月27日～2023年3月27日
 瀬戸臨海実験所附属白浜水族館 特別企画展「海洋生物を究める! : JAMBIO 沿岸生物合同調査の紹介」
 2023年2月1日～
 白浜水族館で白浜の豊かな海と生き物について学ぼう! 2023年2月18日

(8) 広報活動

1) フィールド研の刊行物

□ フィールド研年報

『京都大学フィールド科学教育研究センター 年報 第19号』、京都大学フィールド科学教育研究センター、82p.、2022.

□ FSERC News

<No. 57 2022年6月>

—目次—

教育ノート ワイルド&ワイズ共学教育受入れプログラム事業「持続可能性に向けた森里海の連環」
 (徳地 直子)

社会連携ノート 第7回京都大学・日本財団 森里海シンポジウムを開催 (徳地 直子)

新人紹介: 松岡 俊将 (森林情報学分野 助教)
 横部 智浩 (森林情報学分野 特任助教)

受賞の記録:

研究者の異動:

活動の記録: 2022年1月～4月

新刊紹介:

フィールド散歩: 冬から春にかけての各施設及びその周辺の写真6枚

<No. 58 2022年10月>

—目次—

- 社会連携ノート 白浜水族館特別企画展「生物学者のひみつ道具展」 (中野 智之)
ニュース フィールド研およびイオン環境財団による「新しい里山・里海 共創プロジェクト」連携発表
ならびに寄付贈呈式を開催
京都丹波高原国定公園ビジターセンター運営協議会と包括連携協定を締結
新人紹介 杉山 賢子 (森林情報学分野 助教)
技術ノート フィールド実習の映像コンテンツ作成について (企画情報室 中村 はる奈)
受賞の記録：
研究者の異動：
活動の記録： 2022年5月～8月
新刊紹介：
予定：
フィールド散歩： 夏から秋にかけての各施設及びその周辺の写真6枚

<No. 59 2023年2月>

—目次—

- 社会連携ノート： 瀬戸臨海実験所創立100周年記念祝賀会の開催報告 (下村 通誉)
舞鶴水産実験所50周年記念のシンポジウムと企画展 (鈴木 啓太)
新人紹介 赤石大輔 (森里海連環学分野 特定講師)
技術ノート： 舞鶴水産実験所における水質分析(栄養塩)について (舞鶴水産実験所 向 昌宏)
受賞の記録：
活動の記録： 2022年9月～12月
予定：
フィールド散歩： 秋から冬にかけての各施設及びその周辺の写真6枚

□森里海ラボ

『京大森里海ラボ by ONLINE 2022 報告書 里山・里海の魅力と課題を考える』, 京都大学フィールド科学教育研究センター 発行, 20p., 2023. 02

2) 施設等の刊行物

□森林研究 (森林生態系部門紀要)

『森林研究』第81号, 京都大学フィールド科学教育研究センター森林生態系部門発行

<資料> 芦生研究林で再発見された絶滅寸前種マルバスミレ(スミレ科)

(于 佳欣, 増田 和俊, 阪口 翔太)

(オンライン版 <http://hdl.handle.net/2433/276337> のみ 2022-09-22 公開)

□瀬戸臨海実験所紀要

(2022年度は発行なし)

□研究林・試験地情報

『研究林・試験地情報 2021 (令和3) 年度』, 京都大学フィールド科学教育研究センター森林・里域フィールド管理部門, 95p., 2023-02-22

—目次—

各施設年次報告

芦生研究林年次報告 (石原 正恵)

北海道研究林年次報告 (小林 和也)

和歌山研究林年次報告 (徳地 直子)

上賀茂試験地年次報告 (館野 隆之輔)
徳山試験地年次報告 (徳地 直子)
北白川試験地年次報告 (徳地 直子)
個別報告
Project LIFEPLAN調査について (木本 恵周)
京都大学北海道研究林における野生動物自動撮影について(2015年～2021年) (林 大輔)
フィールド実習の映像コンテンツ作成について (中村 はる奈)
研修報告
研究資料
業務資料

□瀬戸臨海実験所年報

(2022年度は発行なし)

□舞鶴水産実験所 (実験所設立50周年記念出版)

山下 洋・益田 玲爾・甲斐 嘉晃・鈴木 啓太・高橋 宏司・邊見 由美 編著 『里海フィールド科学：京都の海に学ぶ
人と自然の絆』，京都大学学術出版会発行，385p.，2022. 10. 31

□瀬戸臨海実験所創立100周年記念出版編集委員会 編『海産無脊椎動物多様性学：100年の歴史とフロンティア』，京
都大学学術出版会発行，697p.，2022. 11. 20

□瀬戸臨海実験所創立100周年記念誌，瀬戸臨海実験所発行，88p.，2022. 11. 27

3. 各施設等の活動

(1) 各施設等の活動概要

1) 芦生研究林

芦生研究林長 石原 正恵

■教育研究

前年に引き続き、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大により教育研究活動へ様々な影響が出た。年度当初から8月までは感染対策を徹底し、実習を実施できたが、一部実習においてコロナ感染者が発覚し、以降実習が中止、日帰り、オンライン、またはハイブリットへと変更し、合計24件の大学教育に関わる実習を実施した。KDDI株式会社や舞鶴工業高等専門学校の手メイド部とともに制作したVR動画などのコンテンツを活用し、全国大学演習林協議会等のもとデジタル森林教育コンテンツウェブサイトを北海道大学とともに公開した。また、試料採取に来研できない利用者などに替わり、職員が試料を採取するなどの支援も行った。利用者数は、教育・研究利用者2,909人（教育926人、研究1,983人）、その他・一般3,353人、合計6,262人であった。コロナ前よりは減少しているが、前年度に比べると増加した。

前年に引き続き、生態系プロジェクト、モニタリングサイト1000、水質・気象モニタリング、河川水の環境DNAなどのプロジェクトを実施・協力すると同時に、土壌微生物群集に注目したEcoplateプロジェクト、昆虫や菌類に着目した世界規模の生物多様性調査プロジェクト「LIFEPLAN」を継続して行った。前年度に引き続き京都丹波高原国定公園生態系維持回復事業を京都府から受託し、防鹿柵の維持および柵内外での植生調査を芦生生物相保全プロジェクト(ABCプロジェクト)とともにに行い、柵内のニホンジカ2頭を捕獲した。長治谷、野田畑湿原の防鹿柵の維持管理を行った。さらに、2018年から開始した芦生希少植物域外保全プロジェクトを継続し、希少種ミニ植物園を管理した。芦生研究林基金をもとに4人の学生に公募研究の支援や研究室の整備を行った。また学会ワークショップ2件のほか、研究利用促進を目的とし、2023年3月22日に芦生Open Science Meeting 2022を実施した。

■社会連携、広報

様々なイベントや講演会を重点的に開催した。6月18日に京大125周年アカデミックマルシェにて「大学の森バーチャルツアー森林VR体験会」を実施した(128人の参加)。8月21日に京都府立植物園にて講演会「芦生の天然林と着生植物ー芦生の森を未来につなぐためにー」(55人)、VR体験会(94人)、絵画・写真展(1764人)、ギャラリートーク(116人)を開催した。また、当センターと京都丹波高原国定公園ビジターセンターとで包括連携協定を締結(8月11日)した。ビジターセンターにおいて、8月27日に講演会「京都丹波高原国定公園ゼミ、見えない生物多様性ー環境DNA分析で挑む生物(菌類)多様性の謎ー」(17人)とVR体験会(82人)を開催した。京大ウィークス参加事業として一般公開を10月22日に開催した。応募者149人のうち、抽選で26人が参加した。また、2023年2月28日に「美山×研究つながる集会」をハイブリット開催した(33人)。小中学校の実習等を芦生もりびと協会と協力し受け入れ、他に高校生の実習1件を受け入れた。芦生研究林基金へは約380万円の寄付があった。

■施設の特記事項

前年に引き続きKDDI株式会社との連携を進めた。寄付を頂いたことに加え、9月3日に社員有志による防鹿柵補修ボランティア活動を開催した。上述したVR動画の完成に際し、舞鶴工業高等専門学校手メイド部への感謝状贈呈式ならびに成果発表会を9月28日に行った。さらに、LPWA(省電力・長距離のデータ通信を可能とする無線通信技術)を用いたIoT鳥獣対策通知システムによるシカの有害駆除と林内通信の実証実験を進めた。2023年3月9日にはKDDIと包括連携協定を締結した。

Diversity & Inclusionを目指し、全学経費及びセンター長裁量経費にて学生宿泊所の大浴室を、シャワーブース3室とユニットバス2室へ改修した。また、ボイラーも既存のものを廃棄し、2基新設され、大容量の湯をまかなえるようになった。学生宿泊所の雨漏りについては、施設修繕事業において実施し、その他老朽箇所についても修繕を行った。芦生研究林基金を用いて資料館の整備に向けて企画書を作成した。また、令和4年1月に発生した土砂崩れによる、府道38号線の通行止めについては大きな改修は行われず、道幅が狭い仮設道のままであり、実習のマイクロバス・ダンブ等の大型車両の通行に苦労した。

2) 北海道研究林

北海道研究林長 小林 和也

■教育研究

教育利用は、学内の実習として、全学共通科目の「森里海連環学実習 II」、農学部の「研究林実習 III」、「研究林実習 IV」と少人数の「ILAS セミナー：北海道の昆虫相」が行われ、延べ 686 人の利用があった。全学共通科目の「森里海連環学実習 II」は北海道大学厚岸臨海実験所と共同で行い、9月4～10日の7日間の日程で、本学7人と、北海道大学の7人の計14人が参加し、別寒辺牛川の最上流部に近い標茶区から、牧草地として使われている中流、そして下流の厚岸湖にいたる流域の植生、土壌、水質、水生生物調査を通じて、森-里-海の繋がりについて学んだ。「研究林実習 III」は、8月26日～9月2日の8日間の日程で18人が参加し、北方の森林・湿原植生、森林の垂直分布や火山性土壌、道東の林業・林産業の現況を学ぶとともに間伐施業体験などを実施した。「研究林実習 IV」は、2月20～26日の7日間の日程で18人が参加し、季節凍土が発達する道東において、冬の森林、積雪・凍土の調査法を修得し、環境資源としての森林の役割や持続的な管理について学んだ。また8月7～11日に開催された「ILAS セミナー：北海道の昆虫相」には、8人が参加し、北海道の森林生態系における昆虫相について調査・研究手法を学び、データ解析の基礎を習得した。「ILAS セミナー：北海道の昆虫相」と同時開講した他大学生向けの「公開森林実習 II」には、筑波大学2人、京都府立大学1人、信州大学2人、日本大学1人、北海道大学1人、東京農業大学1人が参加した。その他、学外の実習として、酪農学園大学の「水圏地圏総合実習」を受け入れた。対面実習が再開できたものの、新型コロナウイルス感染症の影響があり、宿泊定員を削減した中での実施となり、一部の実習は途絶えてしまった。

研究利用は、本学23件、他大学13件、他機関2件、一般1件、合計39件の申請を受け付け、延べ1,849人の利用があった。研究内容は森林の植生と土壌の関わりに関する研究、道東特有の気象条件と大気窒素沈着に関する研究、森と川の繋がりに関する研究、森林内の植物・動物・菌類に関する研究など多岐にわたった。

■社会連携

社会教育として、例年行っている小学校の遠足や木工教室に加え、新規で標茶中学校の遠足、標茶幼稚園の遠足が実施された。コロナ前は宿泊を伴って開催していた標茶町教育委員会との共催の「しべちゃアドベンチャースクール」は日帰りですノーシューハイクを行い、低温に耐える樹木や動物の痕跡、雪の結晶などを観察した。また標茶高校で行われた進路座談会および出前講座に技術職員を派遣し、高校生に大学における技術職員の業務を紹介した。京大ウィークスは、例年であれば募集定員は20人としていたが、コロナ対策のため募集人数を12人に減らしたうえで、10月22日に白糠区で自然観察会を開催し、参加者は9人であった。また5年に1回、北海道新聞社と公益財団法人北海道新聞野生生物基金が主催する、北海道全域で開花している植物を探す市民参加型の調査イベント「北海道フラワーソン2022」に、北海道研究林の林内で行う自然観察会の一環として参加者を募って実施し、16人が参加した。中国・四国・近畿地区大学附属演習林等技術職員研修を1泊2日で実施し、京大含む4大学から8人の参加があった。社会教育全体で6件、延べ243人の利用があった。

■施設の特記事項

2022年度の特記事項として、5月に杉山賢子助教が着任し、植物と共生関係にある菌類に関する調査研究が開始された。また学生実習においてもシイタケ菌糸のコマ打ち作業など菌類に関連する内容を盛り込み、顕微鏡やコマ打ち用いる電動ドリルなどを整備した。

研究では、昨年度より開始した動植物インベントリ調査に、鳥類を対象としたボイスレコーダー調査を加えるなど、基礎データの収集を進め、研究利用しやすい環境の構築に努めている。

教育では新型コロナウイルス対策を進めており、実習中に体調不良を学生が訴えたため、新型コロナウイルスの抗原検査をおこなったところ陽性となったが、陽性者と濃厚接触者を隔離することで感染を拡大させることなく、それ以外の学生は実習を続行できた。

その他には、2021年度に新規購入したトラクターのアタッチメントを購入し、2022年度から本格的に稼働を始めた。

3) 和歌山研究林

和歌山研究林長 徳地 直子

■教育研究

教育利用としては7件の申請を受け、延べ220人の利用があり、前年から21人増加した。有田中央高校清水分校のウッズサイエンス（3年生向け）、八幡小学校の森林体験学習（春、秋）、安諦小学校の森林学習、和歌山県農林大学校林業研修部の講義が行われた。ILASセミナーは宿泊を伴うプログラムでの実施となった。

研究利用としては10件の申請を受け、延べ217人の利用があり、その内外国人の研究利用者は教職員2人、学生6人であった。学内からはフィールド研、農学研究科、理学研究科、生態学研究センターの利用があったほか、学外からは神戸大学による魚類生態学研究、宮崎大学によるサケ科魚類の地理的遺伝系統に関する研究、一般からはクリや菌類および粘菌類を対象とした研究が行われた。

■社会連携

2021年3月に締結した「林業振興及び人材育成に向けた包括連携協定」に基づき、通年の開催となった有田中央高校の森林ウォーク事業だが、2022年度は高校の都合により開催できなかった。

また、マルカ林業株式会社との共同で「緑育推進事業」（和歌山県紀の国森づくり基金活用事業）をマルカ林業社有林で3回実施し、和歌山市内の小学校から5年生計81人が参加した。

10月に京大ウィークス2022参加イベントとして開催したミニ公開講座は、新型コロナウイルス対策として定員を10人に減らし、12人が応募、当日は9人が参加した。

■施設の特記事項

京都大学学童保育施設等準備室からの要請で、2023年度秋開設予定の学童保育施設で使用される家具等の材料として、フィールド研の森林系施設から間伐材を提供することとなり、和歌山研究林からも林道に倒れていたヒメシャラや保育間伐で伐採したスギなどを搬出・造材し、家具等への加工を行うカリモク家具株式会社へ12月22日に引き渡した。3月9日にはカリモク家具株式会社の副社長一行が、和歌山研究林の視察のため来研された。

1月末の大雪により、研究林内の林道や事務所へ通じる町道で倒木や電柱の倒壊、電線や通信ケーブルの断線が発生したため、1月30日から2月20日まで事務所機能を清水分室へ移転した。

2022年度は4月の人事異動により班長が2人体制となり、10月には技術職員が上賀茂試験地への異動で1人減員となった。

4) 上賀茂試験地

上賀茂試験地長 舘野 隆之輔

■教育研究

2022年度の利用申請数は94件、教育、研究、見学の総数は2,327人で、前年度の利用総数とほぼ同じであった。

学生実習など教育関係は25件の申請があり、利用者数は延べ896人であった。このうち、教育関係共同利用拠点が主体となった公開実習Ⅰもオンライン等での実習となった。今年度も公開森林実習Ⅲを開催し、コンソーシアム京都の科目としても実習生を受入れ単位認定を行った。この実習では、滋賀県立大学(1人)、佛教大学(1人)、京都芸術大学(1人)、京都産業大学(1人)、京都女子大学(1人)、京都工芸繊維大学(3人)、京都教育大学(2人)、京都大学(2人)を受け入れた。また、新型コロナウイルス対策等で他の場所で開講出来なかった実習を引き受けた他、新規で上賀茂試験地を使ったILASセミナーを受け入れた。

他大学の実習等では京都教育大学、京都府立大学、京都精華大学、放送大学から延べ398人の利用があった。研究利用では、学内外から49件延べ863人の利用があり、研究成果として4件の査読論文、4件の学会発表が公表された。

■社会連携

社会連携活動として、例年春と秋の2回自然観察会を開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から春の観察会を中止した。秋の観察会は京大ウィークスの一環として開催し、3密回避のため参加募集人数を30人から20人に変更した。今年度は17人の参加があり参加者を少人数の3グループに分けて散策コースを歩いた。また初の試みとして「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催し、中学1年生～高校2年生までの15人が参加した。

前年度新型コロナウイルスの影響で中止になった、京都市青少年科学センターの「未来のサイエンティスト養成講座」、京都銀行の「京銀ふれあいの森事業(森林ボランティア活動・巣箱観察会)」、関西菌類談話会の「きのこ観察会」、NPOシニア自然大学の「講座部マイスターコース(自然科学分野)」等の社会連携活動は2022年度も中止であった。

2022年度から始まった京大フィールド研と公益財団法人イオン環境財団との共同事業の「新しい里山・里海 共創プロジェクト」に関連して、今年度は7月19日に上賀茂で2023年度から開始予定の里山おーぷんらぼに向けて、関係者との現地見学会や打合せを進めた。

■施設の特記事項

今年度も引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、マスクの着用、手指の消毒、3密回避等の基本的対策を行いつつ教育・研究活動を実施した。

2021年度の環境賦課金事業で採択され、設置した太陽光パネルの追加工事をセンター長裁量経費で実施し、10kWの太陽光パネル設置が完了した。工事完了が2022年の12月末だったため、2023年1月4日から発電を開始した。

種子交換事業に関して、近年の人員や予算の削減、名古屋議定書に関連した手続きの煩雑化など事業規模の縮小に向けた議論を進めてきたが、武田薬品京都薬用植物園から種子採取、種子の精選、種子リスト、発送業務などの一連の業務での連携の打診を受け、従来の規模で維持するべく協議を進めている所である。

「新しい里山・里海 共創プロジェクト」では、試験地の12～13林班にあるマツ属の実験林を整理して、広葉樹林への林種転換を行ってゆく計画を立てている。里山おーぷんらぼで市民の意見を取り入れつつ、里山を共に創る過程を教育や社会連携に活用できればと考えている。事業面では、ボランティアでは実施が難しい伐採や地拵えなどの作業の請負や直営事業が発生していく見込みである。2022年度は、伐採や地拵えなどの作業方法について議論を進めた。

その他、ドローンの使用ルールの整備、ホームページのリニューアル等を進めた。

5) 徳山試験地

徳山試験地長 徳地 直子

■教育研究

2022年度における徳山試験地の利用延べ人数は172人であり、昨年度と比べ増加した。

新型コロナウイルス感染症の影響などにより、大学生による教育利用、研究に関する利用はなかった。周南市との連携で実施した中校生の体験学習による教育利用8人、公開講座等での一般人の教育利用53人であった。

■社会連携

周南市との連携協定締結により連携事業に関する協力・利用を行った。周南市役所の公園花とみどり課と協力して実施している春・秋の連携講座のうち、秋の連携講座は京大ウィークス 2022（連携公開講座）と統合して実施することになった。春の連携講座（第19回）は新型コロナウイルス感染症の影響により7月16日に実施し、受講者は22人であった。今回の講座では、周南市徳山保健センターのホールにおいて適切なソーシャルディスタンスを保ち「里山の変遷とタケの侵入」を演題に、徳地直子教授が講演を行った。午後からは、徳山試験地教職員の案内による試験地の見学が行われた。京大ウィークス 2022（連携公開講座）は10月1日に開催し、周南市や宇部・下関・山口市から31人の参加者があった。今回の京大ウィークスも午前と午後で場所を変えて実施した。午前は周南市役所多目的室において「SDGsの向こう側」をテーマに元フィールド科学教育研究センター講師：中島 皇氏が講演を行った。午後からは、タブノキ・カシ類、クロキなどの暖温帯常緑広葉樹林や約100年生のヒノキ林（文化庁より「ふるさと文化財の森（檜皮）」に指定）ならびにクヌギ植栽実験林などの実験林を有する徳山試験地のフィールド見学を行った。

周南市との連携事業の一環として実施した周南市立鼓南中学校の環境学習は、徳山試験地にて概要説明を受けた後、ヒノキ林の雑木伐採の体験を行い、午後からは周南市西緑地（旧徳山試験地）で、地元の「みどりの会11」の山本会長から様々な植物やスポットについての解説が行われた。

■特記事項

修繕を要する老朽化した建物・設備が多く、特に給水施設の装置の劣化・破損が著しいため、取水施設の取水口に堆積している土砂の取り除きを行った。この維持管理には、今回初めての試みである3試験地合同の業務支援として、上賀茂試験地より3人の技術職員が徳山試験地へ出張し作業を行った。

6) 北白川試験地

北白川試験地長 徳地 直子

■教育研究

北白川試験地では2022年度には、15件の教育・実習利用、28件の研究利用、合計43件の利用申請を受け付けた。年間利用者の延べ人数は、教育利用が699人、研究利用が2,420人の合計3,119人（2021年度は2,021人）であった。近年、増加する利用申請に対応するため、研究跡地の整理（研究終了後放置された樹木の伐採および抜根の整理）を行い、苗畑用地の拡充を行ってきたが、その効果もあり利用人数は大幅に増加している。

教育利用では、例年行われている食品有機化学実習によるサワラの枝葉から抗菌物質を精製する実験、森林水文学・砂防学実習や土壌物理学実習による計測機器の使用法や土壌採取方法の習得、森林科学実習による樹木識別や葉の形質測定に加え、複数のILASセミナーなど、本学学生を対象とする実習利用に加え、他大学学生対象の公開森林実習I、人間環境大学の実習および、高大接続・高大連携活動の一環として開催している高校生のための体験型科学講座「ELCAS」などを受け入れた。

研究利用では主となるフィールド研や本学森林科学専攻の他、地域環境科学専攻、アジア・アフリカ地域研究研究科、地球環境学堂、生存圏研究所、白眉センター、また、他大学では福井県立大学学術教養センター、他機関では農業・食品産業技術総合研究機構、国際斜面災害研究機構など、多岐にわたる分野での利用があった。また、研究成果として3件の著作、2件の査読論文、17件の学会発表、2件の卒業論文が公表された。

■社会連携

社会教育利用は、昨年度に引き続き京都大学オープンキャンパスがオンライン開催になったこと等により利用申請はなかった。利用申請を伴わない本学教職員や学生、一般市民の散策や見学による利用は、81人（2021年度は180人）と減少した。

■施設の特記事項

教育や研究に利用されている多数の見本樹の高木化や老齢化が進み、毎年予算を別途申請し、行っている危険木の剪定および樹高調整は、旧演習林事務所周囲のハクショウ、ハリモミ2本、チョウセンモミの計4本を実施した。

7) 紀伊大島実験所

紀伊大島実験所長 甲斐嘉晃

■教育研究

2020年11月以降、施設への常駐教員の配置がされていないが、教職員が定期的に訪問し、施設の維持管理を行っている。紀伊大島産を中心とする植物標本は、適切な状態で保管できるように学内の他施設へ移管する可能性を探っている。立地的に海にも近い施設として、黒潮の影響を直接的に受ける海洋生物相に関する予備的研究を開始し、南紀地域の森里海連環学の基礎となる情報を収集している。

■施設の特記事項

研究室実験室棟は1970年、実習宿泊棟は1981年に建設されており、どちらも老朽化が著しい。特に両建物とも水道の水圧が低く、十分な機能を果たせていないため、早急に修理できるように手配している。また、男女共用になっている一部のトイレについても、適切な改修工事を行う必要がある。

8) 舞鶴水産実験所

舞鶴水産実験所長 益田 玲爾

■教育研究

2022年10月に、若手重点戦略定員の任期付き助教であった邊見由美博士が、審査を経て専任助教として採用された。また、イオン環境財団との共創プロジェクトを推進する研究員を公募し、2023年3月から伊藤岳博士を採用して特任助教の称号を付与した。

2022年度に舞鶴水産実験所の里海生態保全学分野に所属する大学院生の数は、修士課程8人、博士後期課程1人である。すでに入学していた修士課程の2人の留学生（中国・アメリカ合衆国）は、新型コロナウイルス蔓延予防の水際対策の緩和により、2022年4月に入国した。大学院生の研究テーマは、魚類の系統分類学、稚魚の生活史戦略、魚類および水産無脊椎動物の行動、水圏生物の環境DNAなどと幅広く、教員6人が各専門分野から指導している。大学院生の各研究テーマについては、毎週月曜日に行われるゼミでの発表を通して、全教員および研究員からの指摘も取り入れて進められている。

本年度は前年度までに引き続き新型コロナウイルスの影響で活動制限を受けた。宿泊棟の利用に際しては、8人部屋を個室として利用する、滞在中は同じシャワーユニットまたは小浴室を使用する、下駄箱や冷蔵庫も同じ場所を使ってもらう等、当実験所に独自の新型コロナウイルス対策指針を継続した。

■社会連携

京都府下を中心に、市民団体等の企画への講師派遣に協力し、小中学校への出前授業を提供した。実習等の開催は人数を制限して行う場合が多かった。京都府立西舞鶴高等学校については7月に2日間にわたる日帰りの実習を受け入れ、京都府立海洋高等学校については教員が訪れて研究指導を行った。京都教育大学附属高等学校からは3年ぶりに実習を受け入れた。

6月19日に若狭湾生物同好会の主催する公開講演会にて、教員および大学院生が話題提供した。7月6日に自衛隊のSDGs研修を受け入れ、講義を提供した。10月23日に舞鶴市の主催したイベント「舞鶴フィールドミュージアム」で、小学生11人と保護者11人を受け入れる施設見学会を開催した。10月27日に舞鶴市立吉原小学校全児童30人、引率教員8人の体験授業を受け入れ、教員・研究員および大学院生が対応した。10月29日に舞鶴水産実験所50周年記念シンポジウムを、また翌日には一般公開の見学会を開催した（別頁参照）。11月2日に舞鶴市うみべのもり保育所の園児30人、引率保育士5人の見学を受け入れ、講演会を開催した。舞鶴市立大浦小学校、明倫小学校、池内小学校、京田辺市立大住小学校、京丹後市立長岡小学校、および京都府立宮津天橋高等学校を教員が訪問し出前授業を提供した。舞鶴市ネイチャーガイド養成講座、京都府海の民学舎、舞鶴市南公民館、舞鶴市多世代交流施設まなびあむ等の講師派遣に協力した。このほか、当実験所教員が京都府漁業調整委員などを担当し、京都府北部地域や舞鶴市の地域産業の活性化において重要な役割を担っている。

■施設の特記事項

所内の外灯のLED化や高圧受電設備の改修の工事を行った。標本館の外来研究員室および飼育棟の実験室のエアコンについて、老朽化が激しかったため更新した。

2002年3月に建てられた研究棟は、本年度末で築21年を迎えた。軽量鉄骨による簡易的な建造物であり、耐久性が低いことから、日本海の風雪にさらされる環境で今後長期間使用できるとは考えられない。同時期に建設された飼育棟も、既に老朽化が進み、特に錆による支柱の劣化は著しく、補修を適宜行っているものの、大型の台風が襲来すれば倒壊の危険性すらある。今後さらなる増加が見込まれる実習や研究目的の利用者の安全および利便性を確保するためにも、飼育棟と研究棟を統合した建物を早期に建築する必要がある。

9) 瀬戸臨海実験所

瀬戸臨海実験所長 下村 通誉

■教育研究

2022年度は教育関係共同利用拠点事業の第3期の2年目である。当実験所は、日本でも特に海洋生物相の豊かな場所に立地しており、その特徴を活かした、より充実した臨海実習や共同利用のために、この教育拠点活動を推進してきている。前年度に引き続き2022年度は河村真理子氏を教育拠点研究員として採用した。新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から公開臨海実習、共同利用実習は人数制限や日程の短縮を行い実施した。

2014年度から、当実験所と京大本学のラボとの合同ゼミを行っている。2022年度は農学研究科海洋生物増殖学分野、農学研究科海洋生物環境学分野、舞鶴水産実験所、福井県立大学海洋生物資源学部との合同ゼミを行った。前年度に引き続き毎月「瀬戸海洋生物学セミナー」をオンラインで実施した。外部の研究者を招いた研究紹介セミナーで、全国から参加者を募集している。

■社会連携

新型コロナウイルスの感染拡大が起き、前年度から引き続き白浜水族館の団体入場者の人数制限を行った。水族館で行っていた、夏休み、冬休みの「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」・「バックヤードツアー」も全て中止した。

■施設の特記事項

2022年度は瀬戸臨海実験所が創立100周年を迎えたことから11月27日に京都大学瀬戸臨海実験所100周年記念の祝賀会を行った。

島島には近年、レジャー客による無断上陸が絶えなかったが、新型コロナウイルスの感染拡大により観光業の大半が自粛となったため、無断上陸はほとんど確認されなかった。

10) 森里海連環学プロジェクト支援室

森里海連環学プロジェクト支援室長 徳地 直子

森里海連環学プロジェクト支援室は、室長、副室長、技術職員1人の3人体制で、森里海連環学に関する試料分析、実験室・分析機材等の管理を行っている。おもな業務は、分析機器の保守管理、化学物質や実験廃液の管理、無機廃液の処理、不用試薬等の廃棄（外部委託処理）などである。2022年度はセンターとして行っている実習ならびに高大連携も分析などの面から積極的に支援し、森里海連環学実習や西舞鶴高校実習等の水試料分析（栄養塩）も行った。

11) 企画情報室

企画情報室長 三田村 啓理

■特記事項

<会議業務>

企画情報室は、教授会、生態フィールド学系会議等でのテレビ会議等を担当した。Zoom によるテレビ会議、Google フォームによる電子投票となったため、iPad の EcoMeeting アプリによる電子投票は実施されなくなった。

<広報>

広報委員会の指示の下、定期刊行物として、年報を1号(第19号)、ニューズレターを3号(57~59号)、ニュースメールの配信を7回、編集・発行・発送した。フィールド研ウェブページを随時更新し、2022年度に公開したページは185ページ、写真の公開は401枚、Twitter投稿数は291件となった。「森里海連環学入門」ウェブページ連載の日本語版1回・英語版3回を追加公開し、日本語版2回を更新、新たに各回の内容に即したイラストを作成し追加した。

前年度オンライン実習映像のために整備した部局 YouTube チャンネルに、これまでに OCW で制作してきた映像などを登録して充実させ、さらに、Twitter アカウントとともに京大公式ページや SNS と連携して運用することとなった。

その他、京大英文広報誌「KYOTO-U」芦生研究林特集の発行支援や、広報映像の更新等を行った。

和歌山研究林を映像によって記録するため、研究林教職員の全面協力のもと、8月31日-9月2日と11月10-11日に撮影を行った。1回目には ILAS セミナーの様子も撮影、2回目は上賀茂試験地職員の協力により、ドローンによる撮影も行った。将来にわたり活用するため編集を進めている。

<情報システムの企画、開発、運用>

情報セキュリティ委員会の指示の下、学内ネットワークの設定、メーリングリストの管理、共用機器類の管理、各施設等の不具合等に対応した。公開ウェブページでは、アクセス拒否設定を日々調整し、攻撃的アクセスによるサーバ負荷を軽減させている。WordPress によるシステムを7回更新し、年度末で6.2となった。芦生研究林のページを同システムに移行し、また山の健康診断ページを公開した。映像データベースの CMS である ZenPhoto を1.6に更新した。

2022年度における会議室のテレビ会議機器の利用回数は104回であった。瀬戸臨海実験所と舞鶴水産実験所に配置しているビデオ会議装置を、大学の高精細遠隔講義システムから離脱させ、独自運用とした。

KUINS-III VLAN の総点検、サーバ脆弱性診断、情報セキュリティポリシー実施手順書の改訂などを実施し、北海道研究林の回線変更を支援した。その他、「新しい里山・里海 共創プロジェクト」関連のオンライン会議支援や、サーバ脆弱性診断、その他各種トラブル等に対応した。

教職員の業績データベースを、googlesheet で検索表示させるページを公開した。

第一会議室の故障したアンブを更新し接続を調整し、第二会議室に天井プロジェクトを新設した(1月)。

<各施設およびフィールド研教職員の各種情報の収集>

フィールド研および教職員の各種活動状況を収集するため、各施設から毎月報告される利用実績報告書の集計、新聞等のフィールド研関連記事の収集、事業の記録、研究業績・外部資金・各種活動等の業績調べを行った。

<フィールド研常設各種委員会に係る実務>

その他各委員会の実務として、シラバス調べ、調書への対応等を行った。

<フィールド研行事(イベント)に係る実務>

「山の健康診断」プロジェクトの報告会(8月26日、3月28日・Zoom Webinar)、瀬戸臨海実験所100周年記念式典・講演会(11月27日・YouTubeLive)、次世代連携ワークショップ「森里海ラボ」(10月23日・Zoom)、第1回新しい里山里海の勉強会(1月20日・Zoom)、森里海シンポジウム(3月19日・Zoom Webinar)などの設定、接続等を担当した。その他、イオン環境財団による「新しい里山・里海 共創プロジェクト」連携発表(7月19日)、芦生研究林および KDDI 株式会社による包括連携協定締結(3月9日)の準備、連絡調整、撮影記録等を担当した。

<その他>

総合博物館特別展「創造と越境の125年」に協力し、資料を提供した。

上賀茂試験地教職員に協力いただき、京都大学技術職員研修(情報系)を上賀茂試験地で実施した(11月30日)。

その他、各種申請・提出書類の作成の支援、施設・教職員による業務の支援等を弾力的に行った。

(2) 各施設を利用した学生実習等

(上段:京大生対象、下段:他大学生対象、学生数(受講者)・教員等数(TA含む)は、延人数)

芦生研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学 年	学生数	教員等数	備考
22.05.06	1	京都大学	総合人間学部	課題演習：生物学	2-4回生	6	2	
22.07.14 ~ 22.07.15	2	京都大学	農学研究科	ユネスコチェアフィールドワーク：水と森と社会	大学院生	20	10	
22.07.19 ~ 22.07.21	3	京都大学	野生動物研究センター	基礎フィールドワーク実習無雪期	大学院生	14	15	
22.07.24	1	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「森と暮らしをつなぐ持続可能なデザイン」	全学1回生	5	3	
22.08.08	1	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習I	全学1~4回生	4	8	
22.08.29 ~ 22.08.31	3	京都大学	農学部	研究林実習I	2回生	48	18	
22.09.06	1	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「森での感動を科学する」	全学1回生	4	2	
22.08.02 ~ 22.08.04	3	京都大学	総合生存学館	サービスマスターリングA	大学院1回生	54	13	8月4日はオンライン実習
22.09.12 ~ 22.09.14	3	京都大学	学術情報メディアセンター	サイバーフィジカル混成によるフィールド実習記録とその分析		27	22	
22.09.15	1	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「京都の文化を支える森林：地域の知恵と生態学的知見」	全学1回生	5	13	
22.09.20 ~ 22.10.29	2	京都大学	農学部	森林科学科学生を対象とした芦生研究林日帰り見学会		11	7	
22.09.26	1	京都大学	農学部	森林利用学実習及び実習法	3回生	17	9	
22.10.08 ~ 22.10.09	2	京都大学	宇宙総合学研究ユニット	有人宇宙キャンプ	学部生	12	9	
23.02.20 ~ 23.02.22	4	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習III(暖地性積雪地域における冬の自然環境)	全学部1~4回生	39	20	
22.06.26	1	京都光華女子大学	キャリア形成学部	天然林におけるフィールドワーク		10	4	
22.07.03 ~ 22.07.04	2	和歌山大学	観光学部	エコツーリズムに関する検証(ゼミ一環)		10	6	
22.07.25 ~ 22.07.26	2	龍谷大学	農学部	ゼミ合宿		20	10	
22.08.08	1	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習I(公開実習)		1	0	(併催)
22.08.24 ~ 22.08.26	3	人間環境大学	人間環境学部・環境科学科	奥山里山管理実習/森林管理実習B/共同フィールドワーク	1~4年	57	13	
22.09.07 ~ 22.09.09	3	京都大学	フィールド研	公開森林実習I		24	12	オンライン実習
22.06.25	1	大阪産業大学	環境理工学科	生物資源活用演習	3回生	8	3	
計	41		(21件)			396	199	

北海道研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学 年	学生数	教員等数	備考
22.08.07 ~ 22.08.11	5	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「北海道の昆虫相」	主として1回生	35	40	
22.08.26 ~ 22.09.02	8	京都大学	フィールド研	研究林実習III	3回生	147	55	標茶区
22.08.27	1	京都大学	フィールド研	研究林実習III		18	6	白糠区
22.09.04 ~ 22.09.07	4	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習II(北海道大学と共催)	1回生	28	33	
23.02.20 ~ 23.02.26	7	京都大学	フィールド研	研究林実習IV	3回生	131	52	
22.08.07 ~ 22.08.11	5	京都大学	フィールド研	公開森林実習II	3年	42	0	(併催)
22.09.12 ~ 22.09.16	4	酪農学園大学	環境共生学類	水圏地圏総合実習	3年	81	38	
22.09.04 ~ 22.09.07	4	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習II(北海道大学と共催：公開実習)	1回生	28	0	(併催)
計	38		(8件)			510	224	

和歌山研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学 年	学生数	教員等数	備考
22.08.31 ~ 22.09.02	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「森を育て活かすー林業体験をとおして考える」	全学1回生	15	12	
22.12.08	1	和歌山県農林大学校	林業研修部	講義		13	3	
計	4		(2件)			28	15	

上賀茂試験地

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学 年	学生数	教員等数	備考
22.04.19 ~ 22.05.17	2	京都大学	農学研究科	森林基礎科学実習 I	森林科学科2回生	59	4	
22.05.28 ~ 22.08.10	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「里山の物質循環:燃料・肥料・食料から考える」	全学1回生	27	8	
22.06.09 ~ 22.06.10	2	京都大学	総合生存学館	フィールド講習のためのドローン講習		4	2	
22.06.14 ~ 22.10.18	2	京都大学	地球環境学堂	環境マネジメントセミナーB	修士	30	7	
22.07.21	1	京都大学	農学研究科	ユネスコチェアフィールドワーク:水と森と社会	大学院生	8	1	
22.07.23	1	京都大学	地球環境学堂	里山再生論	修士	15	1	
22.09.14	1	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「京都の文化を支える森林:地域の智恵と生態学的知見」	全学1回生	12	4	
22.09.27 ~ 22.09.28	2	京都大学	農学部	森林利用学実習及び実習法	森林科学科3回生	42	10	
23.01.11	1	京都大学	農学部	応用生態学実験及び実験法	3回生	18	1	
23.01.24	1	京都大学	フィールド研	森林情報学特論 I	修士	13	3	
22.04.22 ~ 22.11.18	3	京都府立大学	生命環境学部	生物学実験及び同実験法	1回生	130	8	
22.05.07	1	京都精華大学	人間環境デザインプログラム	自然環境演習	1回生	19	5	
22.05.14 ~ 22.05.15	2	放送大学	京都学習センター	人間と自然の相互作用	全学生	18	6	
22.06.13 ~ 22.07.24	3	京都府立大学	生命環境学部	森林植物学実習	2回生	36	5	
22.06.08	1	京都精華大学	人間環境デザインプログラム	建築基礎実習1H	1回生	20	6	
22.08.24	6	人間環境大学	環境科学部フィールド生態学科	奥山里山管理実習 / 森林管理実習	1,2年生	19	1	オンライン実習
22.09.07	1	京都大学	フィールド研	公開森林実習I	全学年	8	4	オンライン実習
22.10.06	1	京都精華大学	デザイン学部ビジュアルデザイン学科	ビジュアルデザイン応用実習	1回生	20	1	
22.10.29 ~ 22.10.30	2	放送大学	京都学習センター	身の回りの自然を知ろう	全学生	28	8	
22.11.12 ~ 22.11.13	2	放送大学	京都学習センター	森里海のつながりの向こう	全学年	21	6	
22.10.15 ~ 22.12.10	5	京都大学	フィールド研	公開森林実習III	主として2・3年次生対象	45	21	
22.11.09	1	京都教育大学	教育学部産業技術科学科	生物育成実習	1回生・2回生	5	3	
計	44		(22件)			597	115	

徳山試験地 (該当案件なし)

北白川試験地

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学 年	学生数	教員等数	備考
22.04.12	1	京都大学	農学部	食品有機化学実験および実験法	3回生	6	2	
22.04.20 ~ 22.07.13	2	京都大学	農学部	土壌物理学・水環境工学実験	3回生	38	3	
22.05.10 ~ 22.07.28	8	京都大学	農学研究科	ILASセミナー「群集生態学入門」	全学1回生	64	8	
22.05.18 ~ 22.06.10	4	京都大学	農学部	森林フィールド系実習及び実習法	3回生	120	6	
22.06.08	1	京都大学	農学部	応用生命科学実験(有機化学実験)	3回生	5	1	
22.06.28 ~ 22.07.21	2	京都大学	農学部	森林基礎科学実習I	2回生	60	2	
22.09.16	1	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「京都の文化を支える森林:地域の智恵と生態学的知見」	全学1回生	11	4	
22.10.11 ~ 22.10.26	9	京都大学	理学部	生物学実習D	3,4回生	54	9	
22.11.28 ~ 22.12.19	2	京都大学	農学部	森林水文・砂防学実験及び実験法	3回生	46	2	
22.11.30	1	京都大学	農学部	応用生態学実験及び実験法	3回生	15	1	
計	31		(10件)			419	38	

紀伊大島実験所 (該当案件なし)

舞鶴水産実験所

期 間	日数	大学	部局	科目名	学年	学生数	教員等数	備考
22.07.01 ~ 22.07.03	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「魚類心理学入門」		21	6	
22.07.16 ~ 22.07.18	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「京都の海の沿岸動物学入門」		3	6	
22.08.07 ~ 22.08.10	4	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習I		12	16	
22.08.26	1	京都大学	農学部	海洋生物学技術論と実習I		8	12	
22.08.31	1	京都大学	農学部	海洋生物学技術論と実習II		9	13	
22.11.23 ~ 22.11.25	3	京都大学	フィールド研	博物館実習（館園実務）		6	7	
23.03.06 ~ 23.03.10	3	京都大学	農学部	海洋生物学技術論と実習IV（公開実習）		28	20	
22.06.02 ~ 22.06.03	2	近畿大学		環境管理学専門実験・実習		16	4	
22.08.07 ~ 22.08.10	2	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習I（公開実習）		3	0	併催
22.08.16 ~ 22.08.20	5	関西学院大学		海洋生物実習		105	15	
22.08.26	1	京都大学	フィールド研	魚類学実習（公開実習）		3	0	併催
22.08.31	1	京都大学	農学部	無脊椎動物学実習（公開実習）		1	0	併催
22.09.12 ~ 22.09.15	4	岐阜大学		臨海実習		56	12	
22.11.23 ~ 22.11.25	3	京都大学	フィールド研	博物館実習（館園実務）（公開実習）		3	0	併催
23.03.06 ~ 23.03.10	4	京都大学	フィールド研	仔稚魚学実習（公開実習）		10	0	併催
計	40		(15件)			284	111	

瀬戸臨海実験所

期 間	日数	大学	部局	科目名	学年	学生数	教員等数	備考
22.04.29 ~ 22.05.01	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「甲殻類学入門」	1回生	12	3	
22.05.03 ~ 22.05.05	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「貝類の不思議」	1回生	12	3	
22.06.18 ~ 22.06.19	2	京都大学	総合人間学部	総合フィールド演習	全学年	12	2	
22.07.03	1	京都大学	総合生存学館	ILASセミナー「ハビタブルアース」・UNESCO Field Work合同合宿	1回生	21	2	
22.08.08 ~ 22.08.12	5	京都大学	理学部	臨海実習第1部	全学年	35	21	
22.08.08 ~ 22.08.12	5	京都大学	理学部	臨海実習第4部	全学年	0	0	併催
22.08.09	1	京都大学	農学部	食料・環境経済基礎論	1回生	28	2	
22.09.07 ~ 22.09.11	5	京都大学	理学部	臨海実習第2部	全学年	30	20	
22.09.11 ~ 22.09.13	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「海洋共生生態学入門」	1回生	9	9	
23.01.16 ~ 23.01.20	5	京都大学	フィールド研	博物館実習（館園実務）	3回生以上	10	16	
23.02.15 ~ 23.02.16	2	京都大学	人間・環境学研究科	臨海大気観測	大学院生	12	8	
23.03.08 ~ 23.03.12	5	京都大学	理学部	臨海実習第3部	全学年	20	19	
23.03.21 ~ 23.03.26	6	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習IV	全学年	18	22	
22.04.14 ~ 22.04.19	6	和歌山大学	教育学部	共同利用実習「臨海実習」		60	16	
22.05.27 ~ 22.05.29	3	大阪教育大学	教育学部	共同利用実習「臨海実習」		39	6	アウトリーチ
22.06.28 ~ 22.07.02	5	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「博物館実習」	3回生以上	15	18	
22.06.29 ~ 22.07.03	5	奈良教育大学	教員養成課程	共同利用実習「臨海実習」	2回生以上	120	37	
22.07.12 ~ 22.07.18	7	大阪公立大学	理学部	臨海実習		56	23	
22.08.08 ~ 22.08.12	5	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「自由課題研究」	3回生以上	15	0	併催
22.08.22 ~ 22.08.26	5	関西学院大学	生命環境学部	共同利用実習「臨海実験1」		40	14	
22.08.31 ~ 22.09.03	4	滋賀県立大学	環境科学部	共同利用実習「環境学野外実習I・II・III」		32	13	
22.09.05 ~ 22.09.09	5	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「Functional Morphology and Evolutionary Biology of Marine Invertebrates」	3回生以上	20	0	併催
23.02.25 ~ 23.03.04	5	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「海産無脊椎動物分子系統学実習」	全学年	64	33	
23.03.08 ~ 23.03.12	5	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「藻類と海浜植物の系統と進化」	全学年	35	0	併催
23.03.21 ~ 23.03.26	6	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「沿岸生態系多様性実習」	全学年	18	0	併催
計	107		(25件)			733	287	

(3) 各施設を利用した社会連携教育および野外学習等

(上段:小中高校生等対象、下段:一般対象、参加者数(対象者+引率者等)・教員等数(京大教職員)は、延人数)

芦生研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
22.05.06	1	美山小学校	芦生グリーンワールド		33	3	
22.09.03	1	KDDI株式会社社員有志	森林ボランティア		31	2	
22.09.10	1	京都丹波高原国定公園ビジターセンター	野道観察塾		33	1	
22.09.02	1	日本水環境学会 流域物質動態とノンポイントソース研究委員会	ワークショップ in 京都・芦生研究林		12	1	
22.10.22	1	京大フィールド研 芦生研究林	芦生研究林一般公開(京大ウィークス)	一般	26	13	
22.10.23	1	NPO GEN(緑の地球ネットワーク)	見学会とボランティア		13	1	
22.12.05	1	林業経済学会	秋季大会エクスカーション		15	4	
計	7	(7件)			163	25	

北海道研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
22.05.20	1	標茶町立標茶小学校	遠足	小学3年生	31	6	
22.05.26	1	標茶町立標茶中学校	遠足	中学1年生	59	12	
22.06.20	1	標茶町立沼幌小学校	木工教室	小学1,2年生	9	6	
23.01.21	1	標茶町教育委員会	しべちャアドベンチャースクール ステージ6 冬の野外活動	小学生	13	12	
22.06.18	1	フィールド研 北海道研究林	初夏の花観察会 北海道フラワーソン2022	一般	16	7	
22.10.22	1	フィールド研 北海道研究林	自然観察会「秋の森の生態系」(京大ウィークス)	一般	9	7	白糠区
計	6	(6件)			137	50	

和歌山研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
22.04.19 ~ 23.01.17	24	和歌山県立有田中央高等学校清	ウッズサイエンス		74	56	
22.05.23 ~ 22.12.05	2	有田川町立八幡小学校	森林体験学習	5年生	21	8	
22.05.19	1	有田川町立安謐小学校	森林学習	5年生	2	4	
22.10.15	1	フィールド研 和歌山研究林	ミニ公開講座(京大ウィークス)	一般	9	3	
計	28	(4件)			106	71	

上賀茂試験地

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
22.09.18	1	京都光華女子大学キャリア形成学部	里山サイエンスツアー 2022	女子中高生	17	4	
22.11.05	1	フィールド研 上賀茂試験地	秋の自然観察会(京大ウィークス)		19	9	
計	2	(2件)			36	13	

徳山試験地

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
22.07.16	1	周南市・京大フィールド研	第20回連携講座		22	4	
22.10.01	1	周南市・京大フィールド研	連携公開講座(京大ウィークス)		31	4	
計	2	(2件)			53	8	

北白川試験地

期 間	日数	大学	部局	科目名	学年	学生数	教員等数	備考
22.08.24	1	京都大学	教育推進・学生支援部	高大連携講座 ELCAS 群集生態学への招待	高校1・2年生	5	1	
計	1		(1件)			5	1	

紀伊大島実験所 (該当案件なし)

舞鶴水産実験所

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
22.07.15 ~ 22.12.26	3	京都府立海洋高等学校	研修・見学		36	3	
22.07.21 ~ 22.07.22	2	京都府立西舞鶴高等学校	夏期実習「地球環境と海の生態系」の調査および実習		61	10	
22.07.25 ~ 22.07.27	3	京都教育大学附属高校	臨海実習		15	6	
22.08.26	1	うみべの森保育所	見学		31	1	
22.12.10	1	京都府立亀岡高校	京都府教育庁「子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業」の一環としての研修		63	1	
計	10	(5件)			206	21	

瀬戸臨海実験所

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
22.05.27	1	樟蔭中学校	海辺の生物観察		36	1	
22.06.17	1	和歌山県立有田中央高等学校清水分校	臨海実習		10	1	
22.07.21 ~ 22.07.22	2	大阪府立汎愛高等学校	理科課題研究		44	2	
22.07.31 ~ 22.08.06	2	和歌山県	ネイチャー・キャンプ 海辺の生き物	小学4年生 ~ 中学3年生	59	5	
22.08.15 ~ 22.08.16	2	奈良県立郡山高等学校	生物部臨海実習	高校生	14	0	
22.08.29 ~ 22.08.30	1	兵庫県立尼崎小田高等学校	発生、系統分類実習	児童	16	2	
22.10.07 ~ 22.10.08	1	大阪府立千里高等学校	臨海実習	児童	44	2	
22.11.16	1	全日本海員組合 大阪支部	白浜の海から学ぼう体験乗船	小学6年生	40	0	
22.12.26 ~ 22.12.27	2	大阪府立豊中高等学校	SSH白浜研修旅行	高校生	18	4	
22.04.01 ~ 23.03.31	12	FMビーチステーション	ラジオで生き物紹介	一般	-	12	ラジオ
22.04.01 ~ 23.03.31	365	JR西日本	くろしお水槽	一般	-	102	白浜駅構内展示
22.04.27 ~ 23.03.27	12	瀬戸臨海実験所	瀬戸海洋生物学セミナー第64~75回	全国研究機関	367	12	オンラインまたはハイブリッド
22.04.16 ~ 22.07.02	3	白浜水族館	水族館の磯採集体験	一般	34	9	
22.10.22	1	京都大学	京大ウィークス「白浜の海の自然と発見」	一般	9	8	
計	406	(14件)			691	160	

4.教職員の活動

(1) 研究成果

部門別・種別業績発表件数

	著書	原著論文・総説 (査読あり)	原著論文・総説 (査読なし)	その他 (一般誌・報告書等)	学会発表 (発表要旨集含む)
森林生態系部門	4	18	1	1	33
里域生態系部門	13	19	1	1	13
海洋生態系部門	16	21	1	7	39
管理技術部	1	0	0	3	1
計	34	58	3	12	85

(複数著者の重複の場合、所属する部門内での重複を除外して計数している。また、合計の欄では部門間の重複も除外しているため、部門合計と全体の合計の数値とは一致しないことがある。)

(個別業績は <https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/blog/archives/5308> でご確認ください。)

(2) 他大学・各種学校の講義・実習

(高校生以下を対象とする講義などは、(6)社会貢献活動 参照)

森林生態系部門

- 徳地 直子 放送大学学園・非常勤講師(面接授業担当)「身の回りの自然を知ろう」
- 長谷川 尚史 琉球大学・非常勤講師「森林土壌学」
奈良県フォレストアカデミー・講師「林業機械と森林作業システム」
高知県立林業大学校・講師「間伐作業システムと林業機械」(2023-01-26/27)
和歌山県農林大学校・講師「和歌山県農林大学校林業研修部」
京都府立林業大学校・講師「林業機械化概論」
- 伊勢 武史 早稲田大学エクステンションセンター・オープンカレッジ講師「現代人の必修科目「生態学」入門：2050年を予測して学ぶ地球のエコロジー」
- 石原 正恵 九州大学・非常勤講師「森林環境科学特論」
- 赤石 大輔 大阪産業大学デザイン工学部環境理工学科・生物多様性と文化のゲストスピーカー
- 松岡 俊将 同志社大学・嘱託講師「生物学基礎」「生命の科学1 菌類の生物学」「環境システム応用実験A」「生命の科学2 菌類生態学」「環境システム基礎実験A」

里域生態系部門

- 益田 玲爾 国立大学法人岐阜大学・非常勤講師「臨海実験法および実習」
- 益田 玲爾 関西学院大学・非常勤講師「臨海実習I」(2022-08-16/20)
- 鈴木 啓太 関西学院大学・非常勤講師「臨海実習2(舞鶴)」(2022-08-16/20)
- 邊見 由美 関西学院大学・非常勤講師「臨海実習」(2022-08-16/20)
- 高橋 宏司 東洋英和女学院大学・非常勤講師「心理学特殊講義A 動物行動心理学」
関西学院大学・非常勤講師「臨海実習」(2022-08-16/20)
慶應義塾大学・出前講義「生命の教養学 身近なサカナの学習と記憶」(2022-04-15)

海洋生態系部門

- 下村 通誉 公立大学法人大阪・非常勤講師「理学部臨海実習」
- 中野 智之 奈良教育大学・非常勤講師「臨海実習」
大阪教育大学・非常勤講師「臨海実習」
紀南看護専門学校・非常勤講師「基礎生物学」

関西学院大学・非常勤講師「臨海実習」(2022-08-22/26)
後藤龍太郎 福井工業大学 2022年度第2回環境食品応用化学科セミナー (第6回光生命進化セミナー講演会) スピーカー (2022-12-09)
Department of Biology, Faculty of Mathematics and Natural Sciences, Universitas Negeri Surabaya, Virtual Guest Lecture "Exploring Evolutionary Trees of Marine Invertebrates" (2022-12-07)

(3) 学会等における活動

◆学会役員・シンポジウム企画等

森林生態系部門

館野 隆之輔 森林立地学会：森林立地編集委員
生物地球化学研究会：将来計画委員
吉岡 崇仁 生物地球化学研究会：会長 (2022年10月まで)
長谷川 尚史 森林利用学会：常務理事 (総務担当)
日本森林学会：Journal of Forest Research編集委員
応用森林学会：編集幹事
日本森林学会：森林科学編集委員
森林計画学会：監事
森林GISフォーラム：事務局 (分科会)
日本森林学会：代議員
森林生産システム研究会：幹事
伊勢 武史 国立極地研究所：Polar Science編集委員
日本地球惑星科学連合 大気水圏科学複合領域・一般 (CG) 陸域生態系の物質循環 共同コンベンナ
石原 正恵 日本生態学会大規模長期生態学専門委員会委員
日本学術会議環境学委員会：地球惑星科学委員会合同IGBP・WCRP・DIVERSITAS合同分科会 GLP小委員会委員
日本水環境学会：研究委員会主催ワークショップ講師
小林 和也 日本動物行動学会：広報委員長
日本生態学会：Ecological Research編集委員
日本動物行動学会：広報委員長
坂野上 なお 林業経済学会：編集担当理事兼編集委員長
坂野上 なお 応用森林学会：総務幹事
中西 麻美 応用森林学会：会計幹事
応用森林学会・編集委員
赤石 大輔 日本生態学会：生態系管理委員会委員

里域生態系部門

益田 玲爾 環境DNA学会：選挙管理委員
環境DNA学会：事業委員
日本水産学会：国際交流委員会委員
甲斐 嘉晃 日本魚類学会：英文誌編集主任
鈴木 啓太 水産海洋学会：編集委員会副委員長
水産海洋学会・事業委員会委員
高橋宏司 日本動物行動学会：Journal of Ethology 副編集長

海洋生態系部門

朝倉 彰 日本甲殻類学会：会長
三田村 啓理 日本水産学会：水産環境保全委員会支部委員
山下 洋 日本水産学会：理事
水産海洋学会：理事
下村 通誉 日本甲殻類学会：評議員
日本動物分類学会・評議員
中野 智之 軟体動物多様性学会・編集委員・事務局員
日本貝類学会：評議員
日本貝類学会：学会誌Venus編集委員
軟体動物多様性学会：編集委員
軟体動物多様性学会：事務局員

- 小林 志保 日本海洋学会：沿岸海洋研究会委員，海洋環境委員会委員
水環境学会：関西支部幹事
水産海洋学会：編集委員会委員
- 後藤 龍太郎 日本ベントス学会・英文誌Plankton and Benthos Research編集委員
日本長期生態学ネットワーク (JaLTER) 委員，代表者委員，運営委員，情報管理委員
- 山守 瑠奈 生態学会フォーラム「研究職を天職に！情熱とキャリアアップと、そして、ワークライフ・バランス」
にて主に大学院生までを対象として講演（オンライン），2023-03-20
- 久米 学 応用生態工学会：編集委員
陸水生物学研究会：運営委員
応用生態工学会：会誌編集委員会委員

◆受賞歴

里域生態系部門

益田 玲爾，高橋 宏司

年月日：2022年12月3日

受賞者名（共著者含）：近村 勇之助，高橋 宏司，益田 玲爾

授賞内容（課題名など）：令和4年度日本水産学会近畿支部後期例会 優秀発表賞

「マアジの異種混群に対する行動メカニズム」

海洋生態系部門

市川 光太郎 年月日：2023年3月17日

受賞者名（共著者含）：高井 万葉，黒木 真理，白井 厚太郎，眞名野 将大，富樫 博幸，櫻井 慎大，児嶋 大地，村上 弘章，久米 学，市川 光太郎，三田村 啓理，山下 洋

授賞内容（課題名など）：生態学会 日本生態学会全国大会賞（ポスター賞） <動物個体群> 優秀賞

受賞業績：「河川利用はスズキに高成長をもたらすか？耳石解析に基づく回遊履歴・成長履歴の推定」

後藤 龍太郎 年月日：2022年8月5日

授賞内容（課題名など）：日本進化学会 研究奨励賞

「海産無脊椎動物の進化、適応、種分化に関する研究」

後藤 龍太郎 年月日：2022年9月2～5日

受賞者名（共著者含）：四ノ宮 千遥，小林 元樹，清家 弘治，山下 桃，西川 完途，後藤 龍太郎

授賞内容（課題名など）：日本ベントス学会2022年度大会 学生発表賞（口頭発表）

「海産大型多毛類オニソメ (*Eunice aphroditois*) の幼体型および成体型の分子・形態情報に基づく比較検討」

管理技術部

紺野 絳

年月日：2022年9月21日

授賞内容（課題名など）：第24回森林管理技術賞 特別功労賞

受賞業績：「京都大学演習林の管理・運営と発展のための長年にわたる多大な貢献」

岸本 泰典

年月日：2022年9月21日

授賞内容（課題名など）：第24回森林管理技術賞 若手奨励賞

受賞業績：「映像コンテンツならびに木材加工技術を用いた教育，研究，広報への貢献」

(4) 社会貢献活動

◆学外委員会委員等

森林生態系部門

徳地 直子

農林水産省・国立研究開発法人審議会臨時委員

岐阜県・清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会委員

長岡京市・長岡京市生活環境審議会委員

長岡京市・西山森林整備推進協議会会長

静岡県・「南アルプスを未来につなぐ会」理事

京都府環境影響評価専門委員会・委員

日本学術会議 日本学術会議連携会員

トヨタ自動車株式会社CN開発部・講師

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所・令和4年度 総合地球環境学研究所共同研究員

全国環境研協議会酸性雨広域大気汚染調査研究部会・全国環境研協議会酸性雨広域大気汚染調査研究部

- 会有識者
京都府八幡市・八幡市環境審議会委員
大山崎町・大山崎町森林整備計画に係る指導者
岐阜県・清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会委員
京都府・京都府環境影響評価専門委員会委員
- 舘野 隆之輔 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所・令和4年度 総合地球環境学研究所共同研究員
北海道教育委員会：北海道スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員
- 長谷川 尚史 国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所：外部評価委員
林野庁近畿中国森林管理局：近畿中国森林管理局技術開発委員会委員
全国森林組合連合会：森林プランナー育成対策事業企画運営委員会委員
全国森林組合連合会：フォレストマネージャー研修講師
一般社団法人フォレスト・サーベイ：森林作業システム高度技能者育成事業に係る検討委員
日本森林技術協会：令和4年度森林情報オープン化推進対策におけるワーキンググループメンバー
株式会社山地防災研究所：森林環境保全直接支援事業工程分析調査検討委員会委員
有限責任監査法人トーマツ：「令和4年度林業イノベーションハブ構築事業」における分科会委員
滋賀県：滋賀県森林審議会委員
京都府農林水産部・京都府農林水産ビジョンの見直しに係る検討委員会委員
京都市：大規模集約型林業推進協議会アドバイザー
兵庫県農政環境部：農林水産政策審議会委員
兵庫県：分収造林事業のあり方検討委員会委員
兵庫県：県立農林水産技術総合センター外部評価専門委員会委員
和歌山県農林大学校：和歌山県農林大学校林業研修部運営検討委員会委員
和歌山県農林水産部：和歌山県森林審議会委員
和歌山県農林水産部：農林水産部所管公募型プロポーザル方式等事業者選定委員
和歌山県森林組合連合：先進的林業機械緊急実証・普及事業検討委員会検討委員
奈良県フォレスターアカデミー：令和4年度奈良県フォレスターアカデミー外部講師
奈良県フォレスターアカデミー：令和4年度森林林業教育カリキュラム実施支援検討会検討委員
有田川町林業振興センター：事業推進会議委員
奈良県十津川村：十津川村森林づくり審議会委員
岡山県英田郡西粟倉村：森林RE Designコンソーシアム座長
- 伊勢 武史 日本学術会議事務局：日本学術会議委員(環境学委員会・地球惑星科学委員会合同FE・WCRP合同分科会 GLiC小委員会委員, iLEAPS小委員会委員)
公立大学法人青森公立大学：招聘研究者
京大オリジナル株式会社：アドバイザー（鳥取県瓜菜沢エリア・香川県三豊市・広島県世羅郡・滋賀県内の特定エリア）
京都伝統文化の森推進協議会：京都伝統文化の森推進協議会委員及び文化的価値発信専門委員
- 石原 正恵 一般財団法人自然環境研究センター：モニタリングサイト1000（森林・草原調査）解析ワーキンググループ委員
京都市：京都市環境審議会 生物多様性保全検討部会委員，地球温暖化対策推進委員会委員
京都府：芦生の森植生回復検討委員会委員
一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会：外部アドバイザー
- 小林 和也 標茶町役場農林課林政係：林業推進協議会委員
- 坂野上 なお 一般社団法人滋賀県造林公社：理事
滋賀県：公共事業評価監視委員会委員
大阪府：大阪府国土利用計画審議会委員
奈良県：公共事業評価監視委員会・委員
- 中西 麻美
- 里域生態系部門**
- 益田 玲爾 長崎大学海洋未来イノベーション機構環東シナ海環境資源研究センター：共同利用運営協議会委員
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター：水圏ステーション白尻水産実験所、七飯淡水実験所、忍路臨海実験所、洞爺臨湖実験所共同利用協議会委員
京都府農林水産部水産課：京都海区漁業調整委員会 委員
- 海洋生態系部門**
- 朝倉 彰 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター：水圏ステーション厚岸臨海実験所及び室蘭臨海実験所共同利用協議会 委員
文部科学省高等教育局・令和4年度教育関係共同利用拠点の認定等に関する有識者会議委員

- 三田村 啓理 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所：南極観測アドバイザー
富山県農林水産技術会議：富山県農林水産試験研究評価外部評価委員
岐阜県都市建設部都市公園整備局・メコンオオナマズ学術調査委員・特別委員
京都府農林水産部水産課：京都海区漁業調整委員会委員
京都府農林水産技術センター：評議委員
大阪府立環境農林水産総合研究所・研究アドバイザー委員会委員
- 山下 洋 日本海学推進機構：専門委員
国立研究開発法人科学技術振興機構：創発的研究支援事業 事前評価外部専門家
- 市川 光太郎 IUCN Species Specialist Group
一般社団法人全国水産技術協会：海中サウンドスケープ観測システム開発研究委員会委員
文部科学省研究開発局：第64次南極地域観測隊員
- 下村 通誉 広島大学大学院統合生命科学研究科：客員研究員
和歌山県環境生活部環境政策局・講師
- 中野 智之 国立研究開発法人海洋研究開発機構・J-OBIS推進委員会委員
和歌山県環境生活部環境政策局・講師
- 小林 志保 国立環境研究所：客員研究員
- 山守 瑠奈 白浜町消防団・第2分団支援団員（補助団員）

◆高校生までを対象としたプログラム

森林生態系部門

- 徳地 直子 高大連携事業「京大 森里海ラボ by ONLINE 2022」趣旨説明（オンライン），2022-10-23
- 舘野 隆之輔 ひらめき☆ときめきサイエンス「身近な自然から持続可能性について学ぼう」（上賀茂試験地），2022-10-23
- 長谷川 尚史 有田中央高校清水分校ウッズサイエンス講師（和歌山研究林），2022-06-06, 2023-01-17
高知県立林業大学校・特別教授，2023-01-26/27
- 中西 麻美 京都府立西舞鶴高等学校：講師，2022-06-18, 10-30
- 赤石 大輔 高大連携事業「京大 森里海ラボ by ONLINE 2022」司会（オンライン），2022-10-23

里域生態系部門

- 益田 玲爾 京都教育大学附属高等学校・臨海実習講師，2022-07-25/27
京都府立亀岡高等学校学校探求文理科 講演「海の中から見た舞鶴の環境」（舞鶴水産実験所），2022-12-10
京都府出前授業「京都の海の魚たちの素顔」（京都府立官津天橋高等学校），2022-09-15
京都府出前授業「京都の海の魚たちの素顔」（京田辺市立大住小学校），2022-09-27
京都府出前授業「京都の海の魚たちの素顔」（京丹後市立長岡小学校），2022-10-6
舞鶴市立吉原小学校 講演「海の中から見た舞鶴の環境」（舞鶴水産実験所），2022-10-27
出前授業「池内川の生き物」（舞鶴市立池内小学校），2022-10-27
舞鶴市うみべのもり保育所 講義「まいづるのうみのいきものだいしゅうごう」（舞鶴水産実験所），2022-11-02
出前授業「舞鶴の海の魚たちのひみつ」（舞鶴市立明倫小学校放課後児童クラブ），2022-08-03
舞鶴市主催 舞鶴フィールドミュージアムで小さな冒険「さかなを観察して舞鶴の海をもっと知ろう」講師（赤れんがパーク・舞鶴水産実験所），2022-10-23
- 甲斐 嘉晃 京都府立西舞鶴高等学校：講師，2022-07-21/22
- 鈴木 啓太 京都府立西舞鶴高等学校：講師，2022-06-18/10-30
京都教育大学附属高等学校・臨海実習講師，2022-07-25/27
京都府立海洋高等学校「産官学意見交流会」講師，2023-01-19
- 邊見 由美 高大連携事業「京大 森里海ラボ by ONLINE 2022」グループワークファシリテーター（オンライン），2022-10-23
- 澤田 英樹 京都教育大学附属高等学校・臨海実習講師，2022-07-25/27

海洋生態系部門

- 朝倉 彰 高大連携事業「京大 森里海ラボ by ONLINE 2022」開会/閉会挨拶（オンライン），2022-10-23
- 三田村 啓理 京都府立洛北高等学校 文理コース 生命科学基礎 特別講義「世界の魚を追いかける」，2022-03-11
- 市川 光太郎 武庫川女子大学附属高等学校「総合的な探求」講師，2022年5月
京都府立鴨沂高等学校「子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業」，2022-09-15
- 下村 通誉 滋賀県立膳所高等学校・SSHサイエンスキャンプ講師，2022-07-23/25
- 中野 智之 滋賀県立膳所高等学校・SSHサイエンスキャンプ講師，2022-07-23/25
大阪府立千里高等学校・講師，2022-10-07/08

後藤 龍太郎 兵庫県立尼崎小田高等学校・白浜臨海実習講師, 2022-08-29/30
山守 瑠奈 四天王寺大学スマートサイエンスセミナーにて、女子高校生・保護者を対象として講義（あべのハルカス）, 2022-10-08

管理技術部

岡部 芳彦 北海道標茶高等学校・1年次進路座談会講師（北海道研究林）, 2022-10-06
北海道標茶高等学校・標茶高校出前講座講師（北海道研究林）, 2022-10-24

◆社会人等を対象としたプログラム

森林生態系部門

徳地 直子 周南市連携講座において講演「里山の変遷とタケの侵入」（周南市徳山保健センターおよび徳山試験地）, 2022-07-16
「山の健康診断」プロジェクト中間報告会 ご挨拶・趣旨説明（オンライン）, 2022-08-26
周南市・京都大学フィールド科学教育研究センター連携公開講座（徳山試験地および周南市役所）, 2022-10-01
第8回森里海シンポジウム（北部総合教育研究棟）, 2023-03-19
「山の健康診断」プロジェクト報告会 開会挨拶と趣旨説明（オンライン）, 2023-03-28

館野 隆之輔 上賀茂試験地 秋の自然観察会 概要説明・林内解説, 2022-11-05
「新しい里山里海の勉強会(第1回)」プロジェクトの概要説明（オンライン）, 2023-01-20
瀬戸臨海実験所創立100周年記念式典・講演会 閉会の辞（ホテルシーモア）, 2022-11-27
第8回森里海シンポジウム 閉会挨拶およびポスターセッション審査員（北部総合教育研究棟）, 2023-03-19

吉岡 崇仁 あいだの探索・実践ラボ【あいだの哲学道場 異分野探究編】二元論を超えたあいだの哲学と環境意識～続・人と自然のあいだを探る～（ナビゲーター：大室 悦賀・吉岡 崇仁）（オンライン）, 2022-06-01
京都大学オリジナル株式会社 open your…生物多様性・人・自然の相互作用：あなたは何とつながっていますか？（オンライン）, 2022-08-25

長谷川 尚史 和歌山研究林 ミニ公開講座 林内解説, 2022-10-15

伊勢 武史 京エコロジーセンター「科学者の描く未来予想図」, 2022-04-30
京都市環境保全活動推進協会・桂東自治連合会「2050年CO2ゼロどこでもトーク エコ学区学習会：科学者の描く未来予想図」（桂会館）, 2022-11-19

石原 正恵 森の京都「なんたん」カレッジ 公開講座「芦生の森の恵み」（南丹市国際交流会館）, 2021-11-07
森をみつめるふたりの絵画・写真展「ASHIU FOREST－芦生の森を未来につなぐために－」（京都府立植物園）, 2022年8月19日～28日
公開講演会「芦生の天然林と着生植物－芦生の森を未来につなぐために－」において講演「芦生研究林の概要と生物多様性モニタリング」（京都府立植物園）, 2022-08-21
「京都大学創立125周年記念アカデミックマルシェ」に芦生研究林が『大学の森バーチャルツアー森林VR体験』ブースを出展（ロームシアター京都）, 2022-06-18
舞鶴工業高等専門学校への感謝状贈呈式およびVR連携成果発表会において 芦生研究林概要説明（舞鶴工業高等専門学校）, 2022-09-28
美山×研究つながる集会 大学と地域をつなぐッ！（第3回）において講演「人と自然のつながりを学ぶ森林フィールド」（オンライン）, 2023-02-28
芦生研究林およびKDDI株式会社による生物多様性の保全に向けた包括連携協定締結式（旧演習林事務室ラウンジ）, 2023-03-09
芦生もりびと協会新人ガイド研修会において講演「芦生研究林の現状」（京都丹波高原国定公園ビジターセンター）, 2022-04-24
緑の地球ネットワーク（GEN）なんでも勉強会にて講演「芦生の森の生態系と保全」（オンライン）, 2022-08-27
日本水環境学会流域物質動態とノンポイントソース研究委員会「ワークショップ in 京都・芦生研究林」にて講演「芦生の森の生態系と保全」（芦生研究林）, 2022-09-02
シニア自然学校にて講演「豊かな森と里をめざして京都芦生における超学際研究」（此花会館）, 2022-12-10
パナソニック・京都大学「森里海連環学基礎講座」にて講演「芦生の森の生態系と保全にむけた超学際研究」（オンライン）, 2023-01-18

小林 和也 「初夏の花観察会」北海道フラワーソン2022（北海道研究林標茶区）, 2022-06-18
第122回京都大学丸の内セミナーにおいて講演「利己性の進化が維持する生物多様性」（京都大学東京オフィス）, 2022-08-05
自然観察会「秋の森の生態系」（北海道研究林白糠区）, 2022-10-22

- 坂野上 なお 第8回森里海シンポジウム（ポスターセッション審査員）（北部総合教育研究棟），2023-03-19
 芦生研究林施設公開・森林軌道コース解説，2022-10-22
- 中西 麻美 上賀茂試験地 秋の自然観察会 林内解説，2022-11-05
- 松岡 俊将 芦生研究林一般公開 原生林体験コース解説，2022-10-22
 京都丹波高原国定公園ゼミ 第1講 「見えない生物多様性」にて講師を担当（京都丹波高原国定公園ビジターセンター），2022-08-27
 はびきの市民大学単位認定講座「菌類の生き様と豊かさに迫る」にて講師を担当，2022-10-08
 パナソニック・京都大学 「森里海連環学 基礎講座」にて講演「森林における菌類のはたらき」（オンライン），2022-11-16
 芦生研究林およびKDDI株式会社による生物多様性の保全に向けた包括連携協定締結式 司会および京大発表（旧演習林事務室ラウンジ），2023-03-09
 第8回森里海シンポジウム 司会およびポスターセッション審査員（北部総合教育研究棟），2023-03-19
- 杉山 賢子 自然観察会「秋の森の生態系」 林内解説（北海道研究林白糠区），2022-10-22
- 横部 智浩 「新しい里山里海の勉強会（第1回）」において、里山の評価指標の研究紹介（オンライン），2023-01-20
 第8回森里海シンポジウム ポスターセッション審査員（北部総合教育研究棟），2023-03-19
- 牧野 奏佳香 「山の健康診断」プロジェクト中間報告会 講演「山の健康診断の説明」「分析結果（途中経過）の報告」（オンライン），2022-08-26
 「山の健康診断」プロジェクト報告会 講演「山の健康診断の説明」「分析結果の報告」（オンライン），2023-03-28
- 赤石 大輔 「山の健康診断」プロジェクト中間報告会（司会）（オンライン），2022-08-26
 舞鶴工業高等専門学校への感謝状贈呈式およびVR連携成果発表会（司会），2022-09-28
 高大連携事業「京大 森里海ラボ by ONLINE 2022」（司会）（オンライン），2022-10-23
 国際自然環境アウトドア専門学校・非常勤講師，2022-04-01
 上賀茂試験地 秋の自然観察会 林内解説，2022-11-05
 「新しい里山里海の勉強会（第1回）」（司会および上賀茂試験地紹介）（オンライン），2023-01-20
 美山×研究つながる集会 大学と地域をつなぐ！（第3回）（司会）（オンライン），2023-02-28
 「山の健康診断」プロジェクト報告会（司会）（オンライン），2023-03-28
 第8回森里海シンポジウム（総合司会および上賀茂試験地紹介）（北部総合教育研究棟），2023-03-19

里域生態系部門

- 益田 玲爾 若狭湾生物同好会公開講演会 講演「潜水調査と環境DNAでさぐる津波後の海の回復」（舞鶴市中央公民館），2022-06-19
 海上自衛隊SDGs研修 講演「水中から見た日本海の環境」（舞鶴水産実験所），2022-07-06
 舞鶴市南公民館 公開講演会 講演「水中から見た舞鶴の海の魅力」（舞鶴市南公民館），2022-07-07
 まなびあむ生き生きセミナー 公開講演会 講演「“魚の心”を探り続けて」（舞鶴市多世代交流施設まなびあむ），2022-07-14
 舞鶴市ネイチャーガイド養成講座 「舞鶴湾の魚たち」（舞鶴市商工観光センター），2022-08-02
 京都大学ELP 講演「潜水目視調査から考える海の未来：多様性とつながり」（京都大学 橘会館），2022-10-22
 舞鶴水産実験所 設置50周年記念シンポジウム 講演「水中から見た京都の海の魚たち—旬の魚と温暖化—」（舞鶴市商工観光センター），2022-10-29
 舞鶴水産実験所 設置50周年記念企画展「舞鶴水産実験所の過去・現在・未来」 解説ツアー（舞鶴水産実験所），2022-10-30
 京都府海の民学舎への講義提供「水中から見た京都の海」（オンライン），2023-01-12
 第1回新しい里山里海の勉強会 舞鶴水産実験所の紹介（オンライン），2023-01-20
 タカノ株式会社若手勉強会にて講演「潜水調査を通して考える海と人類の未来」（京都大学国際科学イノベーション棟 会議室），2023-01-31
 アースウォッチ市民調査成果報告会「ダイバーから見た環境DNAの使い道」（オンライン），2022-03-18
- 甲斐 嘉晃 舞鶴水産実験所 設置50周年記念企画展「舞鶴水産実験所の過去・現在・未来」 解説ツアー（舞鶴水産実験所），2022-10-30
- 鈴木 啓太 舞鶴水産実験所 設置50周年記念シンポジウム「京都の海の魅力と不思議」および、企画展「舞鶴水産実験所の過去・現在・未来」（企画責任者），2022-10-29/30
 舞鶴水産実験所 設置50周年記念シンポジウム 講演「風が吹けば—日本海側気候とプランクトン—」（舞鶴市商工観光センター），2022-10-29
 舞鶴水産実験所 設置50周年記念企画展「舞鶴水産実験所の過去・現在・未来」 解説ツアー（舞鶴水産実験所），2022-10-30
 第20回高大連携教育フォーラム 第2部 第1分科会報告者（オンライン），2022-12-03

- 邊見 由美 舞鶴水産実験所 設置50周年記念シンポジウム 講演「京都のエビ・カニ類—今までの知見と新たな発見—」(舞鶴市商工観光センター), 2022-10-29
第8回森里海シンポジウム 舞鶴水産実験所紹介(北部総合教育研究棟), 2023-03-19
- 高橋 宏司 舞鶴水産実験所 設置50周年記念シンポジウム(司会進行)(舞鶴市商工観光センター), 2022-10-29
舞鶴水産実験所 設置50周年記念企画展「舞鶴水産実験所の過去・現在・未来」解説ツアー(舞鶴水産実験所), 2022-10-30

海洋生態系部門

- 朝倉 彰 公益財団法人イオン環境財団との「新しい里山・里海 共創プロジェクト」連携発表ならびに寄付贈呈式, 2022-07-19
瀬戸臨海実験所創立100周年記念式典・講演会 式辞および講演「瀬戸臨海実験所100年の歴史」(ホテルシーモア), 2022-11-27
第8回森里海シンポジウム 開会挨拶およびポスターセッション審査員長・講評(北部総合教育研究棟), 2023-03-19
- 山下 洋 舞鶴水産実験所 設置50周年記念シンポジウム 総合討論 進行(舞鶴市商工観光センター), 2022-10-29
小郡市エジソンクラブ講師(田中三次郎商店), 2022-10-08
小郡市ロータリークラブ講師(ロイヤルパークアルカディア), 2022-10-17
筑後小郡コウノトリの会「水辺の環境を考える勉強会」(小郡市総合保健福祉センター), 2022-09-23
筑後小郡コウノトリの会「コウノトリの餌を増やすために今できること」(小郡市総合保健福祉センター), 2022-10-16
- 市川 光太郎 第5回海牛祭り講師(オンライン), 2023年3月
- 下村 通誉 公開ラボ・施設見学「白浜の海の自然と発見」瀬戸臨海実験所の紹介, 2022-10-22
第1回新しい里山里海の勉強会 瀬戸臨海実験所の紹介(オンライン), 2023-01-20
瀬戸臨海実験所創立100周年記念式典・講演会 司会および講演「瀬戸臨海実験所と海産無脊椎動物の研究(系統分類)」(ホテルシーモア), 2022-11-27
イオン×京大「白浜水族館で白浜の豊かな海と生き物について学ぼう!」概要説明と水族館の解説, 2023-02-18
- 中野 智之 瀬戸臨海実験所創立100周年記念式典・講演会 講演「島島一世紀間調査と環境変動」(ホテルシーモア), 2022-11-27
- 後藤 龍太郎 瀬戸臨海実験所創立100周年記念式典・講演会 講演「瀬戸臨海実験所と海産無脊椎動物の研究(生態)」(ホテルシーモア), 2022-11-27
第8回森里海シンポジウム ポスターセッション審査員(北部総合教育研究棟), 2023-03-19
保全上重要なわかやまの自然 和歌山県レッドデータブック(2022年度改訂版)選定・執筆における協力者、情報及び写真提供者
- 山守 瑠奈 認定NPO法人シニア自然大学校・講師, 2022-07-12
瀬戸臨海実験所創立100周年記念式典・講演会 講演会の司会(ホテルシーモア), 2022-11-27
第8回森里海シンポジウム 瀬戸臨海実験所紹介を担当(北部総合教育研究棟), 2023-03-19
- 河村 真理子 瀬戸臨海実験所創立100周年記念式典・講演会 講演「瀬戸臨海実験所の教育拠点としての活動」(ホテルシーモア), 2022-11-27

管理技術部

- 北川 陽一郎 芦生研究林一般公開 原生林体験コース解説, 2022-10-22
- 加藤 哲哉 瀬戸臨海実験所創立100周年記念式典・講演会 講演「白浜水族館の歴史」(ホテルシーモア), 2022-11-27
- 勝山 智憲 芦生研究林一般公開 原生林体験コース解説, 2022-10-22
- 岸本 泰典 芦生研究林一般公開 VR体験会, 2022-10-22
- 永井 貴大 芦生研究林一般公開 VR体験会, 2022-10-22
- 林 大輔 「初夏の花観察会」北海道フラワーソン2022(北海道研究林標茶区) 2022-06-18
- 山内 洋紀 公開ラボ・施設見学「白浜の海の自然と発見」水族館見学, 2022-10-22
- 古田 卓 自然観察会「秋の森の生態系」(北海道研究林白糠区), 2022-10-22

(5) 国際活動

◆国際研究プロジェクト

森林生態系部門

石原 正恵 LIFEPLAN (生物多様性調査国際プロジェクト)

松岡 俊将 LIFEPLAN (生物多様性調査国際プロジェクト)

海洋生態系部門

市川 光太郎 第64次南極地域観測隊における南極地域観測 (南極 昭和基地, 2022-11-03/2023-3-22)

◆海外調査

海洋生態系部門

市川 光太郎 ジュゴンの受動的音響観察 (タイ タリボン島周辺海域, 2022-9-30/10-11)

◆招へい外国人学者

森林生態系部門

Shi Weiyu (中国, 西南大学), 2023-01-09/02-07 (受入教員: 舘野 隆之輔)

海洋生態系部門

Corral Jonel Mangente (フィリピン, Batangas State University) 日本海産寄生性甲殻類の分類学的研究, 2022-06-07/28 (受入教員: 邊見 由美)

◆その他出張研修

森林生態系部門

徳地 直子 サンパウロ州立大学とフィールド研との包括連携協定に向けての協議、共同研究に関する打合せ (ブラジル サンパウロ州立大学, 2022-09-02/13)

◆留学生

森林生態系部門

Azwar Azmillah Sujaswara 私費留学生 (インドネシア, 長谷川 尚史, 農学研究科森林科学専攻M2)

May Thet Su Kyaw Tint 国費留学生 (インドネシア, 徳地 直子, 農学研究科森林科学専攻 D3)

Nay Lin Maung 国費留学生 (ミャンマー, 徳地 直子, 農学研究科森林科学専攻M2)

孔 琪嫻 Kong Qixian 私費留学生 (中国, 徳地 直子, 農学研究科森林科学専攻M1)

李 英帥 Li Yingshuai 私費留学生 (中国, 徳地 直子, 森林育成学分野 研究生)

里域生態系部門

Chaitanya Bhandare 私費留学生 (インド, 益田 玲爾, 農学研究科D3)

劉 瑾妍 私費留学生 (中国, 益田 玲爾, 農学研究科M2)

Hunter Harter Godfrey 私費留学生 (アメリカ合衆国, 益田 玲爾, 農学研究科M1)

海洋生態系部門

Faith Jessica Moron Paran 国費留学生 (フィリピン, 朝倉 彰, 基礎海洋生物学 D3)

Dewi Citra Murniati 私費留学生 (インドネシア, 朝倉 彰, 基礎海洋生物学 D3)

Saliza Binti Awang Bono 国費留学生 (マレーシア, 市川 光太郎, 農学研究科応用生物科学専攻 D3)

張家齊 Cheung Ka Chai 私費留学生 (中国, 朝倉 彰, 基礎海洋生物学分野 研究生)

(6) 研修参加・資格取得等

◆職員研修（学外）

関東甲信越地区農学部附属演習林技術職員研修

開催日時・場所 2022年10月18-20日 新潟大学佐渡自然共生科学センター森林部門演習林

参加者 細見 純嗣・宮城 祐太・木本 恵周

九州地区国立大学法人農学部附属演習林等技術職員研修

開催日時・場所 2022年10月26-28日 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター田野フィールド（演習林）

参加者 橋本 晋太

中国・四国・近畿地区大学附属演習林等技術職員研修

開催日時・場所 2023年3月8-9日 京都大学フィールド研北海道研究林標茶区

参加者 永井 貴大・長谷川 敦史・大橋 健太

国立大学法人臨海・臨湖実験所・センター技術職員研修会議

開催日時・場所 2022年11月9-11日 東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所

参加者 原田 桂太・武藤 岳人

文部科学省 情報システム統一研修

サービスデザイン基礎（集合研修・web開催 2022年12月15日）

林 大輔

Excel VBA を活用した業務効率化（法令協議連絡調査事務編）（eラーニング）

宮城 祐太

「デジタルガバメント推進標準ガイドライン」解説（eラーニング）

宮城 祐太

AIリテラシー（eラーニング）

宮城 祐太・橋本 晋太

情報システム入門（eラーニング）

橋本 晋太

データ分析技法（マクロ・VBAの基礎）（eラーニング）

橋本 晋太

情報セキュリティ入門（eラーニング）

橋本 晋太

公文書管理・情報公開・個人情報保護（eラーニング）

橋本 晋太

◆職員研修（学内）

京都大学技術職員研修 第47回：Zoom によるオンライン

2022年9月5日 橋本 晋太・境 慎二郎

京都大学技術職員研修：スキルアップ研修：Zoom によるオンライン

(1) ビジネス活用のためのAI（人工知能）研修

2023年2月3日 宮城 祐太・北川 陽一郎・中村 はる奈・勝山 智憲・柳本 順

2023年2月22日 中川 智之・上西 久哉

(2) ビジネス活用のためのAI（人工知能）研修

2023年2月27日 木本 恵周・林 大輔・荒井 亮・奥田 賢・槇田 盤

(3) AI・機械学習研修～回帰・分類・レコメンド編

2023年2月13, 14日 宮城 祐太・北川 陽一郎・勝山 智憲

京都大学技術職員専門研修（第1専門技術群：工作・運転系）：オンライン

2022年10月18日 武藤 岳人・林 大輔・橋本 晋太

京都大学技術職員専門研修（第2専門技術群：システム・計測系）：オンライン

2023年1月12日 橋本 晋太

京都大学技術職員専門研修（第3専門技術群：物質・材料系）：オンライン

2022年11月1日/12月31日 中川 智之

2023年1月4日/3月1日 向 昌宏・山内 洋紀

京都大学技術職員研修（第6専門技術群：情報系）：総合研究15号館201室及び上賀茂試験地

2022年11月30日

榎田 盤・中村 はる奈・細見 純嗣・永井 貴大

京都大学若手スキルアップ研修（セルフマネジメント）

2022年7月6日

橋本 晋太

京都大学パソコン研修

Excel応用編 2022年10月28日

西岡 裕平

◆免許・資格等の取得・安全衛生に関する講習会等

危険物取扱者免状（乙種第4類）

大型特殊自動車免許

第一種中型自動車免許

一般毒物劇物取扱者

第二種電気工事士

認定電気工事従事者

第一種衛生管理者免許

地山の掘削及び土止め支保工作業主任者

高所作業車運転技能講習

低圧電気取扱いに係る特別教育

伐木等機械の運転業務に関する特別教育

走行集材機械の運転業務に関する特別教育

簡易架線集材装置等の運転業務に関する特別教育

フルハーネス型墜落制止用器具特別教育

足場の組み立て業務にかかる特別教育

丸のこ等取扱作業安全衛生教育

甲種防火管理新規講習

危険物取扱者保安講習（乙種第4類）

安全運転管理者講習

バーチャルリアリティ技術者認定試験

武藤 岳人・木本 恵周・橋本 晋太（消防法に基づく国家資格）

木本 恵周

宮城 祐太・橋本 晋太（以上、道路交通法に基づく国家資格）

原田 桂太（毒物及び劇物取締法に基づく国家資格）

山内 洋紀

原田 桂太（以上、電気工事士法に基づく国家資格）

宮城 祐太・中川 智之（労働安全衛生法に基づく国家資格）

太田 健一・岡部 芳彦・木本 恵周

勝山 智憲・荒井 亮（以上、労働安全衛生法に基づく技能講習）

武藤 岳人・原田 桂太・加藤 哲

木本 恵周・橋本 晋太

木本 恵周・橋本 晋太

木本 恵周・橋本 晋太

岸本 泰典・宮城 祐太・中川 智之・上西 久哉・柳本 順・

奥田 賢・古田 卓・木本 恵周・橋本 晋太

紺野 絡（以上、労働安全衛生法に基づく特別教育）

長谷川 敦史・浅野 善和（労働安全衛生法の通達に基づく教育）

勝山 智憲

勝山 智憲・永井 貴大・古田 卓・浅野 善和・紺野 絡・長

谷川 敦史・山内 洋紀（消防法に基づく講習）

柴田 泰征・奥田 賢（道路交通法に関する講習）

永井 貴大（日本バーチャルリアリティ学会認定）

5. 資料

(1) 職員配置表

令和5年3月 1日現在

区分	教授	准教授	講師	助教	事務職員	技術職員	非常勤職員等
流動分野研究室	三田村啓理 ◆山下 洋	市川光太郎		小林 志保 ◆久米 学			野田 琢嗣 山下 洋 高橋 由衣 寺西 満美
研究室(北部構内)	徳地 直子 □館野隆之輔 ▲吉川左紀子 ▲吉岡 崇仁	伊勢 武史 長谷川尚史 *佐藤 弥	◆赤石 大輔	坂野上なお ◆May Thet Su Kyaw Tint (研究員) ◆横部 智浩			川崎 茜 森川 一美 吉岡 崇仁 駒井 幸雄 吉川左紀子 嶺本 和沙 大庭ゆりか 池端 建吾
企画情報室	(室長) 三田村 啓理	(副室長) 長谷川尚史				●榎田 盤 ○中村はる奈	
森里海環学 プロジェクト支援室	(室長) 徳地 直子 (副室長) 益田 玲爾					(兼)○向 昌宏	
事務室					(課長補佐) 椿野 康弘 (掛長) 福島 慎吉		山本みゆき 濱田 綾香 野村真由美
森林フィールド管理部門						▽○◎境 慎二郎	
里域フィールド管理部門						▽○藤井 弘明	
水域フィールド管理部門						◎加藤 哲哉	
芦生研究林		(研究林長) 石原 正恵	★◆赤石 大輔	松岡 俊将 ★坂野上なお	(掛長) ★(兼) 福島 慎吉 (主任) 四方 聡	●柴田 泰征 ●勝山 智憲 ○細見 純嗣 ○太田 健一 ○北川陽一郎 岸本 泰典 宮城 祐太 永井 貴大	中野 莉緒 中野はるみ 登尾 梨恵
北海道研究林	★館野 隆之輔	(研究林長) 小林 和也		杉山 賢子 ▼中西 麻美	(掛長) 若林潤一郎	[標茶区] ●岡部 芳彦 ●奥田 賢順 ○柳本 大輔 古田 卓 木本 惠周 橋本 晋太	川村由紀枝 渡邊 紗織
和歌山研究林	(研究林長) ★徳地 直子 ★館野隆之輔	★長谷川尚史				●中川 智之 ●上西 久哉 ○浅野 善和	松場 香枝
上賀茂試験地	(試験地長) ★館野隆之輔		★◆赤石 大輔	中西 麻美		●紺野 絡 ●大橋 健太 ○荒井 亮 西岡 裕平 長谷川敦史 (再)山内 隆之	橋田理也子 南 ゆう 豊田奈尾美
徳山試験地	(試験地長) ★徳地 直子					(兼)▽●境 慎二郎	徳原 典子 石丸美由希
北白川試験地	(試験地長) 徳地 直子					(兼)●藤井 弘明 吉岡 歩 山中 公	
紀伊大島実験所		(実験所長) △甲斐 嘉晃					
舞鶴水産実験所	(実験所長) 益田 玲爾	甲斐 嘉晃		鈴木 啓太 邊見 由美 高橋 宏司 (研究員) ▲◆伊藤 岳	横山 隆一	○向 昌宏 ○小倉 良仁	荻野 文代 潮見 美咲 山下みどり 高橋 麻乃 縄舟 琴乃 糸井 幸代
瀬戸臨海実験所	■朝倉 彰	(実験所長) 下村 通誉	中野 智之	後藤龍太郎 山守 瑠奈	(掛長) 白石 大作 (専門職員) 安井 正 (主任) 西村 元一	(兼)●加藤 哲哉 ○山内 洋紀 ○山本 恒紀 ○原田 桂太 武藤 岳人	興田 道子 河村真理子 上木原昭子 寺本 律子 和田 和香

■センター長 □副センター長 *連携教員・研究員 ◆特定有期雇用教職員 ▲特任教授
勤務地：★京都 ▼北白川試験地 ▼上賀茂試験地 △舞鶴水産実験所

◎統括技術長 ○技術長 ●技術班長 ○技術主任
(兼)兼務 (再)再雇用

(2) 常設委員会名称および委員一覧

2022年4月1日現在

将来構想企画委員会	○朝倉・徳地・益田・舘野・三田村
教育研究評価（自己点検評価）委員会	○朝倉・徳地・益田・舘野・三田村
施設・設備整備委員会	○朝倉・徳地・益田・舘野・三田村
教育プログラム委員会	○朝倉・益田・長谷川・中西・市川
研究プログラム委員会	○徳地・小林（和也）・市川・後藤
広報委員会	○三田村・中野・山守・石原・中西・鈴木・小林（志保）・槇田
人権問題対策検討委員会	○朝倉・益田・舘野・徳地・三田村・フィールド研事務長
情報セキュリティ委員会	○朝倉・三田村・鈴木（部局情報セキュリティ技術責任者）・小林（和也）・槇田
社会連携委員会	○市川・長谷川・松岡・高橋・後藤
国際委員会	○朝倉・益田・小林（和也）・三田村
労働安全衛生委員会	○徳地・坂野上・甲斐・下村・向・技術長・事務室長
教育研究組織改革検討ワーキンググループ	○朝倉・益田・徳地・三田村・下村・伊勢・甲斐・石原
放射線障害防止委員会	○益田・甲斐（エックス線作業主任者）・徳地・中野
公用車管理委員会	○三田村・伊勢・市川・長谷川
芦生研究林基金運営委員会	○朝倉・徳地・舘野・石原・伊勢・坂野上・フィールド研事務長
図書委員会	○伊勢・松岡・後藤・坂野上・鈴木
動物実験委員会	○益田・朝倉・下村・中野・高橋・原田

（○は、委員長）

（役職指定）

危機管理委員会	全教授・各施設長・技術長
技術職員のあり方検討委員会	専任教授（流動分野を除く）・技術長・ （事務部）フィールド研事務長・フィールド研事務室長・ 総務課課長補佐（総務・人事担当）・総務課人事掛長

(3) 全学委員会等

2022年4月1日現在

<部局長が対応する委員会>

教育研究評議会	地球環境学堂・学舎 協議会	総合技術部 委員会
研究資源アーカイブ運営委員会	情報セキュリティ委員会	研究連携基盤運営委員会

<他の教員が対応する委員会>

総合博物館運営委員会	益田
図書館協議員	舘野
野生動物研究センター連携協議会	朝倉
大学評価委員会 点検・評価実行委員会	徳地
学生の安全対策検討WG委員	徳地
学生総合支援センター管理運営委員会	市川
組換えDNA実験安全委員会	甲斐
吉田キャンパス整備専門委員会	(随時指名)
化学物質専門委員会	徳地
国際戦略本部国際化推進懇談会	伊勢
大学入学共通テスト実施委員会	三田村
農学研究科建築委員会オブザーバー	徳地
農学研究科(北部)総合研究棟ワーキンググループ	長谷川・椿野
農学研究科防火・防災委員会	舘野
農学研究科省エネルギー小委員会(環境・安全・衛生委員会)	小林(志保)
北部構内交通委員会	舘野
ハラスメント相談窓口	益田・坂野上・小林(志保)・加藤・椿野

<学系会議>

生態フィールド学系会議 (海洋生物環境学分野除く講師以上)	
生態フィールド学系長	木庭 啓介 (生態学研究センター)
応用生物学系会議 (海洋生物環境学分野教授)	
応用生物学系長	横井 伯英 (農学研究科)

(4) 運営委員会

2022年9月1日現在

区分	氏名	所属・職名
1号	朝倉 彰	フィールド研 センター長
2号	舘野 隆之輔	フィールド研 教授
	徳地 直子	フィールド研 教授
	三田村 啓里	フィールド研 教授
	益田 玲爾	フィールド研 教授
3号	田村 実	理学研究科 教授
	北山 兼弘	農学研究科 教授
	渡邊 哲弘	地球環境学堂 准教授
	木庭 啓介	生態学研究センター 教授
	村上 由美子	総合博物館 准教授
	石川 登	東南アジア地域研究研究所 教授

(5) 協議員会

2022年4月1日現在

区分	氏名	所属・職名	備考
1号	朝倉 彰	フィールド研 センター長	
2号	益田 玲爾	フィールド研 教授	
	舘野 隆之輔	フィールド研 教授	
	徳地 直子	フィールド研 教授	
	三田村 啓理	フィールド研 教授	
3号	國府 寛司	理学研究科 教授	理学研究科長
	曾田 貞滋	理学研究科 教授	
	澤山 茂樹	農学研究科 教授	農学研究科長
	丸山 伸之	農学研究科 教授	農学研究科附属農場長
	勝見 武	地球環境学堂 教授	地球環境学堂長
	中村 裕一	学術情報メディアセンター 教授	
	中野 伸一	生態学研究センター 教授	生態学研究センター長
	永益 英敏	総合博物館 教授	

(6) 教育関係共同利用拠点運営委員会

舞鶴水産実験所共同利用運営委員会

2022年4月1日現在

区分	氏名	所属・職名
1号	朝倉 彰	フィールド研 センター長
2号	益田 玲爾	フィールド研 教授 (舞鶴水産実験所長)
3号	徳地 直子	フィールド研 教授
4号	小林 志保	フィールド研 助教
5号	塩尻 かおり	龍谷大学 農学部 准教授
	Jean Tanangonan	近畿大学 農学部環境管理学科 講師
	白山 義久	国立研究開発法人 海洋研究開発機構 科学アドバイザー
	富永 修	福井県立大学 海洋生物資源学部 教授
	仲岡 雅裕	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 教授
	三宅 崇	岐阜大学 教育学部 教授

瀬戸臨海実験所共同利用運営委員会

2022年4月1日現在

区分	氏名	所属・職名
1号	朝倉 彰	フィールド研 センター長
2号	下村 通誉	フィールド研 准教授 (瀬戸臨海実験所長)
3号	徳地 直子	フィールド研 教授
4号	渡辺 勝敏	京都大学 理学研究科 准教授
5号	仲岡 雅裕	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 教授
	遊佐 陽一	奈良女子大学 研究院自然科学系生物科学領域 教授
	西田 宏記	大阪大学 理学研究科 教授
	川井 浩史	神戸大学 内海域環境教育研究センター特命教授
	深見 裕伸	宮崎大学 農学部 教授
	白山 義久	国立研究開発法人 海洋研究開発機構 科学アドバイザー

芦生研究林・北海道研究林・上賀茂試験地共同利用運営委員会

2022年4月1日現在

区分	氏名	所属・職名
1号	朝倉 彰	フィールド研 センター長
2号	石原 正恵	フィールド研 准教授 (芦生研究林長)
	小林 和也	フィールド研 准教授 (北海道研究林長)
	館野 隆之輔	フィールド研 教授 (上賀茂試験地長)
3号	徳地 直子	フィールド研 教授
4号	檀浦 正子	京都大学大学院農学研究科 准教授
5号	平山 貴美子	京都府立大学大学院生命環境学研究科 准教授
	小椋 純一	京都精華大学 人文学部 教授
	藤井 芳一	人間環境大学 人間環境学部 准教授
	松山 周平	酪農学園大学 准教授
	小林 元	信州大学 農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター 准教授
	高木 正博	宮崎大学 農学部附属フィールド科学教育研究センター田野フィールド 教授

(7)新聞・雑誌等に掲載された記事

センターに関する記事

年月日	掲載面	掲載紙	タイトル	内容・キーワード等
2022年4月5日	京都地域面	読売新聞 朝刊	調査研究 参加者目線で 京大、フィールドワーク動画	OCW実習映像
2022年4月	9面	紀伊民報	研究者の「ひみつ道具」紹介 7月20日まで京大白浜水族館	水族館企画展示
2022年4月	和歌山地域面 27面	読売新聞 朝刊	発想光る生物学者の道具 京大白浜水族館 実物や写真32点	水族館
2022年4月	和歌山版	毎日新聞	特別展:日用品を研究に 京大水族館「ひみつ道具」展 白浜	水族館企画展示
2022年4月	大阪夕刊 6面	日本経済新聞	『2050年の地球を予測する』伊勢武史著(BOOKガイド)	水族館
2022年4月19日	大阪夕刊 29面	日本経済新聞	京都大 白浜水族館——生物の多様性研究し100年(キャンパス探訪)	水族館
2022年4月21日	和歌山 22面	朝日新聞	生物学者のひみつ道具展(短信/和歌山県)	水族館
2022年5月1日	p.18-19	No.95	「山の健康診断」プロジェクト	モンベル会報誌『OUTWARD』
2022年5月1日	p.18-19	モンベル会報誌『OUTWARD』 No.95	「山の健康診断」プロジェクトとは?	山の健康診断プロジェクト
2022年5月7日	両丹A 20面	京都新聞	舞鶴湾生き物 題材に絵本 市、作製 多様性の尊重伝え	舞鶴水産実験所
2022年5月12日	京都地域面 27面	読売新聞 朝刊	人権教育 生き物の物語 舞鶴湾舞台 市が絵本	舞鶴水産実験所
2022年5月13日	22面	京都新聞	カメラは見た 心奪われた 道中のお出合い 芦生の森の周辺	芦生研究林
2022年5月20日	和歌山 18面	毎日新聞	京大フィールド研:野外実習の魅力感じて 京大フィールド研 映像教材を一般公開 瀬戸臨海実験所や白浜水族館 /和歌山	OCW
2022年5月25日	地域21面	毎日新聞 朝刊	現場の臨場感 参加者の目線で 野外調査 オンライン体験を	OCW実習映像
2022年5月29日	地域24面	京都新聞 朝刊	まちライブラリーに行こう 住民が開設・運営 京丹波と南丹・美山で人気	芦生研究林
2022年5月30日	p.5694	京大広報 762号	第7回京都大学・日本財団 森里海シンポジウムを開催	フィールド研
2022年6月16日	1面	京都大学新聞	オンラインで実習体験 フィールド研動画公開	OCW
2022年6月17日	9面	紀伊民報	海の動物缶バッジ配る 18~20日 京大白浜水族館	白浜水族館
2022年6月17日	和歌山地域面 27面	読売新聞 朝刊	京大125周年 缶バッジ5種 白浜水族館 あす~20日先着順	白浜水族館
2022年6月18日	和歌山 21面	毎日新聞	白浜水族館:海の生き物、缶バッジに 白浜水族館 有料入館者に配布 京大125周年記念、きょうから /和歌山	白浜水族館
2022年6月25日	s1面	日本経済新聞(日経プラスワン)	大学の知の蓄積 親子で楽しむ 自然科学系2位 京都大学白浜水族館	白浜水族館
2022年7月1日	--	PEAKS No.152	京都大学フィールド研×モンベル「山の健康診断」プロジェクトで美しい山を守ろう	山の健康診断プロジェクト
2022年7月10日	22面	京都新聞	シカ害深刻化の恐れ 餌求め山から南下か	芦生研究林
2022年7月14日	6面	電波新聞	京都大学125周年イベント 研究林のVR動画公開 360度、上下左右を体験	芦生研究林
2022年7月15日	7面	紀伊民報	夏休み、楽しく学ぼう 紀南7、8月のイベント「水族館ツアー」	京都大学白浜水族館
2022年7月17日	24面	京都新聞 丹波A版	ワイドたんば 体験 あぜ道の花 多彩な生態 丹波高原国定公園ビジターセンター 親子向け観察会人気 毎月、同コースで採集 季節ごとの変化確認	芦生研究林
2022年7月20日	25面	京都新聞	京大がイオンと海山保全 4年かけ 持続可能な「里」提案	フィールド研
2022年7月21日		紀伊民報	新型コロナで中止/白浜水族館の解説ツアー	京都大学白浜水族館
2022年7月22日	3面	織研新聞	イオン環境財団と京大フィールド研 里山・里海共創で提携	フィールド研
2022年8月号	p.17	山と溪谷	京都大学×モンベル「山の健康診断」水質調査に登山者も協力	山の健康診断
2022年8月2日	9面	紀伊民報	白浜 海辺の生き物学 県イベントに児童24人	瀬戸臨海実験所
2022年8月11日	23面	京都新聞	環境保全へ「山の健康診断」京大とモンベル、市民参加で大規模調査	フィールド研
2022年8月15日	20面	京都新聞 両丹A版	海軍火薬廠の残影 戦後77年の舞鶴(1) 第一線の研究者が集結 集合写真 火工兵器の基礎築く	舞鶴水産実験所
2022年8月17日	8面	紀伊民報	写真や道具で振り返る 100周年特別展 京大瀬戸臨海実験所	瀬戸臨海実験所
2022年8月22日	21面	京都新聞	芦生の自然 絵や写真で感じて 画家と市民研究者、府立植物園で展示	フィールド研・芦生研究林
2022年8月22日	21面	京都新聞	芦生研究林の植物多様性紹介 林長ら講演	フィールド研・芦生研究林
2022年8月23日	京丹後丹波版 23面	読売新聞	国定公園 生物知ろう 27日美山 センターと京大 協定	フィールド研・芦生研究林
2022年8月23日	16面	毎日新聞 和歌山版 朝刊	特別展:古写真を通じて熊楠と白浜紹介 記念館で特別展 /和歌山	瀬戸臨海実験所
2022年8月26日	24面	読売新聞 和歌山版 朝刊	臨海実験所 100年の歩み 白浜水族館 パネルや研究器具=和歌山	瀬戸臨海実験所
2022年9月3日	4面	リビング和歌山	写真で振り返る瀬戸臨海実験所の100年 1月10日(火)まで	白浜水族館

2022年9月22日	22面	京都新聞 朝刊	カメラは見た 澄み切る大自然、駆け巡り学ぶ 芦生を体感してほしい	芦生研究林
2022年9月24日	4面	リビング和歌山	白浜の海の自然と発見	瀬戸臨海実験所
2022年9月24日	27面	読売新聞 大阪版朝刊	[大阪 ひと語り]生き物探究 魅力伝える 斉藤わかさん	芦生研究林
2022年9月25日	19面	毎日新聞 和歌山版 朝刊	短信:京都大学瀬戸臨海実験所見学会 /和歌山	瀬戸臨海実験所
2022年9月30日	p.13, 18, 30, 31, 35	環境安全保健機構編『京都大学環境報告書 2022』	「森を守ることが海の生物多様性保全につながる」他	フィールド研
2022年10月5日	地域23面	京都新聞 朝刊	VRで芦生研究林やシカ食害知って 京大依頼、KDDI支援 舞鶴高専が動画制作	芦生研究林
2022年10月20日	地域21面	毎日新聞 朝刊	芦生研究林の自然、VRで 舞鶴高専生が制作 魅力や現状伝える 動画3本 京大で披露し感謝状	芦生研究林
2022年10月22日	地域25面	朝日新聞 朝刊	京大芦生研究林のVR動画制作 舞鶴高専へ感謝状	芦生研究林
2022年11月5日	地域プラス24面	京都新聞 朝刊	身近な海、甲殻類の新種発見 日本海の水産資源研究 創設50年でシンポ	舞鶴水産実験所
2022年11月30日	p.5751	京大広報 765号	探訪:フィールド科学教育研究センター 舞鶴水産実験所	舞鶴水産実験所
2022年12月号	p.6-7	広報まいづる	未来に挑戦する子ども達へ 学びの場コラボレーション (「おさかな観察会」実験所でフィールドワーク)	舞鶴水産実験所
2022年12月3, 9日	地域24面, 夕刊1面	京都新聞	京都の「里海」魅力探る 舞鶴の京大水産実験所研究者ら出版	舞鶴水産実験所
2022年12月17日	地域29面	朝日新聞	シュンカンハゼ、京都で初記録 頭部のしわ特徴、海洋高生が宮津で採集 /京都府	舞鶴水産実験所
2022年12月18日	地域20面	毎日新聞	京都・読書之森:里海フィールド科学 京都の海に学ぶ人と自然の絆 /京都	舞鶴水産実験所
2022年12月20日	2面	しゅうなんFM こども新聞	鼓南中学校 森林を守るために必要な伐採作業を体験!	徳山試験地
2022年12月24日	地域25面	読売新聞	シュンカンハゼ 京都沖にいた! 海洋高生の論文 サイトに掲載	舞鶴水産実験所
2023年1月号	p.178	山と溪谷	日本山岳遺産の横顔 vol.25 原始の森を守り、生かす。芦生もりびと協会 2021年度認定	芦生研究林
2023年1月30日	p.5773	京大広報 766号	「京大 森里海ラボ by ONLINE 2022」を開催	フィールド研
2023年1月30日	p.5774	京大広報 766号	フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 100周年記念式典・講演会を開催	瀬戸臨海実験所
2023年2月	地域21面	毎日新聞	企画展:日本沿岸で発見、新種生物も紹介 白浜・京大水族館 /和歌山	瀬戸臨海実験所
2023年2月14日	地域30面	読売新聞 朝刊	新種の生き物 見に来て 京大白浜水族館 パネル、標本など40点=和歌山	瀬戸臨海実験所
2023年3月14日	8面	紀伊民報	海洋生物を究める 白浜京大水族館で企画展	瀬戸臨海実験所
2023年3月24日	11面	京都新聞	若き科学者課題解決へ糸口 京で「高校生森里海研究ポスター発表会」	フィールド研
2023年3月24日	3面	電波新聞	芦生研究林の保全など促進 KDDI、京大が包括連携協定	芦生研究林

教職員に関する記事

年月日	掲載面	掲載紙	タイトル	教職員
2022年5月14日	大阪夕刊 5面	日本経済新聞	タラバガニはカニじゃないの?—姿はそっくりだけどヤドカリの仲間だよ(親子スクール理科学)	朝倉 彰
2022年5月21日	京都夕刊 21面	毎日新聞	大規模風力発電事業:大規模風力発電 設計原案作り意見交換、住民と7月以降 企業、懇談会で表明 /京都	徳地 直子
2022年7月1日	--	AXIS vol.218	窒素循環からみんなで共に考える、私たちの未来のありうべき環境	
2022年5月7日	22面	京都新聞	潜って20年、増える南の魚。舞鶴湾にガンガゼ、ミノカサゴ・・・水産資源減に懸念	益田 玲爾
2022年7月24日	丹波・丹後版 25面	毎日新聞	講演:「魚の心とつながって」 京大水産実験所長・益田さん講演、舞鶴湾の生物多様性強調	
2022年7月30日	夕刊1面	京都新聞	「磯焼け」拡大しませんよウニ 有効活用向け本腰 産・学・漁業者スクラム	
2022年9月23日	25面	読売新聞朝刊 福井版	[越前若狭の海](3)カラフル 季節来遊魚	
2022年7月13日	--	水産経済新聞	「うな井の未来9」開催 養殖物、汽水域に定着せず 放流2か月で100%消失	三田村 啓理
2022年6月25日	5面	京都新聞 滋賀版	第64次南極観測隊 隊員64人が決まる 昭和基地へ11月出発	市川光太郎

2021年5月27日	38号	京都府漁協だより	日本海のさかなの話～最新の魚類学研究から～「アイナメのなかま」	甲斐嘉晃
2021年8月1日	39号	京都府漁協だより	日本海のさかなの話～最新の魚類学研究から～「ハモのなかま」	
2021年11月25日	40号	京都府漁協だより	日本海のさかなの話～最新の魚類学研究から～「コイのなかま」	
2023年1月1日	41号	京都府漁協だより	日本海のさかなの話～最新の魚類学研究から～「ヒメジのなかま」	
2022年6月16日	4面	京都大学新聞	瀬戸臨海創立100周年と池田博士とサナダムシ	後藤 龍太郎
2022年9月25日	26面	読売新聞 千葉版朝刊	スナモグリ 新種を発見 海底から採泥器で採取 県立中央博物館＝千葉	邊見 由美
2022年10月20日	21面	毎日新聞 京都版朝刊	スナモグリの新種発見 舞鶴沖海底で京大助教授「近海にも未知の生物」	
2022年5月号	p.49-51	月刊養殖ビジネス	養殖技術講座:明日から使える! 魚類心理学 第10回 シマアジは他者の何を見て学ぶのか? 他者の振る舞いを代理報酬とした社会学習	高橋宏司
2022年7月号	p.57-59	月刊養殖ビジネス	養殖技術講座:明日から使える! 魚類心理学 第11回 魚類における映像モデルの社会学習 テレビを見て学習するマダイ	
2022年9月号	p.51-54	月刊養殖ビジネス	養殖技術講座:明日から使える! 魚類心理学 第12回 エサやりを簡略化する自発摂餌 自分でエサをとることを覚える魚たち	
2023年1月号	p.51-53	月刊養殖ビジネス	養殖技術講座:明日から使える! 魚類心理学 第13回 魚は色が見えるのか? 学習を利用してマアジの色彩心理を探る	
2023年3月号	p.64-67	月刊養殖ビジネス	養殖技術講座:明日から使える! 魚類心理学 第14回 魚の見分け能力 弁別学習で魚の視覚を探る	
2022年12月1日	4面	京都大学新聞	深海で落ち葉を利用 イノメの生態を解明	山守 瑠奈

(8) テレビ・ラジオ等で放送された番組

年月日	放送局	番組名・内容等	キーワード・教職員等
2022年4月13日	関西テレビ	世界の何だコレ!?ミステリーSP (浜名湖に巨大生物!? / 仰向けの金魚)	益田 玲爾
2022年4月14日	NHK和歌山 テレビ	白浜町 京都大学白浜水族館で「生物学者のひみつ道具展」(企画展紹介)	中野 智之
2022年6月15日	FMまいづる ラジオ	ななこちゃったラジオ (トーク (あなたにとってのルーツとは?))	益田 玲爾
2022年9月23日	読売テレビ	かんさい情報ネット ten.×ウェークアップ「関西大自然満喫SP」(中谷アナが行く! 京都・美山～秋の大自然満喫旅～)	芦生研究林
2022年9月25日	BSフジ テレビ	ガリレオX キモスゴ! ハリガネムシの世界	芦生研究林
2022年9月27日	NHK大阪 テレビ	(おひるのニュース) (甲殻類の新種「ワカサスナモグリ」舞鶴沖で発見 京大助教授)	邊見 由美
2022年10月11日	NHK総合 テレビ	クローズアップ現代 (「食卓から消えた魚はどこへ? 魚の大移動に迫る世界初の魚の地図」)	益田 玲爾
2022年10月11日	和歌山テレビ	6wakaイブニング (紀南の海が未来を変える「わかやま海守り隊」～前編～)	白浜水族館
2022年10月14日	FMまいづる ラジオ	ななこちゃったラジオ (舞鶴水産実験所設置50周年記念シンポジウム)	鈴木 啓太
2022年10月25日	和歌山テレビ	6wakaイブニング (紀南の海が未来を変える「わかやま海守り隊」～後編～)	白浜水族館
2022年11月6日	NHK総合 テレビ	NHKスペシャル「超・進化論」((1)「植物からのメッセージ～地球を彩る驚異の世界～」)	芦生研究林
2022年11月25日	BSテレ東 テレビ	ビビるとさくらとトモに深掘り! 知るトビラ (育て! 未来の科学の子 京都光華女子大学「女子中高生の理系進路選択」)	上賀茂試験地 赤石 大輔
2022年12月8日	読売テレビ	す・またん (イマコレMITENA:「関西のオススメ水族館4」)	白浜水族館
2022年12月29日	NHKBSプレミアム テレビ	NHKスペシャル「超・進化論」特別版 ((1)「植物からのメッセージ～地球を彩る驚異の世界～」)	芦生研究林
2022年12月29日	KBS京都 ラジオ	笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ (「里海の不思議と魅力」)	舞鶴水産実験所 益田玲爾
2023年1月6日	BS朝日 テレビ	梅雀さん SDGsってなあに? (「林業が担うSDGs」)	和歌山研究林 長谷川 尚史
2023年1月7日	NHK総合 テレビ	NHKスペシャル「超・進化論」生きもの「超・進化論」ワールド ～キッズ&ティーンズ特別編	芦生研究林
2023年1月28日	NHK BS4K テレビ	沖縄の海 “幻のジュゴン”を追う (ジュゴンの音響観察)	市川 光太郎
2023年2月5日	eo光チャンネル	さかなのおにいさん かわちんの水中調査隊 (冬の海に熱帯魚? 和歌山県・白浜の海を隊員と調査!)	瀬戸臨海実験所 加藤技術長

(9)各施設利用者数

(2022年度)

(単位：人)

(所属) (目的)	京都大学					他大学				
	教育		研究		その他	教育		研究		その他
	教職員等	学生	教職員等	学生		教職員等	学生	教職員等	学生	
芦生研究林	222	318	717	593	96	29	145	94	162	7
北海道研究林標茶区	427	364	1,598	46	26	23	153	45	57	1
北海道研究林白糠区	35	20	16	0	0	0	0	2	1	0
和歌山研究林	82	17	45	84	19	0	2	2	49	0
上賀茂試験地	160	235	209	177	13	30	368	92	114	1
徳山試験地	0	0	0	0	41	0	0	0	0	0
北白川試験地	293	401	1,483	885	37	0	0	2	0	1
紀伊大島実験所	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0
舞鶴水産実験所	33	75	234	2,589	32	34	193	98	85	1
瀬戸臨海実験所	235	290	73	2,982	19	71	470	85	135	0
計	1,487	1,720	4,375	7,356	296	187	1,331	420	603	11

(所属) (目的)	研究教育機関等			一般			合計
	教育	研究	その他	教育	研究	その他	
芦生研究林	72	69	26	140	348	3,224	6,262
北海道研究林標茶区	137	27	1	36	49	19	3,009
北海道研究林白糠区	0	0	0	9	8	14	105
和歌山研究林	106	3	0	13	34	50	506
上賀茂試験地	25	69	215	78	202	339	2,327
徳山試験地	5	0	0	71	0	55	172
北白川試験地	0	45	0	5	5	43	3,200
紀伊大島実験所	0	0	0	0	0	0	13
舞鶴水産実験所	186	75	44	32	26	51	3,788
瀬戸臨海実験所	312	59	81	55	118	108,209	113,194
計	843	347	367	439	790	112,004	132,576

(10)瀬戸臨海実験所附属水族館 月別入館者数

(2022年度)

(単位：人)

月	有料入館者数							有料入館者 徴収金額計 (円)	無料 入館者 数	入館者 数 計	(参考) 前年度有料 入館者数計
	個人		団体		障害者		計				
	大人	小人	大人	小人	大人	小人					
4月	4,683	864	203	22	89	24	5,885	3,150,100	1,170	7,055	3,728
5月	6,072	944	57	0	131	28	7,232	3,939,600	1,873	9,105	3,932
6月	4,558	494	237	0	112	14	5,415	3,027,650	1,305	6,720	3,284
7月	6,769	1,483	56	0	128	26	8,462	4,463,100	2,192	10,654	6,738
8月	9,397	2,692	20	35	152	78	12,374	6,288,150	2,499	14,873	13,208
9月	6,476	654	0	0	119	21	7,270	4,085,000	1,651	8,921	5,156
10月	5,703	612	43	19	133	24	6,534	3,647,450	2,056	8,590	4,934
11月	7,359	812	198	0	187	62	8,618	4,798,850	2,436	11,054	5,643
12月	5,429	845	0	25	130	22	6,451	3,504,950	1,184	7,635	6,913
1月	5,001	871	6	14	100	24	6,016	3,238,800	1,195	7,211	5,573
2月	4,428	475	0	0	112	12	5,027	2,815,200	1,373	6,400	3,531
3月	6,845	1,303	36	0	146	25	8,355	4,471,450	1,592	9,947	7,094
計	72,720	12,049	856	115	1,539	360	87,639	47,430,300	20,526	108,165	69,734

(臨海実習等で実験所を利用した学生や教員、ならびに外来研究者等の来訪者は含まない。)

(11) 人事異動 (2022年度)

氏名	新職名	旧職名	異動年月日
山下 洋	海洋生態系部門 海洋生物環境学分野 特任教授	研究推進部門 連携教授 (森里海連環学教育研究ユニット特任教授)	2022. 4. 1
松岡 俊将	森林生態系部門 森林情報学分野 助教	日本学術振興会特別研究員PD	〃
中川 光	里域生態系部門 里海生態保全学分野 特任助教	東南アジア地域研究研究所 特定助教	〃
横部 智浩	森林生態系部門 森林情報学分野 特任助教・研究員	森林生態系部門 森林情報学分野 研究員	〃
大庭 ゆりか	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員	森里海連環学教育研究ユニット 特定助教	〃
友尻 大幹	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員	研究推進部門・連携研究員 (森里海連環学教育研究ユニット 特定研究員)	〃
亀岡 大真	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員	研究推進部門・連携研究員 (森里海連環学教育研究ユニット 特定研究員)	〃
山中 結子	海洋生態系部門 海洋生物環境学分野 研究員		〃
池端 建吾	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員		〃
中川 智之	和歌山研究林 技術班長 技術専門員	北海道研究林 技術班長 技術専門員	〃
勝山 智憲	芦生研究林 技術班長 技術専門職員	和歌山研究林 技術主任 技術専門職員	〃
岡部 芳彦	北海道研究林 技術班長 技術専門職員	芦生研究林 技術班長 技術専門職員	〃
北川 陽一郎	芦生研究林 技術主任 技術専門職員	芦生研究林 技術職員	〃
原田 桂太	瀬戸臨海実験所 技術主任 技術専門職員	瀬戸臨海実験所 技術職員	〃
山中 公	北白川試験地 技術職員	北海道研究林 技術職員	〃
尾田 直之	事務長	教育推進・学生支援部 教務企画課課長補佐	〃
川俣 昭	総合博物館 事務掛長	事務室 経理総括掛長 (フィールド科学教育研究センター経理総括掛) 兼 芦生研究林事務掛長	〃
大槻 博也	吉田南構内共通事務部 総務課 総務掛員	事務室 事務主任 (フィールド科学教育研究センター経理総括掛)	〃
福島 慎吉	事務室 経理総括掛長 (フィールド科学教育研究センター経理総括掛) 兼 芦生研究林事務掛長	生態学研究センター 経理掛長	〃
若林 潤一郎	北海道研究林事務掛長	北部構内事務部 管理課管理掛長	〃
安井 正	瀬戸臨海実験所事務掛 専門職員	北海道研究林事務掛長	〃
新井 宏受	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員		2022. 4. 16
中川 光	退職 (国立研究開発法人 土木研究所 自然共生研究センター 専門研究員に着任)	里域生態系部門 里海生態保全学分野 特任助教	2022. 4. 30
友尻 大幹	退職	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員	〃
杉山 賢子	森林生態系部門 森林情報学分野 助教		2022. 5. 1
牧野 奏佳香	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員	森林生態系部門 森林育成学分野 教務補佐員	〃
新井 宏受	退職 (生態学研究センターに着任)	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員	2022. 5. 31
山中 結子	退職	海洋生態系部門 海洋生物環境学分野 研究員	〃

宮 城 祐 太	芦生研究林 技術職員	北海道研究林 技術職員	2022. 8. 1
木 本 恵 周	北海道研究林 技術職員	芦生研究林 技術職員	〃
横 部 智 浩	森林生態系部門 森林情報学分野 特任助教・特定研究員(新しい里山・里海 共創プロジェクト)		2022. 9. 1
亀 岡 大 真	退職(国際農林水産業研究センター JIRCAS に着任)	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員	2022. 9. 30
牧 野 奏 佳 香	退職(総合地球環境学研究所 に着任)	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員	〃
赤 石 大 輔	研究推進部門 森里海連環学分野 特定講師	森林生態系部門 森林情報学分野 特定助教	2022.10. 1
邊 見 由 美	里域生態系部門 里海生態保全学分野 助教(常勤)	里域生態系部門 里海生態保全学分野 助教(テニュアトラック:京都大学若手重点戦略定員事業)	〃
徳 地 直 子	紀伊大島実験所長 免		〃
甲 斐 嘉 晃	紀伊大島実験所長		〃
大 橋 健 太	上賀茂試験地 技術班長 技術専門職員	和歌山研究林 技術主任 技術専門職員	〃
Omweri, Justus Ooga	退職	海洋生態系部門 海洋生物環境学分野 研究員	2022.11. 30
May Thet Su Kyaw Tint	森林生態系部門 森林育成学分野 特定助教		2022.12. 1
朝 倉 彰	企画情報室長 免		〃
三 田 村 啓 理	企画情報室長		〃
長 谷 川 尚 史	企画情報室 副室長		〃
伊 藤 岳	里域生態系部門 里海生態保全学分野 特任助教・特定研究員(新しい里山・里海 共創プロジェクト)	大阪公立大学 理学研究科 特任教員	2023. 3. 1
赤 石 大 輔	退職	研究推進部門 森里海連環学分野 特定講師	2023. 3. 31
May Thet Su Kyaw Tint	退職(任期満了)	森林生態系部門 森林育成学分野 特定助教	〃
河 村 真理子	退職	海洋生態系部門 基礎海洋生物学分野 研究員	〃

(12) 規程の改正等

森林系図書委員会内規の廃止及びフィールド研図書委員会内規の制定(2022年7月13日教授会で承認・2022年4月1日適用)

瀬戸臨海実験所水族館観覧規程の改正(2022年9月14日教授会で承認・2022年10月1日施行)

フィールド科学教育研究センター内部組織に関する内規の一部改正(施設長等の任期の規定を追加。2022年11月9日教授会で承認・2022年4月1日適用)

フィールド科学教育研究センター内部組織に関する内規の一部改正(補欠のセンター長の任期の規定を追加。2022年12月14日教授会で承認・2023年4月1日適用)

京都大学フィールド科学教育研究センター本部乗用公用車使用要項の改正(2023年1月11日教授会で承認・2023年4月1日適用)

京都大学フィールド科学教育研究センター 年報 第20号
2023年 12月28日発行

発 行 京都大学フィールド科学教育研究センター
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

印 刷 株式会社北斗プリント社
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2

